

# 本書の構成

---

## 本書をお読みになる前に

本書で使用している表記について説明しています。

---

## 第1章 概要とシステム要件

この章では、REMCS エージェントの機能概要、センタへの接続形態について説明しています。また、REMCS エージェントを使用するためのシステム要件についても説明しています。

---

## 第2章 サービス開始前の準備

この章では、SNMP サービス、REMCS エージェントのインストール方法を説明しています。これらのソフトウェアをインストールすることで、REMCS のサポートサービスを開始できるようになります。

---

## 第3章 サービスの開始

この章では、サービスを開始する手順について説明しています。センタへの接続形態別にサービスの開始手順が異なります。

---

## 第4章 障害発生時の対応

この章では、障害発生時の対処方法について説明します。  
装置に異常が発生したり、ネットワーク環境でトラブルが発生したりした場合は、内容に応じて保守作業を行います。

---

## 第5章 REMCS エージェントのトラブルシューティング

この章では、REMCS エージェントに関するトラブルとその対処方法、環境チェックツールの使い方について説明しています。

---

## 付録

この章では、旧サーバ機種をお使いの場合のサポート情報について説明しています。

---

# 本書をお読みになる前に

## ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 <b>重要</b>	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

## ■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

## ■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を以下のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ・ ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- ・ 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ・ ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- ・ CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROM ドライブ] :¥setup.exe
```

## ■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

## ■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

表：製品名称の略称

製品名称	本文中の表記
リモートサービスボード (PG-RSB101)	RSB (PG-RSB101)
リモートサービスボード (PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB103L / PG-RSB104)	RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104)
RSB (PG-RSB101)、RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) を示す場合	リモートサービスボード、または RSB
サーバマネージメントアシストボード	SMB
PRIMERGY BX300、PRIMERGY BX600、PRIMERGY BX660、PRIMERGY BX620 S2	ブレードサーバ
PRIMERGY TX200FT、PRIMERGY TX150FT S2、PRIMERGY TX200FT S2、PRIMERGY TX150FT S4	FT モデル
Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows Server™ 2003, Datacenter Edition Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition for Itanium-Based Systems Microsoft® Windows Small Business Server 2003	Windows 2003
Microsoft® Windows® 2000 Server Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server Microsoft® Windows® 2000 Datacenter Server	Windows 2000
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0 Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT
Microsoft® Windows Server™ 2003 Service Pack Microsoft® Windows® 2000 Service Pack Microsoft® Windows NT® Service Pack	Service Pack
Intel® LANDisk® Server Manager	LDSM

### ● Endurance ソフトウェアの表記 (Windows 2000 Server の場合)

Windows 2000 Server タイプでは、本書における Endurance ソフトウェアの表記「FTvirtual Server」が、実際の表記と若干異なります。

## ■ Linux をお使いの方へ

Linux 版 REMCS エージェントの運用ガイドは、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD または REMCS エージェント CD-ROM の以下に html 形式で格納されています。Web ブラウザにて参照してください。

[CD-ROM ドライブ] : Remcs¥Linux¥doc¥usrguide

## ■ 商標

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

Endurance、Marathon Assured Availability、SpiteSite、Marathon FTvirtual Server および Marathon ロゴは、Marathon Technologies Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

# 目次

## 第1章 概要とシステム要件

<b>1.1 REMCSエージェントの機能</b> .....	<b>10</b>
1.1.1 特長 .....	10
1.1.2 機能 .....	11
<b>1.2 REMCSセンタとの接続形態</b> .....	<b>12</b>
1.2.1 インターネット接続 .....	12
1.2.2 インターネット接続（メール） .....	12
1.2.3 P-P 接続（ISDN） .....	13
1.2.4 P-P 接続（ISDN: メール） .....	13
1.2.5 P-P 接続（VPN） .....	13
1.2.6 P-P 接続（VPN: メール） .....	14
<b>1.3 必要なシステム</b> .....	<b>15</b>
1.3.1 動作環境 .....	15
<b>1.4 留意事項</b> .....	<b>18</b>
1.4.1 ブレードサーバをご使用の場合 .....	18
1.4.2 メンテナンス区画にドライブ名が割り当てられた場合 .....	18
1.4.3 システムディスクをコピーして他のサーバシステムを構築する場合 .....	20
1.4.4 OS を再インストールする場合 .....	22
1.4.5 エラー通知について .....	22
1.4.6 リモート操作による運用について .....	23
1.4.7 ポート番号を使用するプロセスの種類 .....	24
1.4.8 夏時間切り替え時の定期接続時刻について .....	25
1.4.9 SAN ブート環境の場合 .....	25

## 第2章 サービス開始前の準備

<b>2.1 サービス開始までの流れ</b> .....	<b>28</b>
2.1.1 一般サーバの場合 .....	28
2.1.2 ブレードサーバの場合 .....	29
2.1.3 FT モデルの場合 .....	30
<b>2.2 SNMPサービスのインストール</b> .....	<b>31</b>
2.2.1 Windows 2003 の場合 .....	31
2.2.2 Windows 2000 の場合 .....	32
2.2.3 Windows NT の場合 .....	33
<b>2.3 REMCSエージェントのインストール</b> .....	<b>35</b>
2.3.1 REMCS エージェントのインストール .....	35

## 第3章 サービスの開始

<b>3.1 インターネット接続の場合</b> .....	<b>40</b>
3.1.1 レジストレーション .....	40

3.1.2 環境設定 .....	46
<b>3.2 インターネット接続（メール）／ P-P 接続（ISDN：メール）／     P-P 接続（VPN：メール）の場合 .....</b>	<b>52</b>
3.2.1 レジストレーション .....	52
3.2.2 環境設定 .....	58
<b>3.3 P-P 接続（ISDN）の場合 .....</b>	<b>64</b>
3.3.1 レジストレーション .....	64
3.3.2 環境設定 .....	69
<b>3.4 P-P 接続（VPN）の場合 .....</b>	<b>74</b>
3.4.1 レジストレーション .....	74
3.4.2 環境設定 .....	79
<b>3.5 RSB（PG-RSB102／ PG-RSB103(L)／ PG-RSB104）の設定 .....</b>	<b>84</b>
3.5.1 ネットワーク設定 .....	85
3.5.2 アラート通報設定 .....	86
<b>3.6 サーバダウン監視の設定 .....</b>	<b>90</b>
3.6.1 一般サーバの場合 .....	90
3.6.2 ブレードサーバの場合 .....	91
<b>3.7 POST 監視／ OS ブート監視の設定 .....</b>	<b>92</b>
3.7.1 一般サーバの場合 .....	92
3.7.2 ブレードサーバの場合 .....	92
<b>3.8 サービス開始後の設定変更 .....</b>	<b>93</b>
3.8.1 レジストレーションの変更 .....	93
3.8.2 環境設定の変更 .....	93
<b>3.9 オンラインアップデート .....</b>	<b>98</b>
3.9.1 ファームウェアのアップデート .....	98
3.9.2 REMCS エージェントのアップデート .....	101
<b>3.10 REMCS センタとの接続停止／再開 .....</b>	<b>102</b>
3.10.1 REMCS センタとの接続を停止する .....	102
3.10.2 REMCS センタとの接続を再開する .....	102
<b>3.11 構成情報送信 .....</b>	<b>103</b>
<b>3.12 接続確認 .....</b>	<b>104</b>

## 第 4 章 障害発生時の対応

<b>4.1 障害発生について .....</b>	<b>106</b>
4.1.1 通知される主な障害 .....	106
4.1.2 サーバに表示されるメッセージ .....	107
<b>4.2 保守作業の開始／終了 .....</b>	<b>108</b>
4.2.1 保守作業開始の通知 .....	108
4.2.2 保守作業終了の通知 .....	108
<b>4.3 ソフトウェア調査資料の収集・送信 .....</b>	<b>109</b>
4.3.1 SIMRS を起動する .....	110
4.3.2 調査資料を一括収集・送信する .....	111
4.3.3 調査資料を個別収集・送信する .....	114

4.3.4 QSS 収集ツールを一覧表示する	117
<b>4.4 FTvirtual Server のソフトウェア調査資料の収集・送信</b>	<b>119</b>
<b>4.5 調査資料の管理</b>	<b>121</b>
4.5.1 収集結果を一覧表示する	122
<b>4.6 SIRMS の環境設定</b>	<b>126</b>
4.6.1 ユーザー設定管理	127
4.6.2 収集ツール配置パス管理	129
4.6.3 QSS 収集ツールの追加	131

## 第 5 章 REMCS エージェントのトラブルシューティング

<b>5.1 インストール時のトラブル</b>	<b>134</b>
5.1.1 トラブルと対処方法	134
5.1.2 メッセージと対処方法	134
5.1.3 スクリプト実行時間の設定について	136
<b>5.2 サービス開始時のトラブル</b>	<b>137</b>
5.2.1 トラブルと対処方法	137
5.2.2 メッセージと対処方法	138
<b>5.3 運用操作メニューのトラブル</b>	<b>144</b>
5.3.1 運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法	144
5.3.2 メッセージと対処方法	146
<b>5.4 その他のトラブル</b>	<b>155</b>
5.4.1 アンインストール時のトラブル	155
<b>5.5 REMCS エージェント環境チェックツール</b>	<b>157</b>
5.5.1 REMCS エージェント環境チェックツールとは	157
5.5.2 チェックツールの起動	157
5.5.3 使用方法－SMTP チェック	159
5.5.4 使用方法－HTTP チェック	161
5.5.5 資料収集	162
5.5.6 注意事項	164
<b>5.6 REMCS エージェントのバージョン確認</b>	<b>165</b>
<b>5.7 REMCS エージェントのアンインストール</b>	<b>166</b>

## 付 録

<b>A REMCS エージェントの上書きインストール</b>	<b>170</b>
A.1 一般サーバ、ブレードサーバの場合	170
A.2 FT モデルでの REMCS エージェント上書きインストール	171
<b>B ソフトウェア調査資料の収集と送信 (SIRMS バージョン 1 の場合)</b>	<b>173</b>
B.1 製品名一覧から資料を収集する	174
B.2 ファイル名を指定して資料を収集する	175
B.3 調査資料の保存場所	176
B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する	177
B.5 調査資料の管理	179
<b>C SMB に関する操作</b>	<b>182</b>

C.1 H200 / N400 をお使いの場合（メンテナンス区画の変換）	182
C.2 SMB ドライバの起動	182
C.3 サービス開始時の設定	184
<b>D Servervisor / LDSM のインストール、アンインストール</b>	<b>191</b>
D.1 インストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合	191
D.2 インストール V6.0 L10A/20/30 の場合	194
D.3 アンインストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合	196
D.4 アンインストール V6.0 L10A/20/30 の場合	197
<b>E CE設定</b>	<b>199</b>
<b>F OSイベントログに出力される通知情報</b>	<b>200</b>

## 第 1 章

# 概要とシステム要件

この章では、REMCS エージェントの機能概要、および REMCS エージェントを使用するためのシステム要件について説明しています。

1.1	REMCS エージェントの機能 .....	10
1.2	REMCS センタとの接続形態 .....	12
1.3	必要なシステム .....	15
1.4	留意事項 .....	18

## 1.1 REMCS エージェントの機能

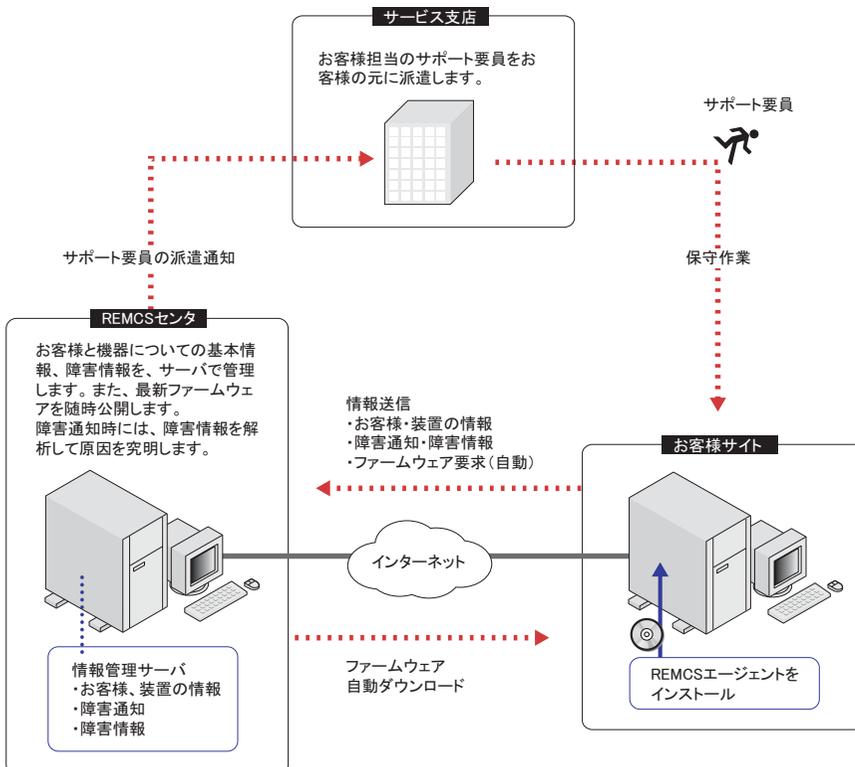
REMCS エージェントは、REMCS（リモート顧客サポートシステム）を利用するためのソフトウェアです。

ここでは、REMCS エージェントの特長と機能について説明します。

### 1.1.1 特長

弊社は、お客様のサーバで発生した障害などに迅速に対応するために、REMCS（リモート顧客サポートシステム）を提供しています。このシステムは、お客様のサーバと弊社 REMCS センタをインターネット経由で接続し、情報の収集や最新版プログラムへのアップデートなどを行います。

REMCS エージェントは、REMCS を利用するためのソフトウェアです。お客様のサーバにインストールすることで、サーバの情報収集や REMCS センタへの情報送信などを行います。



## ■ REMCS および REMCS エージェントを利用するメリット

- 迅速、的確なサポート**  
 REMCS エージェントは、お客様のサーバの最新情報を定期的に REMCS センタに送信します。そのため、電話や Fax によるサポートと比べ、迅速で的確なサポートを受けることができます。特に、障害発生時には、原因究明に必要な情報が REMCS センタに送信されるため、サポート要員に詳細な説明をすることなく、的確な処置を受けることができます。
- 修正プログラムの自動受信、適用**  
 REMCS エージェントは、サーバの最新ファームウェアや REMCS エージェント自身の修正プログラムを、REMCS センタからダウンロードします。  
 ファームウェアの適用は、お客様がサーバの電源を入れ直した際に自動的に行われます。これにより、サーバを常に最新の状態に保つことができます。

### 1.1.2 機能

REMCS エージェントの機能は、次のとおりです。

表：REMCS エージェントの機能

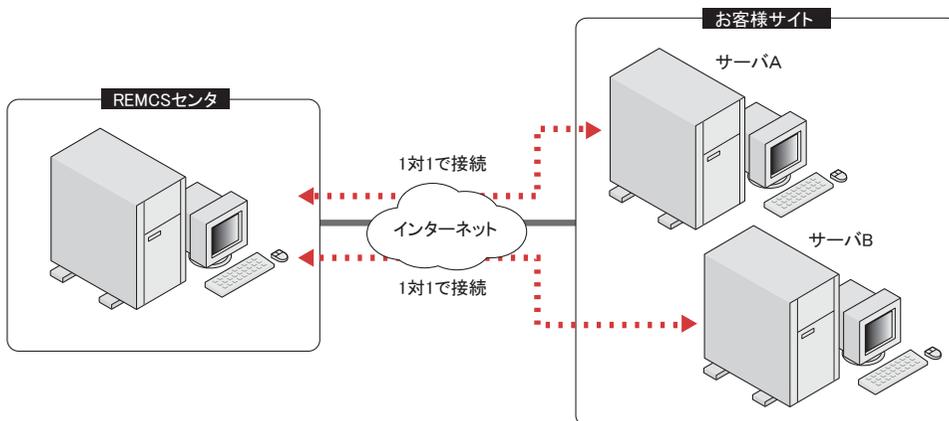
機能名	説明
ファームウェア受信	手動、または自動（定期接続）で、REMCS センタに登録されている最新ファームウェアを受信します。
ファームウェア適用	受信したファームウェアをサーバに適用します。システム環境により、以下のいずれかの適用方法が自動的に選択されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>メンテナンス区画適用</b>                電源を入れたあとで、システムディスク上のメンテナンス区画から起動してファームウェアを適用します。RSB（PG-RSB101）とメンテナンス区画があるときに選択されます。                なお、メンテナンス区画の詳細は、『ソフトウェアガイド』を参照してください。             </li> <li> <b>フロッピーディスク適用</b>                REMCS エージェントの「運用操作」メニューで「ファームウェア適用フロッピーディスク」を作成し、作成したディスクから起動してファームウェアを適用します。RSB（PG-RSB101）、メンテナンス区画がないときに選択されます。             </li> </ul>
REMCS エージェントの保守	REMCS エージェントのアップデートを行います。
構成情報監視	ハードウェアやソフトウェアの構成変更を検出し、最新の構成情報を REMCS センタに送信します。
障害通知	サーバに異常が発生した場合に、REMCS センタに異常を通知するとともに、ログやメモリダンプ情報などの障害情報を REMCS センタに送信します。
定期接続	あらかじめ設定した時刻に自動的に REMCS センタに接続し、ファームウェアの受信、構成情報の送信を行います。

## 1.2 REMCS センタとの接続形態

REMCS センタへの接続形態は、お客様のネットワーク構成やサーバ構成により異なります。接続形態の選択は、「第3章 サービスの開始」(→ P.39)で行います。あらかじめ、どの接続形態で利用するかを決めておきます。

### 1.2.1 インターネット接続

REMCS センタとインターネットを経由して1対1で接続する、標準の接続形態です。通信にはSMTPとHTTPを使用します。

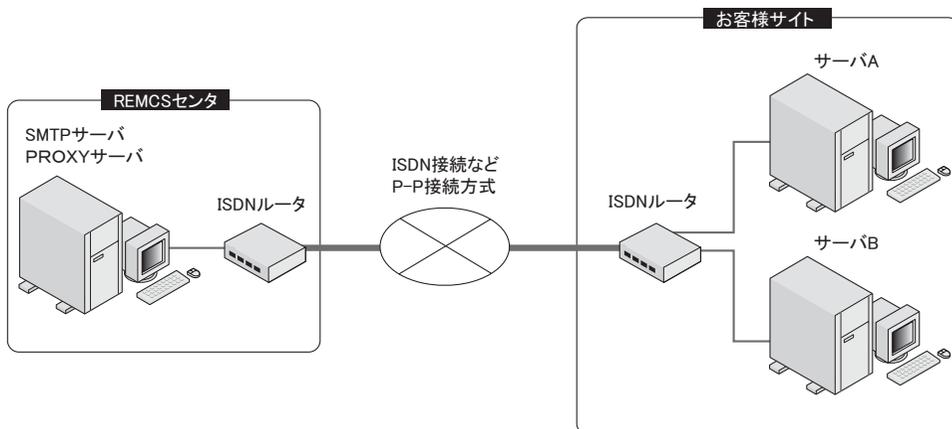


### 1.2.2 インターネット接続 (メール)

「1.2.1 インターネット接続」(→ P.12) 同様、REMCS センタと1対1で接続しますが、通信にはSMTPのみ使用します。そのため、ファームウェア受信機能/エージェントの保守機能は使用できません。

### 1.2.3 P-P 接続 (ISDN)

お客様のサーバと REMCS センタが、ISDN 回線などを用いたポイント・ツー・ポイント (P-P) 方式で接続する接続形態です。

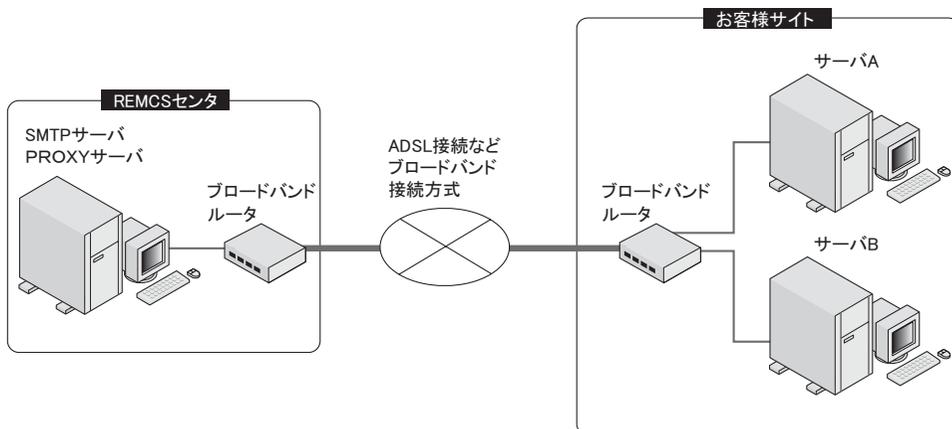


### 1.2.4 P-P 接続 (ISDN: メール)

「1.2.3 P-P 接続 (ISDN)」(→ P.13) 同様、REMCS センタと 1 対 1 で接続しますが、通信には SMTP のみ使用します。そのため、ファームウェア受信機能/エージェントの保守機能は使用できません。

### 1.2.5 P-P 接続 (VPN)

お客様のサーバと REMCS センタが、ADSL などのブロードバンドを用いたポイント・ツー・ポイント (P-P) 方式で接続する接続形態です。



## 1.2.6 P-P 接続 (VPN: メール)

---

「1.2.5 P-P 接続 (VPN)」(→ P.13) 同様、REMCS センタと 1 対 1 で接続しますが、通信には SMTP のみ使用します。そのため、ファームウェア受信機能/エージェントの保守機能は使用できません。

## 1.3 必要なシステム

REMCS エージェントを利用するために必要なシステム要件を説明します。

### 1.3.1 動作環境

REMCS エージェントは、以下の環境で利用できます。

表：REMCS エージェントの動作環境

項目	条件
サーバ本体	REMCS エージェントが添付されている PRIMERGY シリーズ
対応 OS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows Server 2003, Standard Edition</li> <li>Windows Server 2003, Enterprise Edition</li> <li>Windows Server 2003, Datacenter Edition</li> <li>Windows Server 2003, Standard x64 Edition</li> <li>Windows Server 2003, Enterpris x64 Edition</li> <li>Windows Server 2003 R2, Standard Edition</li> <li>Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition</li> <li>Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition</li> <li>Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition</li> <li>Windows Server 2003, Enterprise Edition for Itanium-Based Systems</li> <li>Windows Small Bussiness Server 2003</li> <li>・ Windows 2000 Server (Service Pack 1 以上)</li> <li>Windows 2000 Advanced Server (Service Pack 1 以上)</li> <li>Windows 2000 Datacenter Server (Service Pack 1 以上)</li> <li>・ Windows NT Server 4.0 (Service Pack 6a 以上)</li> <li>(Terminal Server Edition は対応していません)</li> </ul>
ハードディスク空き容量	<p>システムドライブに 120MB 以上 (ソフト調査資料収集用の作業領域として、別途 500MB の空き容量を推奨)</p> <p>[注] ServerView、または Servervisor (LDSM) がインストールされていない場合は、別途インストールのための空き領域が必要です。必要な容量など、詳細は、ServerView の場合は『ServerView ユーザーズガイド』、Servervisor (LDSM) の場合は『ソフトウェアガイド』を参照してください。</p>
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダイアルアップ接続または専用線接続など、インターネット接続環境</li> <li>・ メールサーバ (お客様サイト内)</li> <li>・ ブレードサーバの場合、サーバブレード上にインストールされた REMCS エージェントは、マネージメントブレードと SNMP、SNMP トラップを使用した通信を行います。そのため、サーバブレードとマネージメントブレードが、お互いに SNMP と SNMP トラップで通信できるネットワークに接続されている必要があります。</li> <li>・ FT モデルの場合、REMCS エージェントは、リモートサービスポートを使用して REMCS センタと通信を行います。そのため、リモートサービスポートが REMCS センタと通信できるネットワークに接続されている必要があります。</li> </ul>

表 : REMCS エージェントの動作環境

項目	条件
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザアカウントとして、Administrator 権限が必要です。</li> <li>• ServerView 使用時には、Microsoft Internet Explorer 5 以降がインストールされている必要があります。</li> <li>• メンテナンス区画から起動してファームウェアを適用する場合は、RSB (PG-RSB101) が必要です。</li> <li>• 異常を検知するためには、イベントログが書き込み可能な状態である必要があります。詳細は「1.4.5 エラー通知について」(→ P.22)を参照してください。</li> <li>• ターミナルサービス、リモートデスクトップ等を利用したリモート操作による運用を行う場合は、「1.4.6 リモート操作による運用について」(→ P.23)を参照してください。</li> </ul>

## ■ RSB について

RSB（リモートサービスボード）は、サーバ本体に搭載するオプションカードです。RSB を搭載すると、以下の機能を使用できます。

- REMCS エージェントのファームウェア自動適用サービスをアシストします（RSB（PG-RSB101）のみ）。
- サーバに以下の異常が発生したときに、REMCS センタに通知します。
  - ServerView の起動監視による異常
  - ServerView、または RSB のウォッチドックタイマによる異常

ServerView による各監視設定は、初期状態では無効になっています。有効にする方法については『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

### 重要

- ▶ REMCS エージェントは、SMTP / HTTP を使用してセンタと通信します。インターネット接続（メールのみ）の場合は、SMTP を使用して通信します。ファイアウォールなどでプロトコル制限を実施している場合、センタとの通信に失敗する場合があります。その場合は制限の設定について再度検討してください。
- ▶ Windows 2003 に Service Pack を適用している場合で、Windows Firewall 機能をご利用の場合、デフォルトの設定で使用できません。REMCS エージェントでの設定は必要ありません。
- ▶ RSB / SMB は、POP before SMTP および SMTP-AUTH 認証に対応していません。

## 1.4 留意事項

REMCS エージェントの使用に関して、以下の点に留意してください。

### 1.4.1 ブレードサーバをご使用の場合

リモート通報サービスを運用しているサーバブレードを移動させる場合、移動させた後に REMCS センタに再登録を行う必要があります。

#### ● サーバブレードを同じ筐体の別のスロットに移した場合

再度サービスの開始作業を行ってください。サービス開始手順については、「第3章 サービスの開始」(→ P.39) を参照してください。

#### 重要

- ▶ 再度サービスの開始作業を行う際、「お客様情報の入力」画面の「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。

#### ● サーバブレードを別の筐体に移した場合

REMCS を運用しているサーバブレードを別の筐体に移した場合、サーバブレードが保持している装置識別情報を新筐体のものに変更するため、以下の流れで再度サービスの開始作業を行ってください。

- 1 REMCS エージェントをアンインストールします。  
→ 「5.7 REMCS エージェントのアンインストール」(P.166)
- 2 REMCS エージェントをインストールします。  
→ 「2.3 REMCS エージェントのインストール」(P.35)
- 3 サービスを開始します。  
→ 「第3章 サービスの開始」(P.39)

### 1.4.2 メンテナンス区画にドライブ名が割り当てられた場合

メンテナンス区画にドライブ名が割り当てられた場合は、エクスプローラなどで区画内のファイルを削除、変更しないでください。また、以下の操作を行ってください。

- 1 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) をセットします。

## 2 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

1. [CD-ROM ドライブ] : 【Enter】 キー
2. cd fwutools 【Enter】 キー
3. fwutools -v -h [メンテナンス区画ドライブ名] 【Enter】 キー

コマンド実行後も、メンテナンス区画にドライブ名が割り当てられている場合は、以下の操作後、再度コマンドを実行してください。

なお、サーバに添付されている CD により操作が異なります。あらかじめ、お手元に CD-ROM およびフォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚ご用意ください。

### ● ServerStart CD-ROM の場合

- 1 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
- 2 エクスプローラを起動し、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の "Chgpid" フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3 ServerStart CD-ROM を使用して、ハードウェア構成用ツール起動ディスクを作成します。  
作成方法については、『ソフトウェアガイド』を参照してください。
- 4 ハードウェア構成用ツール起動ディスクをセットし、サーバを起動します。  
メニューが表示されます。
- 5 「Basic(Japanese Environment)」を選択して【Enter】キーを押します。
- 6 手順 2 でコピーしたフロッピーディスクをセットし、以下のコマンドを実行します。
  1. cd chgpid 【Enter】キー
  2. chgpid /B:ON /F:A¥chgpid¥fdboot.bin 【Enter】キー
  3. chgpid B:OFF 【Enter】キー

### ● ServerWizard CD-ROM の場合

- 1 REMCS CD-ROM、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
- 2 エクスプローラを起動し、REMCS CD-ROM の "Chgpid" フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3 ServerWizard CD-ROM をセットし、サーバを起動します。  
「ServerWizard」画面が表示されます。
- 4 [終了] を選択し、【Enter】キーを押します。

5 手順2でコピーしたフロッピーディスクをセットし、以下のコマンドを実行します。

1. B: 【Enter】 キー
2. cd chgpid 【Enter】 キー
3. chgpid /B:ON /F:A¥chgpid¥fdboot.bin 【Enter】 キー
4. chgpid B:OFF 【Enter】 キー

### 1.4.3 システムディスクをコピーして他のサーバシステムを構築する場合

---

リモート保守サービスをご利用の PRIMERGY サーバにおいて、システム構築済みのハードディスクをコピーし、同一のシステムを複数台作成して運用する場合は、以下の点にご注意ください。

#### ■ 装置 ID について

PRIMERGY は、個々のサーバを識別するための装置 ID をハードウェア内で管理しています。REMCS エージェントは、リモート保守サービス開始（レジストレーション処理）時に、その装置 ID をハードディスクから読み込み、サポートセンターに送信します。

レジストレーション処理を行ったシステムのハードディスクには、装置 ID が保存されているため、そのハードディスクをシステム構築マスタとする場合、装置 ID も同時にコピーされます。このまま、このマスタを使用して他のサーバにコピーした場合、複数のサーバが同一の装置 ID をハードディスクに保有することになり、サポートセンターではすべてのサーバが同じサーバと認識してしまい、サービスを正常に運用することができません。

#### ■ システム構築マスタに使用可能な REMCS エージェントのバージョン

システム構築マスタとするハードディスクに REMCS エージェントをインストールする場合は、最新版をご利用ください。

REMCS エージェント for Windows V3.1L17 以前のバージョンでは、インストールした時点で自動的に装置 ID が読み込まれてしまうため、マスタには使用しないでください。

#### ■ システム構築マスタ作成時の注意

REMCS のサービス開始処理は、マスタコピーを行う前には実施しないでください。必ずコピー後にそれぞれのサーバでサービス開始処理を行ってください。

以下の処理を行うと、サービス開始処理が起動され、REMCS エージェントの設定に装置 ID が書き込まれます。ハードディスクのマスタコピーを作成する前には、次の操作は行わないでください。

- デスクトップのレジストレーションアイコンをクリックする。
- 「スタート」メニュー → 「リモートサポートサービス」 → 「レジストレーション」または「運用操作」の順をクリックして起動する。

## ● システム構築済みハードディスクをマスタとしてコピーする場合の作業手順

システム構築済みハードディスクをマスタとしてコピーして複数のサーバを構築する場合は、以下の作業の流れで REMCS のインストール、およびサービス開始処理を行ってください。

- 1 マスタとなるサーバでシステムを構築  
REMCS エージェントのインストールを行ってください。
- 2 構築したシステムのハードディスクをコピーツールなどでコピーし、複数のサーバを構築
- 3 マスタをコピーして構築したサーバそれぞれで、ホスト名などを設定
- 4 マスタをコピーして構築したサーバそれぞれで、REMCS エージェントのサービス開始処理を実行

## ■ 装置 ID の削除方法

装置 ID を削除する場合は、以下の手順を行ってください。

- 1 システムドライブの "Program Files\Fujitsu\WASH\_ME\CollectData\\*" フォルダ配下のファイルをすべて削除します。
- 2 システムドライブの "Program Files\Fujitsu\F5ep00Evan\rm\_Cancel.exe" を実行します。  
以下のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。



- 3 以下のレジストリキー配下のレジストリ値を削除してください。

### 32 ビット OS の場合

- ・レジストリキー :HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu
- ・レジストリ値 :SYSTEMID

### 64 ビット OS の場合

- ・レジストリキー :HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWAREWow6432Node\Fujitsu
- ・レジストリ値 :SYSTEMID

### 重要

- ▶ 誤って別のレジストリキーを削除しないように注意してください。
- ▶ レジストレーション時に装置 ID を手入力した場合、上記のレジストリ値は存在しません。

## 1.4.4 OSを再インストールする場合

---

REMCSを運用している装置において、お客様側でOSを再インストールしたときには、OS再インストール後に再度REMCSエージェントをインストールする必要があります。  
REMCSエージェントの再インストール、または運用開始までに時間があく場合に、センタ側では装置が正しく運用されていないとして、お客様にお電話を差し上げる場合がございます。

### 1 REMCSセンタとの接続を停止します。

停止方法については、「3.10.1 REMCSセンタとの接続を停止する」(→P.102)を参照してください。

### 2 OS、REMCSエージェントを再インストールします。

グループポリシー画面が起動します。

### 3 サービスの開始を行います。

「第3章 サービスの開始」(→P.39)を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

## 1.4.5 エラー通知について

---

REMCSエージェントによるエラーの通知は、イベントログを経由して行っています。イベントログがFULLで書き込みができない状態の場合、異常を検知することができません。あらかじめイベントログに書き込みができる状態かどうかを確認してください。

### POINT

- ▶ 書き込みができない状態になるのを防止するため、次の手順で、イベントログを上書き保存する設定にしておくことを推奨します。
  1. イベントビューアを起動します。
  2. システムログのプロパティを開きます。
  3. 「最大ログサイズ」を16000KB(16MB)以上に設定します(サーバ用途の推奨値)。
  4. 「ログサイズが最大値に達したときの操作」を「必要に応じてイベントを上書きする」に設定します。
  5. アプリケーションログについても同様の設定を行います。

## 1.4.6 リモート操作による運用について

ターミナルサービス、リモートデスクトップを利用したリモート操作では、アプリケーションサーバモード（Windows 2003 の場合ターミナルサーバモード）、リモート管理モード（Windows 2003 の場合管理用リモートデスクトップ）における操作をサポートします。運用を行う場合は、以下の留意事項を必ずご確認の上操作してください。

### ● ターミナルサービスサーバのサポート OS

ターミナルサービスサーバの OS として、以下をサポートします。ターミナルサービスサーバとは、REMCS エージェントをインストールする対象装置です。

- Windows 2000 Server
- Windows 2000 Advanced Server
- Windows 2000 Datacenter Server
- Windows Server 2003、Standard Edition
- Windows Server 2003、Enterprise Edition
- 64 ビットバージョン Windows Server 2003、Enterprise Edition

### ● ターミナルサービスクライアントのサポート OS

リモート操作を行う端末の OS として、以下をサポートします。

- Windows 2000 Workstation
- Windows XP Professional
- Windows 2000 Server
- Windows 2000 Advanced Server
- Windows 2000 Datacenter Server
- Windows Server 2003、Standard Edition
- Windows Server 2003、Enterprise Edition
- 64 ビットバージョン Windows Server 2003、Enterprise Edition

### ● ネットワーク構成の注意点

ターミナルサービスをアプリケーションサーバモードで利用する場合は、ドメインコントローラとして構成しないでください。ターミナルサーバは、メンバサーバもしくはスタンダアロンサーバとして構成してください。

### ● REMCS エージェントインストール時の注意事項

必ずローカルでログオンしてインストールを行ってください。ターミナルサービスを使用してリモートでインストールすることはできません。また、インストールするときは、事前にターミナルサービスを利用しているクライアントに通知し、接続を中断してください。

### ● REMCS エージェント再インストールの要件

以下の場合は、REMCS エージェントを再インストールしてください。

- REMCS エージェントのインストール後、アプリケーションサーバモードとリモート管理モードを切り替えた場合

- REMCS エージェントのインストール後、ターミナルサービスの有効／無効を切り替えた場合
- REMCS エージェントのインストール後、ターミナルサービスコンポーネントをアンインストールした場合

● 未サポート事項について

- ローカルユーザー、リモートユーザーにかかわらず、複数ユーザーからの同時操作はサポートしていません
- リモート操作でのエージェント保守・ファームウェアの適用処理はサポートしていません。

## 1.4.7 ポート番号を使用するプロセスの種類

REMCS センタにイベントを送信する際に使用しているポートについて、お使いのウイルス対策用ソフトウェアにファイアウォール機能がある場合は、イベント送信時にエラーが発生します。ポートごとに使用するプロセス名を設定することで回避できる場合は、以下の表を参照して設定してください。

REMCS エージェントのバージョン（版数）により異なります。

表：ポートを使用するプロセス名一覧

版数	ポート：25	ポート：110	ポート：80
V3.0L43 以前	f3crkxsv.exe	—	—
V3.0L50	F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe F3gwsrii.exe	—	—
V3.0L51 ~ V3.1L16A	F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe F3gwsrii.exe		F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe
V3.1L17	F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe StructSend.exe F3gwsrii.exe		F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe
V3.1L18 以降	F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe StructSend.exe rm_PON.exe rm_POFF.exe F3gwsrii.exe msgsend.exe		F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe

## ● プロセス名の意味

それぞれのプロセス名の意味は、以下のとおりです。

表：プロセス名の意味

プロセス名	意味
f3crkxsv.exe	E-Mail 通信でのイベント送信時に使用
F5EP00RMService.exe	定期接続イベント送信時に使用
f5epwizard.exe	GUI にてレジストレーション、接続確認イベント送信時に使用
F5epgui.exe	定期接続変更時に、定期接続イベント送信、構成情報送信、保守開始・終了、センタ接続停止・再開
F5epHWM_ap.exe	ハード異常通報送信時に使用
StructSend.exe	ハード構成情報送信時に使用
rm_PON.exe	パワーオンイベント送信時に使用
rm_POFF.exe	パワーオフイベント送信時に使用
F3gwsrii.exe	調査資料送信時に使用
msgsend.exe	ソフト異常通報送信時に使用

### 1.4.8 夏時間切り替え時の定期接続時刻について

夏時間から通常時間に切り替わるとき、または、通常時間から夏時間に切り替わるときに、次回定期接続時刻と実際の定期接続時刻が最大で1時間前後ずれてしまう場合があります。ただし、そのあとの定期接続では設定している時刻に接続されますので、特に対処を行う必要はありません。

### 1.4.9 SAN ブート環境の場合

SAN ブート環境では、REMCS の運用は未サポートです。



## 第 2 章

# サービス開始前の準備

# 2

この章では、SNMP サービス、REMCS エージェントのインストール方法を説明しています。

2.1 サービス開始までの流れ .....	28
2.2 SNMP サービスのインストール .....	31
2.3 REMCS エージェントのインストール .....	35

## 2.1 サービス開始までの流れ

各種ソフトウェアをインストールし、サポートサービスを開始するまでの流れについて説明します。

### ■ 用意するもの

インストール前に、以下のものを用意してください。

- PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD)
- ご使用の OS (Windows NT / Windows 2000 / Windows 2003) の CD-ROM
- Service Pack の CD-ROM

### 2.1.1 一般サーバの場合

インストールは、次の手順で行います。

#### 1 SNMP サービスをインストールします。

インストール方法については、「2.2 SNMP サービスのインストール」(→ P.31) を参照してください。

#### 2 REMCS エージェントをインストールします。

インストール方法については、「2.3.1 REMCS エージェントのインストール」(→ P.35) を参照してください。

#### 3 I/O 監視ソフトウェアをインストールします。

REMCS エージェントのインストール時に、導入チェック画面の「I/O 監視ソフトウェア」の欄に「NG」で表示された項目について、I/O 監視ソフトウェアをインストールします。インストール方法、および設定方法については、I/O 監視ソフトウェアに添付されているマニュアルを参照してください。

サービス運用中に、新規に I/O 装置を搭載・接続した場合にも、必要な I/O 監視ソフトウェアのインストールと設定を行ってください。

#### 4 サービスを開始します。

「第3章 サービスの開始」(→ P.39) を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

### POINT

- ▶ SMB を搭載している場合は、サービスを開始する前に、SMB ドライバを起動してください。詳しくは、「付録 C.2 SMB ドライバの起動」(→ P.182) を参照してください。

## 2.1.2 ブレードサーバの場合

搭載されているサーバブレードの中から、サーバブレード筐体のハードウェア構成情報や異常監視を行う代表サーバブレードを1枚決定してください。ここでは、代表サーバブレード以外のサーバブレードを一般サーバブレードと呼びます。

REMCS エージェントのインストールは、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

- 一般サーバブレードの場合  
「2.1.1 一般サーバの場合」(→ P.28) の手順に従って、インストールを行ってください。
- 代表サーバブレードの場合  
以下の手順でインストールを行ってください。

### 1 SNMP サービスをインストールします。

インストール方法については、「2.2 SNMP サービスのインストール」(→ P.31) を参照してください。

### 2 ServerView コンソールをインストールします (BX300 の場合のみ)。

インストール方法については、『ServerView ユーザーズガイド』の「2 インストール」を参照してください。

### 3 マネージメントブレードの SNMP コミュニティ名を設定します。

マネージメントブレードの WebUI などを使用して、コミュニティ名に「public」を設定してください。「public」はすべて小文字で入力してください。詳しくは、ブレードサーバに添付の『ハードウェアガイド マネージメントブレード編』を参照してください。

### 4 マネージメントブレードの SNMP Trap 設定の宛先に、代表サーバブレードの IP アドレスを設定します。

マネージメントブレードの Web UI などを使用して設定してください。詳しくは、ブレードサーバに添付の『ハードウェアガイド マネージメントブレード編』を参照してください。

### 5 マネジメントブレードを ServerView の監視対象サーバに追加します。

監視対象サーバへの追加は、ServerView の管理コンソールを使って行います。追加方法については、『ServerView ユーザーズガイド』の「第3章 ServerView の使用方法」を参照してください。

### 6 REMCS エージェントをインストールします。

インストール方法については、「2.3.1 REMCS エージェントのインストール」(→ P.35) を参照してください。

### 7 システムを再起動します。

### 8 サービスを開始します。

すべてのサーバブレードに対して、サービス開始操作を行います。「第3章 サービスの開始」(→ P.39) を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

## 2.1.3 FT モデルの場合

REMCS エージェントは、FTvirtual Server と CoServer にプレインストールされています。  
2 台の CoServer 上で、以下の作業を実施してください。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「REMCS 初期処理」の順にクリックします。

レジストレーション前の初期処理が始まります。

ハードウェアから装置識別情報を取得できなかった場合には、「装置識別情報の登録」画面が表示されますので、手順 2 を実施してください。

ハードウェアから装置識別情報を取得できた場合は、手順 3 に進んでください。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。

レジストレーション初期処理完了のメッセージが表示されます。

### 重要

- ▶ チェックコード、製造番号は、サーバごとに値が異なります。必ず、該当するサーバに添付されている保証書をご覧になって、番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。

- 3 1～2 の手順を、もう 1 台の CoServer でも実施します。

- 4 サービスを開始します。

2 台の CoServer 上で、サービス開始操作を行います。

「第3章 サービスの開始」(→ P.39) を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

### ■ REMCS エージェントのアップグレードについて

REMCS エージェントをアップグレードする場合は、「A.2 FT モデルでの REMCS エージェント上書きインストール」(→ P.171) を参照して、アップデート作業を行ってください。

## 2.2 SNMP サービスのインストール

SNMP サービスをインストールする方法を説明します。

### 2.2.1 Windows 2003 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」の順にクリックします。  
「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。
- 2 [Windows コンポーネントの追加と削除] をクリックします。  
Windows コンポーネントウィザードが起動します。
- 3 コンポーネントの一覧表から「管理とモニタツール」を選択して、[詳細] をクリックします。  
管理とモニタツールの一覧が表示されます。
- 4 次のいずれかの操作を行います。  
コンポーネントの一覧表の中にある「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」にチェックが付いている場合  
SNMP サービスがすでにインストールされています。[キャンセル] をクリックして、プログラムの追加と削除を終了してください。これで SNMP サービスのインストールは終了です。  
「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」にチェックが付いていない場合  
SNMP サービスをインストールします。以降の操作を行います。
- 5 「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」をチェックし、[OK] をクリックします。
- 6 以降、画面の指示に従って簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) をインストールします。
- 7 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「管理ツール」の順にクリックします。  
「管理ツール」画面が表示されます。
- 8 [サービス] をクリックします。  
「サービス」画面が表示されます。

- 9 [SNMP Service] の上で右クリックをして、「プロパティ」をクリックします。  
「SNMP Service のプロパティ」画面が表示されます。
- 10 「トラップ」タブをクリックします。
- 11 コミュニティ名に「public」を入力して、[一覧に追加] をクリックします。
- 12 トラップ送信先に「localhost」を入力して、[追加] をクリックします。
- 13 「セキュリティ」タブをクリックします。
- 14 「すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける」を選択するか、または、「これらのホストから SNMP パケットを受け付ける」を選択します。  
「これらのホストから SNMP パケットを受け付ける」を選択した場合は、[追加...] をクリックして IP アドレスを入力してください。なお、「localhost」や「127.0.0.1」での指定は無効になります。
- 15 [OK] をクリックします。

## 2.2.2 Windows 2000 の場合

---

- 1 Service Pack (1 以上) を適用します。  
すでに適用済みの場合は、この操作を行う必要はありません。

### POINT

- ▶ 適用されている Service Pack のバージョンを確認するには
  1. デスクトップ上の [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。
  2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。
  3. Service Pack のバージョンを確認します。  
例) Service Pack 2 がインストールされている場合  
「Microsoft (R) Windows (R) Version 5.0 (Build 2195: Service Pack 2)」

- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 3 [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。  
「アプリケーションの追加と削除」画面が表示されます。
- 4 [Windows コンポーネントの追加と削除] をクリックします。  
Windows コンポーネントウィザードが起動します。
- 5 コンポーネントの一覧表から「管理とモニタツール」を選択して、[詳細] をクリックします。  
管理とモニターツールの一覧が表示されます。

## 6 次のいずれかの操作を行います。

### コンポーネントの一覧表の中にある「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」にチェックが付いている場合

SNMP サービスがすでにインストールされています。[キャンセル] をクリックして、アプリケーションの追加と削除を終了してください。これで SNMP サービスのインストールは終了です。以降の操作を行う必要はありません。

### 「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」にチェックが付いていない場合

SNMP サービスをインストールします。以降の操作を行います。

## 7 「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」をチェックし、[OK] をクリックします。

## 8 以降、画面の指示に従って簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) をインストールします。

## 9 SNMP サービスインストール後、Service Pack を再度適用します。

インストール前にすでに適用済みで、手順 1 の操作を行っていない場合は、事前に適用していた Service Pack と同じバージョンの Service Pack を再度適用してください。以上で SNMP サービスのインストールは完了です。

## 2.2.3 Windows NT の場合

### 1 Service Pack (6a 以上) を適用します。

すでに適用済みの場合は、この操作を行う必要はありません。

#### POINT

- ▶ 適用されている Service Pack のバージョンを確認するには
  1. デスクトップ上の [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。
  2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。
  3. Service Pack のバージョンを確認します。  
例) Service Pack 6a がインストールされている場合  
「Microsoft (R) Windows NT(R) Version 4.0 (Build 1381: Service Pack 6)」

### 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

### 3 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

「ネットワーク設定」画面が表示されます。

### 4 [サービス] タブをクリックします。

### 5 次のいずれかの操作を行います。

ネットワークサービスボックスの中に SNMP サービスがある場合

すでにインストールされています。[キャンセル] をクリックして、「ネットワーク設定」画面を閉じてください。これで SNMP サービスのインストールは終了です。以降の操作を行う必要はありません。

ネットワークサービスボックスの中に「SNMP サービス」がない場合

追加インストールします。以降の操作を行います。

- 6 [追加] をクリックします。
- 7 ネットワークサービスボックスの中にある「SNMP サービス」を選択し、[OK] をクリックします。
- 8 以降、画面の指示に従って SNMP サービスをインストールします。
- 9 SNMP サービスインストール後、Service Pack を再度適用します。  
インストール前にすでに適用済みで、手順 1 の操作を行っていない場合は、事前に適用していた Service Pack と同じバージョンの Service Pack を再度適用してください。  
以上で SNMP サービスのインストールは完了です。

 **重要**

- ▶ Service Pack を再インストールしない場合、以下のエラーメッセージが表示されます。  
「プロシージャエントリポイント SnmpSvcGetEnterpriseOID がダイナミックリンク ライブラリ snmpapi.dll から見つかりません。」  
これは、SNMP サービスの一部のファイルが Service Pack によって更新されており、バージョンに不一致が発生するためです。
- ▶ Internet Explorer 高度暗号化パック、または Internet Explorer 5.5 がすでにインストールされている場合、標準の暗号化（56 ビット）バージョンの Service Pack を再インストールすることはできません。以下の手順にて対処してください。
  1. Service Pack の CD-ROM 内の ¥I386 フォルダを、ハードディスクにコピーします。
  2. コピーした I386¥Update フォルダ内の "Update.inf" ファイルを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
  3. 「属性」の「読み取り属性」のチェックを外します。
  4. テキストエディタで、"Update.inf" ファイルを開きます。
  5. [CheckSecurity.System32.files] セクションで、Schannel.dll ファイルに対する参照の前にセミコロン (;) を挿入し、上書き保存します。
  6. "¥I386¥Update¥update.exe" ファイルを実行して、Service Pack をインストールします。

## 2.3 REMCS エージェントのインストール

REMCS エージェントをインストールする方法を説明します。

上書きインストール、アップデートインストール、FT モデルでの再インストールについては、「付録 A REMCS エージェントの上書きインストール」(→ P.170) を参照してください。

### 重要

- ▶ REMCS エージェントをインストールする前に、SNMP サービスをインストールしてください。SNMP サービスをインストールせずに REMCS エージェントをインストールした場合、「SNMP サービスがインストールされていません」というメッセージが表示され、インストールが終了します。
- ▶ REMCS エージェントのインストール中は、SNMP サービスに依存するサービスは停止しておいてください。SNMP サービスに依存するサービスがある場合は、REMCS エージェントのインストール後に手でサービスを起動するか、サーバを再起動してください。
- ▶ ServerView がインストールされていない場合、インストールの途中で ServerView CD-ROM (ドキュメント & ツール CD) が要求されます。
- ▶ RAID カードなどのデバイスは、一度搭載して起動すると、カードを取り外したあともドライバのみ動き続けることがあります。このような場合、監視対象デバイスが搭載されていると判断し、導入チェック画面に誤った結果が表示されることがあります。そのため、デバイスを外したあとは、必ずドライバを削除してください。
- ▶ PRIMERGY ECONE40、RX100 S2、TX150 S2 に REMCS エージェントをインストールする際に、導入チェック画面で以下のメッセージが表示された場合は、REMCS エージェントをインストールする前に、ServerView Agent をインストールしてください。

ServerView AlarmServiceのみインストールされています。[NG]  
ServerView SNMP Agentsをインストールしてください。REMCSインストール中にインストールすることも可能です。

- ▶ PRIMERGY BX600 用の ServerView V3.60L56 (ServerView Agent が含まれない) を FM-WORLD.NET や UpdateSite からダウンロードして使用する場合は、REMCS エージェントをインストールする前に、ServerView をインストールしてください。

### 2.3.1 REMCS エージェントのインストール

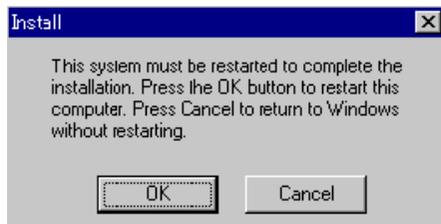
- 1 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD (REMCS エージェント CD) を CD-ROM ドライブにセットし、CD-ROM 内の "Remcs¥Setup.exe" を実行します。機種を選択画面が表示されます。



- 2 モデル名称を選択して、[OK] をクリックします。  
REMCS エージェントの導入チェック画面が表示されます。
- 3 [チェック開始] をクリックします。  
REMCS エージェントの動作環境を満たしているかどうかのチェックが開始されます。  
満たしている場合は、[REMCS インストーラを起動] が有効になります。
- 4 [REMCS インストーラを起動] をクリックします。  
RSB (PG-RSB101) と SMB の両方に対応している機種の場合は、RSB 搭載確認画面が表示されます。
- 5 RSB (PG-RSB101) を搭載している場合は「リモートサービスボード (RSB)」をチェックし、[次へ] をクリックします。  
インストール開始確認メッセージが表示されます。
- 6 [はい] をクリックします。  
REMCS エージェントのインストールが開始されます。インストールの途中、ServerView CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、サーバに添付の「PRIMERGY ドキュメント & ツール CD」をセットして [OK] をクリックしてください。

インストール中に次の「Install」メッセージが表示された場合

1. [Cancel] をクリックします。



インストール中に次の「InstallShield」メッセージが表示された場合

1. [再起動] をクリックします。

自動的にサーバが再起動します。再起動後、自動的に CD-ROM の内容を読み込んでインストールを続けますので、Administrator 権限を持つユーザーでログオンしてください。なお、インストールが完了するまで CD-ROM は取り出さないでください。



次の「Set key」メッセージが表示された場合

1. [OK] をクリックします。

再度、「Install」メッセージが表示された場合

1. [Cancel] をクリックします。

「Search for Service Partition」のメッセージが表示された場合

1. [OK] をクリックします。

**重要**

- ▶ REMCS エージェントインストール中にインストールした ServerView 構成について
  - ・ご使用の機種が BX300 の場合、ServerView コンソールはインストールされません。監視機能である ServerView SNMPAgents のみがインストールされます。
  - ・BX300 以外の機種では、ServerView SNMPAgents、ServerView コンソール共にインストールされていない場合は、REMCS エージェントインストール時にインストールされます。インストール後の設定は必要はありません。初期設定のままセンターへ障害が通知されず。
  - ・ServerView コンソールがインストールされると、ポップアップメッセージが表示されるようになります。設定を変更する場合は、『ServerView ユーザーズガイド』の「アラームサービス」を参照してください。
- ▶ ServerView コンソールで監視対象サーバの設定変更を行う際に、管理ユーザの設定が必要な場合があります。設定については、『ServerView ユーザーズガイド』の「サーバ監視のための設定」を参照してください。

7 再起動のメッセージが表示された場合は、サーバを再起動します。

**重要**

- ▶ REMCS エージェントインストール後に、保守用 CD-ROM 媒体 (GP5-MAINTE) から WASH-ME (旧版) をインストールしないようにしてください。旧版をインストールすると REMCS エージェントが正常に動作しなくなります。REMCS エージェントにより、最新の WASH-ME が提供されます。



## 第3章

# サービスの開始

# 3

この章では、サービスを開始する手順について説明しています。センタへの接続形態別にサービスの開始手順が異なります。

3.1	インターネット接続の場合	40
3.2	インターネット接続（メール）／P-P 接続（ISDN：メール） ／P-P 接続（VPN：メール）の場合	52
3.3	P-P 接続（ISDN）の場合	64
3.4	P-P 接続（VPN）の場合	74
3.5	RSB（PG-RSB102／PG-RSB103(L)／PG-RSB104）の設定	84
3.6	サーバダウン監視の設定	90
3.7	POST 監視／OS ブート監視の設定	92
3.8	サービス開始後の設定変更	93
3.9	オンラインアップデート	98
3.10	REMCS センタとの接続停止／再開	102
3.11	構成情報送信	103
3.12	接続確認	104

## 3.1 インターネット接続の場合

インターネット接続時のサービス利用登録の手順について説明します。

### POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
  - ・保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
  - ・お客様のメールサーバの FQDN または IP アドレス
  - ・サーバの IP アドレス
  - ・マネジメントブレードの IP アドレス（ブレードサーバの場合）
  - ・RSB（PG-RSB101）用の IP アドレス（RSB（PG-RSB101）搭載機のみ必要）
  - ・SMB 用の IP アドレス（SMB を取り付ける場合のみ必要）
  - ・送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）
  - ・HTTPproxy サーバの FQDN または IP アドレス（HTTPproxy サーバのドメインを有する場合に必要）
  - ・HTTPproxy サーバのアカウント（HTTPproxy サーバのドメインを有する場合に必要）
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

### 3.1.1 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

- 1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

### POINT

- ▶ デスクトップ上に [レジストレーション] アイコンが存在しない場合は、「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「リモートサポートサービス」 → 「運用操作」の順にクリックし、「レジストレーション」をクリックしてください。

#### FT モデルの場合

以下の画面が表示されます。

1. [次へ] をクリックします。

### POINT

- ▶ 相手 CoServer の IP アドレスは、通常は変更する必要はありません。C-Link 上のネットワーク設定を変更している場合のみ、変更内容に合わせて入力してください。

## ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。



1. マネジメントブレードの IP アドレスは装置に設定されている値が表示されます。値が正しいかどうか、確認してください。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。

### POINT

- ▶ [FPD 参照] をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。この場合、フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
- ▶ マネジメントブレードの IP アドレスは、そのサーバブレードが搭載されているシャーシのマネジメントブレードの IP アドレスを入力してください。

3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されますので、手順 2 を実施してください。

ハードウェアから装置識別情報を取得できた場合は、手順 3 に進んでください。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。

### 重要

- ▶ チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センターのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

- 3 「インターネット接続」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。

「レジストレーション」画面が表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

## 5 お客様情報を入力します。

「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。

レジストレーション

### お客様情報の入力

■ 下記の項目をご入力下さい。 ※のついている項目は必須入力項目です。半角カナは、使用しないで下さい。

ご登録の種別 ※  新規登録  更新  (全角)

法人名 ※ 富士通株式会社 (全角)

法人名(カナ) ※ フジツウカブシキカイシャ (全角カタカナ)

部署名 ※ 開発部 (全角)

ご住所 ※ 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1 (全角)

ビル名 ※ 本館 (全角)

管理者のお名前 ※ 富士通太郎 (全角)

管理者のお名前(カナ) ※ フジツウタロウ (全角カタカナ)

E-Mailアドレス ※ taro@xxxx.yyyy.co.jp (英数記号)

郵便番号 ※ 211-8688 (数字記号) 例. 012-3456

電話番号 ※ 012-345-6789 (数字記号) 例. 012-345-6789

FAX番号 ※ 012-345-6789 (数字記号) 例. 012-345-6789

装置ユニーク名 ※ PRIMERGY-Server ヘルプ (英数記号)

< 戻る 次へ > キャンセル

表：お客様情報の入力項目

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。 新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。 REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報 (.inf ファイル) の読み込みしかできない場合があります。 フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
法人名	法人名を入力します (全角 30 文字以内)。
法人名 (カナ)	法人名のフリガナを入力します (全角カナ 40 文字以内)。
部署名	お客様の部署名を入力します (全角 20 文字以内)。
ご住所	お客様のご住所を入力します (全角 30 文字以内)。
ビル名	必要な場合はビル名を入力します (全角 20 文字以内)。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します (全角 20 文字以内)。
管理者のお名前 (カナ)	システム管理者のお名前のフリガナを入力します (全角カナ 20 文字以内)。
E-Mail アドレス	システム管理者の E-mail アドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます (英数記号 60 文字以内、特殊文字 (& など) は使用不可)。
郵便番号	郵便番号を入力します (数字記号 8 文字以内)。
電話番号	電話番号を入力します (数字記号 20 文字以内)。
FAX 番号	Fax 番号を入力します (数字記号 20 文字以内)。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します (英数記号 32 文字まで。- # のみ使用可。& ? ' < > / _ 空白文字は使用不可)。 [ヘルプ] をクリックすると、詳細説明が表示されます。

**POINT**

- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。第2水準までの文字が使用可能です。

**6** [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

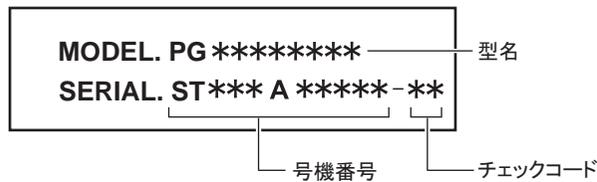
**7** サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

「入力情報のご確認」画面が表示されます。

**重要**

- ▶ 装置 ID の項目に表示されている装置 ID の型名、号機番号、チェックコードが、サーバ本体に添付の『保証書』、または筐体に貼付のラベルと一致しているかどうかを、必ず確認してください。

[筐体貼付ラベルの表記]



装置 ID が一致しない場合は、いったんレジストレーションをキャンセルして終了し、「5.2.1 トラブルと対処方法」(→ P.137) を参照して対処を行った後、再度レジストレーションの処理を行ってください。

**8** 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は [戻る] をクリックして、修正してください。

「E-Mail 送信環境の確認」画面が表示されます。

**9** E-mail 送信が可能な環境かどうかを確認し、[次へ] をクリックします。

「E-Mail の送信」画面が表示されます。

## 10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。

SMTP サーバの認証設定を使用する場合は「認証設定」をクリックします。「SMTP 認証を使用」をチェックしたあと、「POP Before SMTP を使用」または「AUTH SMTP を使用」のどちらかを選択して、必要な情報を入力してください。

表：E-mail の送信入力項目

項目	説明
メール (SMTP) サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します (半角英数記号)。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値 (SMTP) をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します (半角英数記号)。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。
メール分割設定	メールを送信する際に複数に分けて送信するかどうかを指定します。お客様のメールサーバで分割メールの送信を許可していない場合には、「メール分割しない」を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メール分割する：メールを送信する際に分割して送信します。(推奨)</li> <li>メール分割しない：メールを分割せずに送信します。</li> </ul>

## 「認証設定」画面

表：認証設定入力項目

SMTP 認証方式	項目	説明
POP Before SMTP	サーバ名	POP Before SMTP の認証で使用する、POP サーバを入力してください。
	ユーザ名	POP サーバの認証ユーザ名を入力してください。
	パスワード	認証ユーザ名のパスワードを入力してください。
	待ち時間 (msec)	待ち時間を指定します。通常、変更の必要はありません。0msec でうまくいかない場合に、待ち時間を調整してください。
AUTH SMTP	認証機構選択	「LOGIN 形式」、「PLAIN 形式」、「CRAM-MD5 形式」から選択できます。使用する SMTP サーバがサポートしている方式を確認の上、使用する認証方式を選択してください。通常は「自動設定」を選択してください。
	ユーザ名	SMTP サーバの認証ユーザ名を入力してください。
	パスワード	認証ユーザ名のパスワードを入力してください。

## 11 「登録」をクリックします。

入力した情報が REMCS センタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail 送信完了メッセージが表示されます。

## POINT

- ▶ レジストレーション完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

## 重要

- ▶ レジストレーションの完了を通知する E-mail がお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処理を行っても無効として扱われます。レジストレーションの後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知の E-mail が届いた後に行ってください。

以上でレジストレーションは完了です。次に、環境設定を行います。

### 3.1.2 環境設定

環境設定の手順について説明します。なお、定期接続やファームウェア適用の設定については、以下の設定例を参考にしてください。

#### ■ 設定例

- **毎週木曜のマシン運用時間中（10:00 ～ 15:00）に定期接続を行い、手動で適用を指示した後の電源再投入時にファームウェア適用を実施する場合**

表：設定例

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	週一回
定期接続スケジュール（曜日）	木曜
定期接続スケジュール（時刻）	開始 10:00、終了 15:00
ファームウェア適用	手動適用

[注] 時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

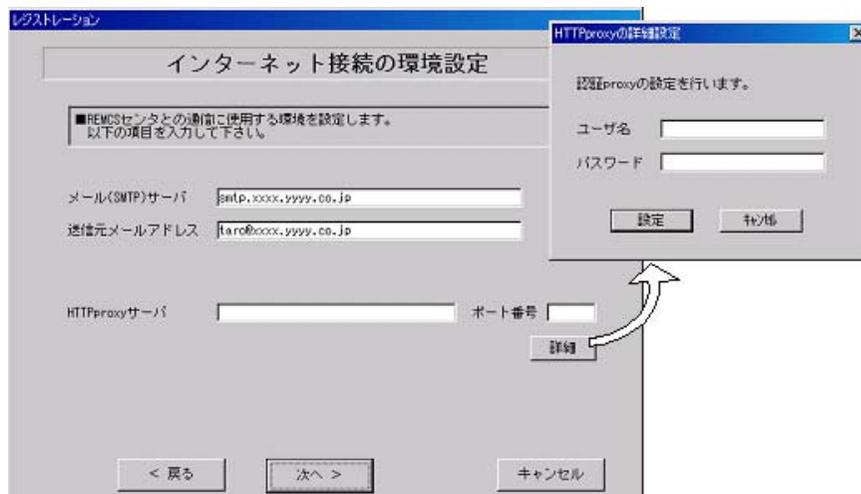
- **毎日（土日以外）のマシン運用時間中（24 時間運用）に定期接続を行い、手動で適用を指示した後の電源再投入時にファームウェア適用を実施する場合**

表：設定例

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	毎日（土日以外）
定期接続スケジュール（曜日）	設定の必要なし
定期接続スケジュール（時刻）	開始 0:00、終了 23:59
ファームウェア適用	手動適用

[注] 時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

- 1 レジストレーション完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。  
[次へ] をクリックします。
- 2 インターネット接続の環境設定を行います。



表：インターネット接続の環境設定

項目	説明
メール (SMTP) サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します (半角英数記号)。必ず、入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値 (SMTP) をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します (半角英数記号)。必ず、入力してください。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。
HTTPproxy サーバ	お客様の HTTPproxy サーバの FQDN または IP アドレスを入力します (半角英数記号)。
ポート番号	お客様の HTTPproxy サーバのポート番号を入力します (半角数字)。
ユーザ名	お客様の HTTPproxy サーバにログオンするためのユーザ名を入力します。
パスワード	お客様の HTTPproxy サーバにログオンするためのパスワードを入力します。

### POINT

- ▶ HTTPproxy サーバ、ポート番号は、インターネット接続時に Proxy サーバを使用する必要がある場合のみ入力してください。
- ▶ HTTPproxy ユーザ名、HTTPproxy パスワードは、HTTPproxy サーバにアクセスする際に必要な場合のみ入力してください。

- 3 [次へ] をクリックします。

RSB (PG-RSB101) が搭載されている場合、「RSB の環境設定」画面が表示されます。

## 4 項目を入力します。

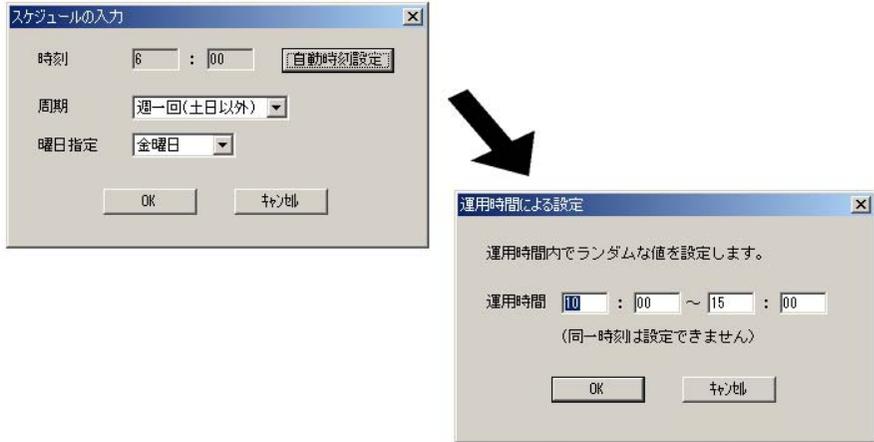
表 : RSB (PG-RSB101) の環境設定項目

項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するために RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲：0～10（単位：回）、初期値 5 回（推奨）
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲：0～60（単位：分）、初期値 1 分（推奨）

## 5 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

- 6 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



表：定期接続のスケジュール設定入力項目

項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。自動時刻設定の入力範囲は0:00～23:59です。0時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。 また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 週一回（土日以外）：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回：月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

- 7 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

- 8 ファーム修正適用のスケジュールを設定します。手動適用／自動適用のいずれかを指定できます。[変更] をクリックして、適用方法を設定します。RSB (PG-RSB101) / SMB を搭載していない場合、ファーム適用機能は使用できませんので、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。

表：ファーム修正適用のスケジュール設定項目

項目	説明
手動適用（初期値）	お客様が適用指示を出したときに適用処理を行います。
自動適用	最新ファームウェアをセンタからダウンロードした後、電源を入れ直したときに適用処理を行います。

- 9 [次へ] をクリックします。

「接続確認」画面が表示されます。

## 10 接続確認を行います。接続確認結果通知の送信先を設定して、[接続確認] をクリックします。

実施者（自分）への結果通知を行う場合は、通知する（通常形式）、または、通知する（携帯電話向け簡易方式）を選択して、結果通知先 E-mail アドレスに E-mail アドレスを入力してください。のちほど設定した E-mail アドレス宛に、接続確認完了を通知するメールが届きます。

RSB（PG-RSB101）搭載時には、設定確認のためテストメールを送信できます。[OK] をクリックしてテストメールを送信してください。

表：接続確認入力項目

結果通知	項目	説明
お客様管理者への結果通知	通知する	お客様管理者へ接続確認結果を通知します。
	通知しない	お客様管理者へ接続確認結果を通知しません。
実施者への結果通知	通知する（通常形式）	実施者へ接続確認結果を通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。
	通知する（携帯電話向け簡易方式）	実施者へ接続確認結果を携帯電話で閲覧できる簡易方式で通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。
	通知しない	実施者へ接続確認結果を通知しません。

**POINT**

- ▶ 結果通知は、お客様管理者か実施者の少なくとも一方には「通知する」設定にする必要があります。両方とも「通知しない」設定にはできません。
- ▶ [FPD 保存] をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクに保存できます。保存した情報は、情報を再度設定する際や、他のサーバのレジストレーション設定時に利用できます。REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報しか保存できない場合があります。  
接続形態ごとに環境設定ファイルが異なります。保存したフロッピーディスクのラベルに接続形態名を記入しておいてください。
- ▶ トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.157) を参照して対処してください。
- ▶ デスクトップ上のレジストレーションアイコンは、サービス開始処理完了後(接続確認まで完了)に、自動的に消去されます。

以上でサービス開始作業は完了です。

**POINT**

- ▶ SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」(→ P.184) を参照してください。

## 3.2 インターネット接続（メール）／ P-P 接続（ISDN：メール）／ P-P 接続（VPN：メール）の場合

インターネット接続（メール）／P-P 接続（ISDN：メール）／P-P 接続（VPN：メール）時のサービス利用登録の手順について説明します。

### POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
  - ・保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
  - ・お客様のメールサーバの FQDN または IP アドレス
  - ・サーバの IP アドレス
  - ・マネジメントブレードの IP アドレス（ブレードサーバの場合）
  - ・RSB（PG-RSB101）用の IP アドレス（RSB（PG-RSB101）搭載機のみ必要）
  - ・SMB 用の IP アドレス（SMB を取り付ける場合のみ必要）
  - ・送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。
- ▶ SMB を搭載するモデルの場合、P-P 接続（ISDN：メール）／P-P 接続（VPN：メール）は選択できません。H200/N400 で SMB を搭載している場合も同様です。

### 3.2.1 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

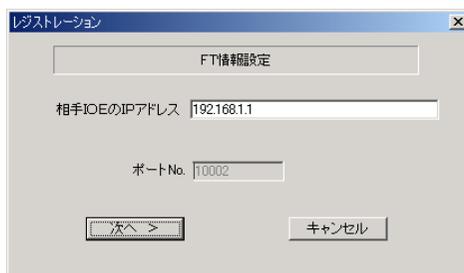
- 1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

### POINT

- ▶ デスクトップ上に [レジストレーション] アイコンが存在しない場合は、「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「リモートサポートサービス」 → 「運用操作」の順にクリックし、「レジストレーション」をクリックしてください。

#### FT モデルの場合

以下の画面が表示されます。



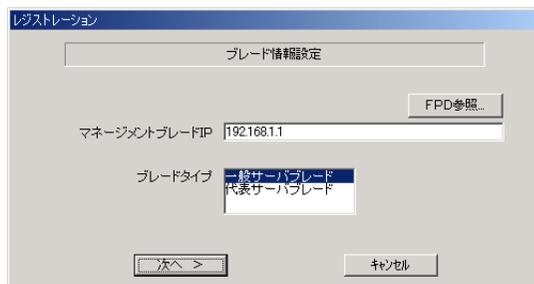
1. [次へ] をクリックします。

### POINT

- ▶ 相手 CoServer の IP アドレスは、通常は変更する必要はありません。C-Link 上のネットワーク設定を変更している場合のみ、変更内容に合わせて入力してください。

### ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。



1. マネジメントブレードの IP アドレスは装置に設定されている値が表示されます。値が正しいかどうか、確認してください。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。

### POINT

- ▶ [FPD 参照] をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。この場合、フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
- ▶ マネジメントブレードの IP アドレスは、そのサーバブレードが搭載されているシャーシのマネジメントブレードの IP アドレスを入力してください。

3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されますので、手順 2 を実施してください。

ハードウェアから装置識別情報を取得できた場合は、手順 3 に進んでください。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。

### 重要

- ▶ チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センターのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

3 ご利用の接続形態（「インターネット接続（メールのみ）」または「P-P 接続（ISDN：メール）」または「P-P 接続（VPN：メール）」のみにチェックを付けて、[次へ] をクリックします。

「レジストレーション」画面が表示されます。

4 [次へ] をクリックします。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

5 お客様情報を入力します。

「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。

表：お客様情報の入力項目

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。 新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。 REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報（.inf ファイル）の読み込みしかできない場合があります。 フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
法人名	法人名を入力します（全角 30 文字以内）。
法人名（カナ）	法人名のフリガナを入力します（全角カナ 40 文字以内）。
部署名	お客様の部署名を入力します（全角 20 文字以内）。
ご住所	お客様のご住所を入力します（全角 30 文字以内）。
ビル名	必要な場合はビル名を入力します（全角 20 文字以内）。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します（全角 20 文字以内）。
管理者のお名前（カナ）	システム管理者のお名前のフリガナを入力します（全角カナ 20 文字以内）。
E-Mail アドレス	システム管理者の E-mail アドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます（英数記号 60 文字以内、特殊文字（& など）は使用不可）。

表：お客様情報の入力項目

項目	説明
郵便番号	郵便番号を入力します（数字記号 8 文字以内）。
電話番号	電話番号を入力します（数字記号 20 文字以内）。
FAX 番号	Fax 番号を入力します（数字記号 20 文字以内）。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します（英数記号 32 文字まで。-#のみ使用可。&”’<>/_ 空白文字は使用不可）。 [ヘルプ] をクリックすると、詳細説明が表示されます。

**POINT**

- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。第 2 水準までの文字が使用可能です。

**6** [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

**7** サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

「入力情報のご確認」画面が表示されます。

**重要**

- ▶ 装置 ID の項目に表示されている装置 ID の型名、号機番号、チェックコードが、サーバ本体に添付の『保証書』、または筐体に貼付のラベルと一致しているかどうかを、必ず確認してください。

「筐体貼付ラベルの表記」



装置 ID が一致しない場合は、いったんレジストレーションをキャンセルして終了し、「5.2.1 トラブルと対処方法」（→ P.137）を参照して対処を行った後、再度レジストレーションの処理を行ってください。

**8** 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は [戻る] をクリックして、修正してください。

「E-Mail 送信環境の確認」画面が表示されます。

**9** E-mail 送信が可能な環境かどうかを確認し、[次へ] をクリックします。

「E-Mail の送信」画面が表示されます。

## 10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。

SMTP サーバの認証設定を使用する場合は「認証設定」をクリックします。「SMTP 認証を使用」をチェックしたあと、「POP Before SMTP を使用」または「AUTH SMTP を使用」のどちらかを選択して、必要な情報を入力してください。

表 : E-mail の送信入力項目

項目	説明
メール (SMTP) サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します (半角英数記号)。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値 (SMTP) をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します (半角英数記号)。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。
メール分割設定	メールを送信する際に複数に分けて送信するかどうかを指定します。お客様のメールサーバで分割メールの送信を許可していない場合には、「メール分割しない」を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・メール分割する：メールを送信する際に分割して送信します。(推奨)</li> <li>・メール分割しない：メールを分割せずに送信します。</li> </ul>

## 「認証設定」画面

表：認証設定入力項目

SMTP 認証方式	項目	説明
POP Before SMTP	サーバ名	POP Before SMTP の認証で使用する、POP サーバを入力してください。
	ユーザ名	POP サーバの認証ユーザ名を入力してください。
	パスワード	認証ユーザ名のパスワードを入力してください。
	待ち時間 (msec)	待ち時間を指定します。通常、変更の必要はありません。0msec でうまくいかない場合に、待ち時間を調整してください。
AUTH SMTP	認証機構選択	「LOGIN 形式」、「PLAIN 形式」、「CRAM-MD5 形式」から選択できます。使用する SMTP サーバがサポートしている方式を確認の上、使用する認証方式を選択してください。通常は「自動設定」を選択してください。
	ユーザ名	SMTP サーバの認証ユーザ名を入力してください。
	パスワード	認証ユーザ名のパスワードを入力してください。

## 11 「登録」をクリックします。

入力した情報が REMCS センタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail 送信完了メッセージが表示されます。

## POINT

- ▶ レジストレーション完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

 **重要**

- ▶ レジストレーションの完了を通知する E-mail がお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処理を行っても無効として扱われます。レジストレーションの後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知の E-mail が届いた後に行ってください。

以上でレジストレーションは完了です。次に、環境設定を行います。

## 3.2.2 環境設定

環境設定の手順について説明します。なお、定期接続やファームウェア適用の設定については、以下の設定例を参考にしてください。

### ■ 設定例

#### ● 毎週木曜のマシン運用時間中（10:00 ～ 15:00）に定期接続を行う場合

表：設定例

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	週一回
定期接続スケジュール（曜日）	木曜
定期接続スケジュール（時刻）	開始 10:00、終了 15:00

[注] 時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

#### ● 毎日（土日以外）のマシン運用時間中（24 時間運用）に定期接続を行う場合

表：設定例

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	毎日（土日以外）
定期接続スケジュール（曜日）	[注] 設定の必要なし
定期接続スケジュール（時刻）	開始 0:00、終了 23:59

[注] 時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

- 1 レジストレーション完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。  
[次へ] をクリックします。
- 2 インターネット接続の環境設定を行います。

表：インターネット接続の環境設定項目

項目	説明
メール（SMTP）サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバのFQDNまたはIPアドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（SMTP）をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。

- 3 [次へ] をクリックします。  
RSB（PG-RSB101）が搭載されている場合、「RSBの環境設定」画面が表示されます。

4 項目を入力します。

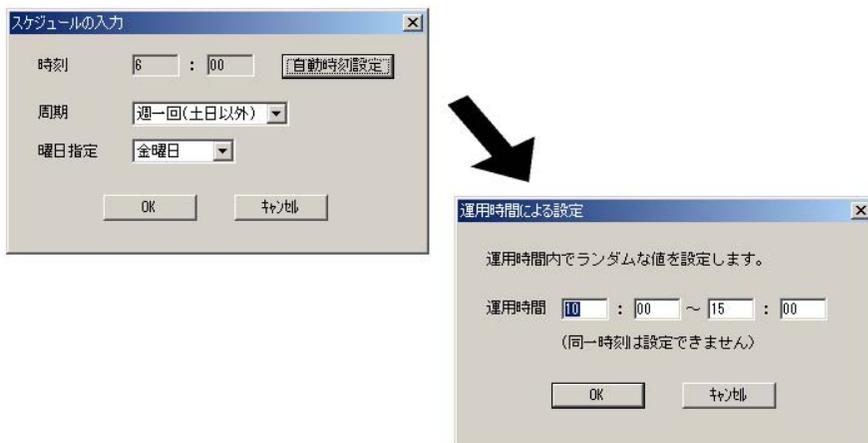
表 : RSB (PG-RSB101) の環境設定項目

項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するために RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 10 (単位 : 回)、初期値 5 回 (推奨)
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 60 (単位 : 分)、初期値 1 分 (推奨)

5 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

- 6 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



表：定期接続のスケジュール設定項目

項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ~ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。 また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回：月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

- 7 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

- 8 「ファーム適用スケジュールの設定」画面が表示されますが、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。

- 9 [次へ] をクリックします。

「接続確認」画面が表示されます。

## 10 接続確認を行います。接続確認結果通知の送信先を設定して、[接続確認] をクリックします。

実施者（自分）への結果通知を行う場合は、通知する（通常形式）、または、通知する（携帯電話向け簡易方式）を選択して、結果通知先 E-mail アドレスに E-mail アドレスを入力してください。のちほど設定した E-mail アドレス宛に、接続確認完了を通知するメールが届きます。

インターネット接続（メール）の場合、RSB（PG-RSB101）搭載時は、設定確認のためテストメールを送信できます。[OK] をクリックしてテストメールを送信してください。

表：接続確認入力項目

結果通知	項目	説明
お客様管理者への結果通知	通知する	お客様管理者へ接続確認結果を通知します。
	通知しない	お客様管理者へ接続確認結果を通知しません。
実施者への結果通知	通知する（通常形式）	実施者へ接続確認結果を通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。
	通知する（携帯電話向け簡易方式）	実施者へ接続確認結果を携帯電話で閲覧できる簡易方式で通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。
	通知しない	実施者へ接続確認結果を通知しません。

### POINT

- ▶ 結果通知は、お客様管理者か実施者の少なくとも一方には「通知する」設定にする必要があります。両方とも「通知しない」設定にはできません。
- ▶ [FPD 保存] をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクに保存できます。保存した情報は、情報を再度設定する際や、他のサーバのレジストレーション設定時に利用できます。REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報しか保存できない場合があります。  
接続形態ごとに環境設定ファイルが異なります。保存したフロッピーディスクのラベルに接続形態名を記入しておいてください。
- ▶ トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」（→ P.157）を参照して対処してください。
- ▶ 「デスクトップ上のレジストレーションアイコンは、サービス開始処理が完了した後（接続確認まで完了した後）、自動的に消去されます。

以上でサービス開始作業は完了です。

### POINT

- ▶ SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」（→ P.184）を参照してください。

### 重要

- ▶ 接続確認後、お客様情報の入力画面で入力した E-mail アドレス宛に接続確認が成功したことをお知らせするメールが必ず届きますので、ご確認ください。届かない場合には、弊社 REMCS センタにお客様の接続確認メールが届いていない可能性がございます。  
お客様のネットワーク環境および、レジストレーション時に入力された内容をご確認ください。

## 3.3 P-P 接続 (ISDN) の場合

P-P 接続 (ISDN) 時のサービス利用登録の手順について説明します。

### POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
  - ・保証書 (型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの)
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
  - ・お客様のメールサーバの FQDN または IP アドレス
  - ・サーバの IP アドレス
  - ・マネジメントブレードの IP アドレス (ブレードサーバの場合)
  - ・RSB (PG-RSB101) 用の IP アドレス (RSB (PG-RSB101) 搭載機のみ必要)
  - ・SMB 用の IP アドレス (SMB を取り付ける場合のみ必要)
- ▶ メール (SMTP) サーバ、送信元メールアドレス、HTTPproxy サーバに関する情報は弊社より通知されます。
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

### 3.3.1 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

- 1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

### POINT

- ▶ デスクトップ上に [レジストレーション] アイコンが存在しない場合は、「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「リモートサポートサービス」 → 「運用操作」の順にクリックし、「レジストレーション」をクリックしてください。

### FT モデルの場合

以下の画面が表示されます。



1. [次へ] をクリックします。

### POINT

- ▶ 相手 CoServer の IP アドレスは、通常は変更する必要はありません。C-Link 上のネットワーク設定を変更している場合のみ、変更内容に合わせて入力してください。

## ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。

1. マネジメントブレードの IP アドレスは装置に設定されている値が表示されます。値が正しいかどうか、確認してください。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。

### POINT

- ▶ [FPD 参照] をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。この場合、フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
- ▶ マネジメントブレードの IP アドレスは、そのサーバブレードが搭載されているシャーシのマネジメントブレードの IP アドレスを入力してください。

3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されますので、手順 2 を実施してください。

ハードウェアから装置識別情報を取得できた場合は、手順 3 に進んでください。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。

### 重要

- ▶ チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センターのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

- 3 「P-P 接続 (ISDN)」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。

「レジストレーション」画面が表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

## 5 お客様情報を入力します。

「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。

レガストレーション

### お客様情報の入力

■ 下記的项目をご入力下さい。 ※のついている項目は必須入力項目です。半角カナは、使用しないで下さい。

ご登録の種別 ※  新規登録  更新  (全角)

法人名 ※ 富士通株式会社 (全角)

法人名(カナ) ※ フジツウカブシキカイシャ (全角カタカナ)

部署名 ※ 開発部 (全角)

ご住所 ※ 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1 (全角)

ビル名 ※ 本館 (全角)

管理者のお名前 ※ 富士通太郎 (全角)

管理者のお名前(カナ) ※ フジツウタロウ (全角カタカナ)

E-Mailアドレス ※ taro@xxxx.yyyy.co.jp (英数記号)

郵便番号 ※ 211-8688 (数字記号) 例. 012-3456

電話番号 ※ 012-345-6789 (数字記号) 例. 012-345-6789

FAX番号 ※ 012-345-6789 (数字記号) 例. 012-345-6789

装置ユニーク名 ※ PRIMERGY-Server ヘルプ (英数記号)

< 戻る 次へ > キャンセル

表：お客様情報の入力項目

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。 新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。 REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報 (.inf ファイル) の読み込みしかなかったり、フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
法人名	法人名を入力します (全角 30 文字以内)。
法人名 (カナ)	法人名のフリガナを入力します (全角カナ 40 文字以内)。
部署名	お客様の部署名を入力します (全角 20 文字以内)。
ご住所	お客様のご住所を入力します (全角 30 文字以内)。
ビル名	必要な場合はビル名を入力します (全角 20 文字以内)。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します (全角 20 文字以内)。
管理者のお名前 (カナ)	システム管理者のお名前のフリガナを入力します (全角カナ 20 文字以内)。
E-Mail アドレス	システム管理者の E-mail アドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます (英数記号 60 文字以内、特殊文字 (& など) は使用不可)。
郵便番号	郵便番号を入力します (数字記号 8 文字以内)。
電話番号	電話番号を入力します (数字記号 20 文字以内)。
FAX 番号	Fax 番号を入力します (数字記号 20 文字以内)。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します (英数記号 32 文字まで。- # のみ使用可。& ? ' < > / _ 空白文字は使用不可)。 [ヘルプ] をクリックすると、詳細説明が表示されます。

**POINT**

- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。第2水準までの文字が使用可能です。

**6** [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

**7** サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

「入力情報のご確認」画面が表示されます。

**重要**

- ▶ 装置 ID の項目に表示されている装置 ID の型名、号機番号、チェックコードが、サーバ本体に添付の『保証書』、または筐体に貼付のラベルと一致しているかどうかを、必ず確認してください。

[筐体貼付ラベルの表記]



装置 ID が一致しない場合は、いったんレジストレーションをキャンセルして終了し、「5.2.1 トラブルと対処方法」(→ P.137) を参照して対処を行った後、再度レジストレーションの処理を行ってください。

**8** 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は [戻る] をクリックして、修正してください。

「E-Mail 送信環境の確認」画面が表示されます。

**9** E-mail 送信が可能な環境かどうかを確認し、[次へ] をクリックします。

「E-Mail の送信」画面が表示されます。

## 10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。

SMTP サーバの認証設定を使用する場合は「認証設定」をクリックします。「SMTP 認証を使用」をチェックしたあと、「POP Before SMTP を使用」または「AUTH SMTP を使用」のどちらかを選択して、必要な情報を入力してください。

表：E-mail の送信入力項目

項目	説明
メール (SMTP) サーバ	弊社から通知する値を設定してください。
送信元メールアドレス	弊社から通知する値を設定してください。
メール分割設定	メールを送信する際に複数に分けて送信するかどうかを指定します。お客様のメールサーバで分割メールの送信を許可していない場合には、「メール分割しない」を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メール分割する：メールを送信する際に分割して送信します。(推奨)</li> <li>メール分割しない：メールを分割せずに送信します。</li> </ul>

## 11 「登録」をクリックします。

入力した情報が REMCS センタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail 送信完了メッセージが表示されます。

### POINT

- ▶ レジストレーション完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

### 重要

- ▶ レジストレーションの完了を通知する E-mail がお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処理を行っても無効として扱われます。レジストレーションの後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知の E-mail が届いたあとに行ってください。

以上でレジストレーションは完了です。次に、環境設定を行います。

## 3.3.2 環境設定

- 1 レジストレーション完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。  
[次へ] をクリックします。
- 2 P-P 接続の環境設定を行います。

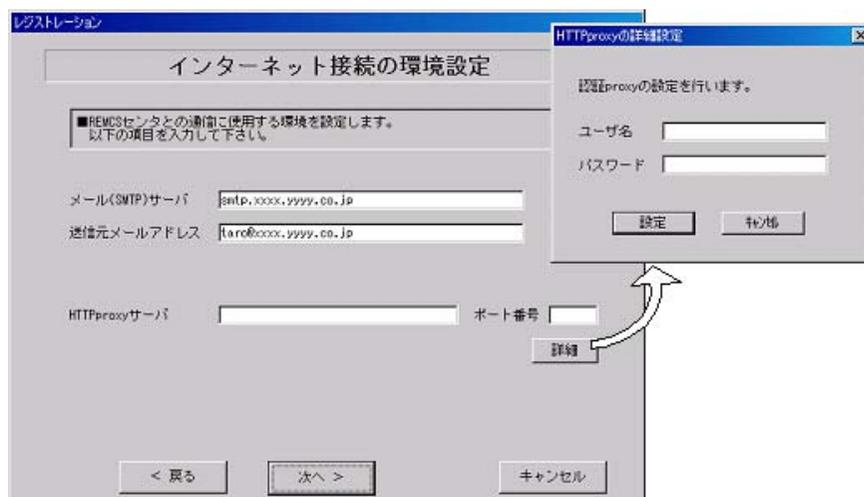


表 : P-P 接続環境設定項目

項目	説明
メール (SMTP) サーバ	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
送信元メールアドレス	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
HTTPproxy サーバ	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
ポート番号	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
ユーザ名	設定不要です。
パスワード	設定不要です。

- 3 [次へ] をクリックします。  
RSB (PG-RSB101) が搭載されている場合、「RSB の環境設定」画面が表示されます。

4 項目を入力します。

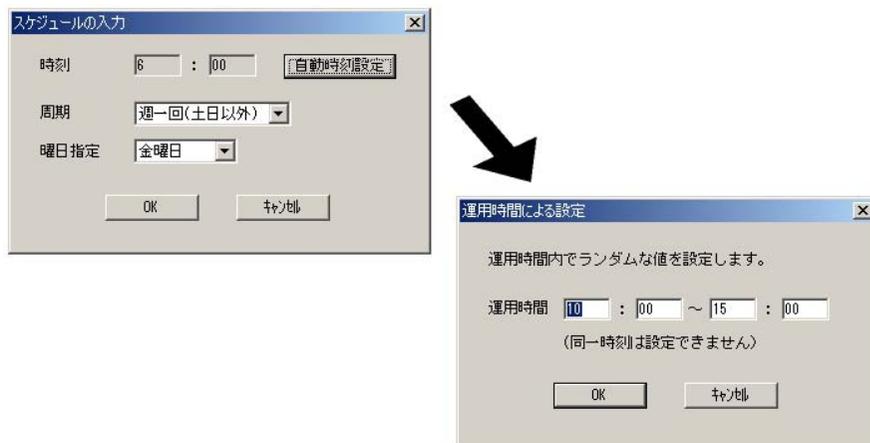
表 : RSB (PG-RSB101) の環境設定項目

項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するために RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 10 (単位 : 回)、初期値 5 回 (推奨)
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 60 (単位 : 分)、初期値 1 分 (推奨)

5 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

- 6 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



表：定期接続のスケジュール設定項目

項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ~ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。 また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回：月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

- 7 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

- 8 ファーム修正適用のスケジュールを設定します。手動適用／自動適用のいずれかを指定できます。[変更] をクリックして、適用方法を設定します。RSB (PG-RSB101) / SMB を搭載していない場合、ファーム適用機能は使用できませんので、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。

表：ファーム修正適用のスケジュール項目

項目	説明
手動適用（初期値）	お客様が適用指示を出したときに適用処理を行います。
自動適用	最新ファームウェアをセンタからダウンロードした後、電源を入れ直したときに適用処理を行います。

- 9 [次へ] をクリックします。

「接続確認」画面が表示されます。

**10 接続確認を行います。接続確認結果通知の送信先を設定して、[接続確認] をクリックします。**

実施者（自分）への結果通知を行う場合は、通知する（通常形式）、または、通知する（携帯電話向け簡易方式）を選択して、結果通知先 E-mail アドレスに E-mail アドレスを入力してください。のちほど設定した E-mail アドレス宛に、接続確認完了を通知するメールが届きます。

P-P 接続の場合、RSB（PG-RSB101）のテストメール送信は使用できません。テストメール送信メッセージは [キャンセル] をクリックして終了してください。

表：接続確認入力項目

結果通知	項目	説明
お客様管理者への結果通知	通知する	お客様管理者へ接続確認結果を通知します。
	通知しない	お客様管理者へ接続確認結果を通知しません。
実施者への結果通知	通知する（通常形式）	実施者へ接続確認結果を通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。
	通知する（携帯電話向け簡易方式）	実施者へ接続確認結果を携帯電話で閲覧できる簡易方式で通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。
	通知しない	実施者へ接続確認結果を通知しません。

**POINT**

- ▶ 結果通知は、お客様管理者か実施者の少なくとも一方には「通知する」設定にする必要があります。両方とも「通知しない」設定にはできません。
- ▶ [FPD 保存] をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクに保存できます。保存した情報は、情報を再度設定する際や、他のサーバのレジストレーション設定時に利用できます。REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報しか保存できない場合があります。  
接続形態ごとに環境設定ファイルが異なります。保存したフロッピーディスクのラベルに接続形態名を記入しておいてください。
- ▶ トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.157) を参照して対処してください。
- ▶ 「デスクトップ上のレジストレーションアイコンは、サービス開始処理が完了した後 (接続確認まで完了した後)、自動的に消去されます。

以上でサービス開始作業は完了です。

**POINT**

- ▶ SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」(→ P.184) を参照してください。

## 3.4 P-P 接続 (VPN) の場合

P-P 接続 (VPN) 時のサービス利用登録の手順について説明します。

### POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
  - ・保証書 (型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの)
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
  - ・お客様のメールサーバの FQDN または IP アドレス
  - ・サーバの IP アドレス
  - ・マネジメントブレードの IP アドレス (ブレードサーバの場合)
  - ・RSB (PG-RSB101) 用の IP アドレス (RSB (PG-RSB101) 搭載機のみ必要)
  - ・SMB 用の IP アドレス (SMB を取り付ける場合のみ必要)
- ▶ メール (SMTP) サーバ、送信元メールアドレス、HTTPproxy サーバに関する情報は弊社より通知されます。
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

### 3.4.1 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

- 1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

### POINT

- ▶ デスクトップ上に [レジストレーション] アイコンが存在しない場合は、「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「リモートサポートサービス」 → 「運用操作」の順にクリックし、「レジストレーション」をクリックしてください。

### FT モデルの場合

以下の画面が表示されます。

レジストレーション

FT情報設定

相手IOEのIPアドレス 192.168.1.1

ポートNo. 10002

次へ > キャンセル

1. [次へ] をクリックします。

### POINT

- ▶ 相手CoServerのIPアドレスは通常は変更する必要はありません。C-Link上のネットワーク設定を変更している場合のみ、変更内容に合わせて入力してください。

## ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。

1. マネジメントブレードの IP アドレスは装置に設定されている値が表示されます。値が正しいかどうか、確認してください。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。

### POINT

- ▶ [FPD 参照] をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。この場合、フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
- ▶ マネジメントブレードの IP アドレスは、そのサーバブレードが搭載されているシャーシのマネジメントブレードの IP アドレスを入力してください。

3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されますので、手順 2 を実施してください。

ハードウェアから装置識別情報を取得できた場合は、手順 3 に進んでください。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。

### 重要

- ▶ チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センターのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

- 3 「P-P 接続 (VPN)」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。

「レジストレーション」画面が表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

## 5 お客様情報を入力します。

「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。

レガストレーション

お客様情報の入力

■ 下記的项目をご入力下さい。 ※のついている項目は必須入力項目です。半角カナは、使用しないで下さい。

ご登録の種別 ※  新規登録  更新  (全角)

法人名 ※ 富士通株式会社 (全角)

法人名(カナ) ※ フジツウカブシキカイシャ (全角カタカナ)

部署名 ※ 開発部 (全角)

ご住所 ※ 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1 (全角)

ビル名 本館 (全角)

管理者のお名前 ※ 富士通太郎 (全角)

管理者のお名前(カナ) ※ フジツウタロウ (全角カタカナ)

E-Mailアドレス ※ taro@xxxx.yyyy.co.jp (英数記号)

郵便番号 211-8688 (数字記号) 例. 012-3456

電話番号 ※ 012-345-6789 (数字記号) 例. 012-345-6789

FAX番号 012-345-6789 (数字記号) 例. 012-345-6789

装置ユニーク名 PRIMERGY-Server ヘルプ (英数記号)

< 戻る 次へ > キャンセル

表：お客様情報の入力項目

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。 新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。 REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報 (.inf ファイル) の読み込みししかできない場合があります。 フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
法人名	法人名を入力します (全角 30 文字以内)。
法人名 (カナ)	法人名のフリガナを入力します (全角カナ 40 文字以内)。
部署名	お客様の部署名を入力します (全角 20 文字以内)。
ご住所	お客様のご住所を入力します (全角 30 文字以内)。
ビル名	必要な場合はビル名を入力します (全角 20 文字以内)。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します (全角 20 文字以内)。
管理者のお名前 (カナ)	システム管理者のお名前のフリガナを入力します (全角カナ 20 文字以内)。
E-Mail アドレス	システム管理者の E-mail アドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます (英数記号 60 文字以内、特殊文字 (& など) は使用不可)。
郵便番号	郵便番号を入力します (数字記号 8 文字以内)。
電話番号	電話番号を入力します (数字記号 20 文字以内)。
FAX 番号	Fax 番号を入力します (数字記号 20 文字以内)。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します (英数記号 32 文字まで。- # のみ使用可。& ? ' < > / _ 空白文字は使用不可)。 [ヘルプ] をクリックすると、詳細説明が表示されます。

**POINT**

- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。第2水準までの文字が使用可能です。

**6** [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

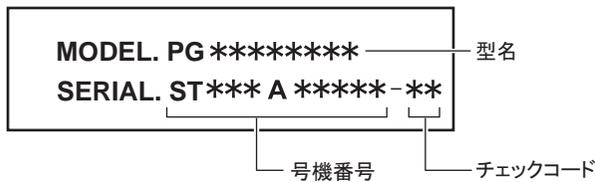
**7** サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

「入力情報のご確認」画面が表示されます。

**重要**

- ▶ 装置 ID の項目に表示されている装置 ID の型名、号機番号、チェックコードが、サーバ本体に添付の『保証書』、または筐体に貼付のラベルと一致しているかどうかを、必ず確認してください。

[筐体貼付ラベルの表記]



装置 ID が一致しない場合は、いったんレジストレーションをキャンセルして終了し、「5.2.1 トラブルと対処方法」(→ P.137) を参照して対処を行った後、再度レジストレーションの処理を行ってください。

**8** 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は [戻る] をクリックして、修正してください。

「E-Mail 送信環境の確認」画面が表示されます。

**9** E-mail 送信が可能な環境かどうかを確認し、[次へ] をクリックします。

「E-Mail の送信」画面が表示されます。

## 10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。

SMTP サーバの認証設定を使用する場合は「認証設定」をクリックします。「SMTP 認証を使用」をチェックしたあと、「POP Before SMTP を使用」または「AUTH SMTP を使用」のどちらかを選択して、必要な情報を入力してください。

表：E-mail の送信入力項目

項目	説明
メール (SMTP) サーバ	弊社から通知する値を設定してください。
送信元メールアドレス	弊社から通知する値を設定してください。
メール分割設定	メールを送信する際に複数に分けて送信するかどうかを指定します。お客様のメールサーバで分割メールの送信を許可していない場合には、「メール分割しない」を選択してください。 ・メール分割する：メールを送信する際に分割して送信します。(推奨) ・メール分割しない：メールを分割せずに送信します。

## 11 「登録」をクリックします。

入力した情報が REMCS センタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail 送信完了メッセージが表示されます。

### POINT

- ▶ レジストレーション完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

### 重要

- ▶ レジストレーションの完了を通知する E-mail がお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処理を行っても無効として扱われます。レジストレーションの後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知の E-mail が届いた後に行ってください。

以上でレジストレーションは完了です。次に、環境設定を行います。

## 3.4.2 環境設定

- 1 レジストレーション完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。  
[次へ] をクリックします。
- 2 P-P 接続の環境設定を行います。

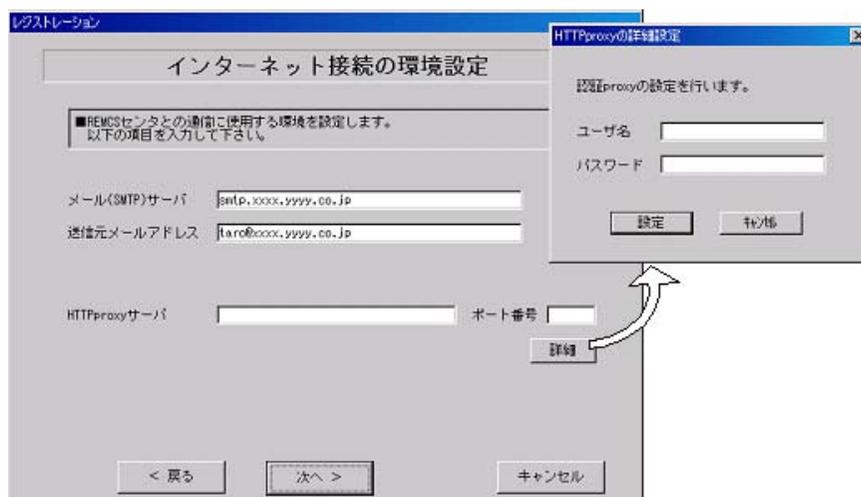


表 : P-P 接続の環境設定項目

項目	説明
メール (SMTP) サーバ	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
送信元メールアドレス	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
HTTPproxy サーバ	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
ポート番号	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
ユーザ名	設定不要です。
パスワード	設定不要です。

- 3 [次へ] をクリックします。  
RSB (PG-RSB101) が搭載されている場合、「RSB の環境設定」画面が表示されます。

4 項目を入力します。

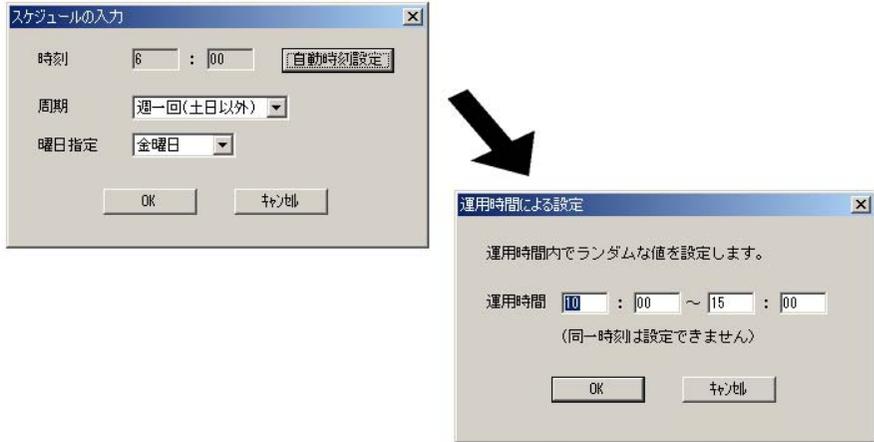
表 : RSB (PG-RSB101) の環境設定項目

項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するために RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 10 (単位 : 回)、初期値 5 回 (推奨)
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 60 (単位 : 分)、初期値 1 分 (推奨)

5 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

- 6 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



表：定期接続のスケジュール設定項目

項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ~ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。 また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回：月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

- 7 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

- 8 ファーム修正適用のスケジュールを設定します。手動適用／自動適用のいずれかを指定できます。[変更] をクリックして、適用方法を設定します。RSB (PG-RSB101) / SMB を搭載していない場合、ファーム適用機能は使用できませんので、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。

表：ファーム修正適用のスケジュール項目

項目	説明
手動適用 (初期値)	お客様が適用指示を出したときに適用処理を行います。
自動適用	最新ファームウェアをセンタからダウンロードした後、電源を入れ直したときに適用処理を行います。

- 9 [次へ] をクリックします。

「接続確認」画面が表示されます。

**10 接続確認を行います。接続確認結果通知の送信先を設定して、[接続確認] をクリックします。**

実施者（自分）への結果通知を行う場合は、通知する（通常形式）、または、通知する（携帯電話向け簡易方式）を選択して、結果通知先 E-mail アドレスに E-mail アドレスを入力してください。のちほど設定した E-mail アドレス宛に、接続確認完了を通知するメールが届きます。

P-P 接続の場合、RSB（PG-RSB101）のテストメール送信は使用できません。テストメール送信メッセージは [キャンセル] をクリックして終了してください。

表：接続確認入力項目

結果通知	項目	説明
お客様管理者への結果通知	通知する	お客様管理者へ接続確認結果を通知します。
	通知しない	お客様管理者へ接続確認結果を通知しません。
実施者への結果通知	通知する（通常形式）	実施者へ接続確認結果を通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。
	通知する（携帯電話向け簡易方式）	実施者へ接続確認結果を携帯電話で閲覧できる簡易方式で通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。
	通知しない	実施者へ接続確認結果を通知しません。

**POINT**

- ▶ 結果通知は、お客様管理者か実施者の少なくとも一方には「通知する」設定にする必要があります。両方とも「通知しない」設定にはできません。
- ▶ [FPD 保存] をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクに保存できます。保存した情報は、情報を再度設定する際や、他のサーバのレジストレーション設定時に利用できます。REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報しか保存できない場合があります。  
接続形態ごとに環境設定ファイルが異なります。保存したフロッピーディスクのラベルに接続形態名を記入しておいてください。
- ▶ トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.157) を参照して対処してください。
- ▶ 「デスクトップ上のレジストレーションアイコンは、サービス開始処理が完了した後 (接続確認まで完了した後)、自動的に消去されます。

以上でサービス開始作業は完了です。

**POINT**

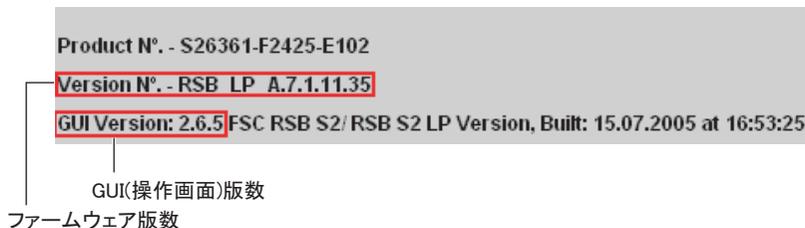
- ▶ SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」(→ P.184) を参照してください。

## 3.5 RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) の設定

RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) からセンタに異常通報を行うための設定について説明します。

### 重要

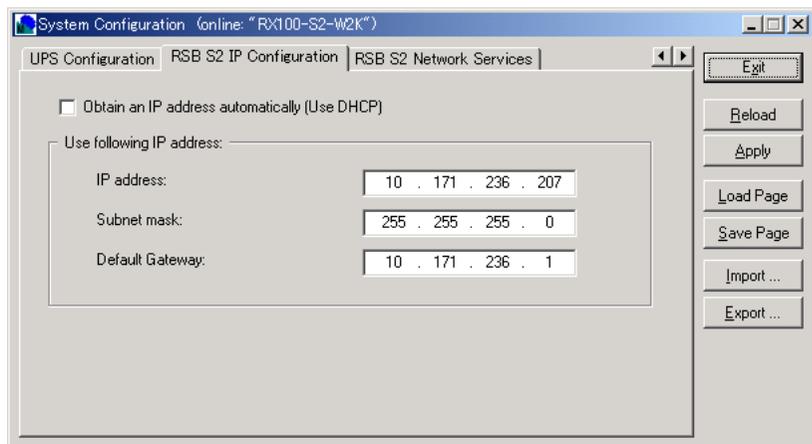
- ▶ 製品の出荷時期、搭載モデルにより、RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) のファームウェア版数が異なります。
- ▶ ファームウェア版数により、設定画面および設定手順が異なります。  
RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) のファームウェア版数は、以下の方法で確認できます。
  1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView」の順にクリックします。  
ServerView が起動します。
  2. サーバの機種名を右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」をクリックします。  
サーバのプロパティ画面が表示されます。
  3. [Remote Service Board] タブをクリックし、[設定] をクリックします。
  4. 「RSB 管理用の URL は SNMP によって自動的に検索されませんでした。デフォルトアドレスを使用しますか?」というメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。  
ブラウザが自動的に開きます。  
このとき、セキュリティの警告が表示される場合がありますが、「はい」をクリックしてください。  
RSB へのログイン画面左下にファームウェア版数が表示されます。



- ▶ RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) の設定を WEB ブラウザから行うには、Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition をインストールする必要があります。  
必要な Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のバージョンや動作環境などについては、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。
  - ・ インストール方法  
PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のインストーラを起動します (xx はバージョンを示します)。  
[CD-ROM ドライブ] :%\$V\$MANAGE%\$TOOLS%\$2re-x\_x\_x\_xx-windows-i586-p.exe

### 3.5.1 ネットワーク設定

- 1 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。System Configuration ウィンドウが表示されます。サーバの機種名が正しいことを確認してください。
- 3 「Change system selection manually」チェックボックス、「Remote Service Board(RSB S2)installed」チェックボックスにチェックを付けて [OK] をクリックします。
- 4 右上のスクロールバーによりタブをスクロールして、[RSB S2 IP Configuration] タブを選択します。
- 5 「Obtain an IP address automatically{Use DHCP}」チェックボックスのチェックを外し、リモートサービスボードの「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルト・ゲートウェイ」を入力します。



- 6 [Apply] をクリックして、設定を保存します。
- 7 [Exit] をクリックして設定画面を終了します。

## 3.5.2 アラート通報設定

---

ServerView を起動し、以下の設定を行ってください。

### 重要

- ▶ AUTH-SMTP 認証、POP before SMTP には対応していないため、これらの認証機能を利用する環境では RSB からのアラート通報は利用できません。
- ▶ RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) のアラート通報設定の実施後、RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) から送信されるメールはすべてアラート通報用のフォーマット (REMCS Mail Format) になります。

- 1 「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「Fujitsu ServerView」 → 「ServerView」の順にクリックします。  
ServerView が起動します。
- 2 サーバの機種名を右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」を選択します。  
サーバのプロパティ画面が表示されます。
- 3 [Remote Service Board] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックします。
- 5 「User ID」に「admin」、Password にパスワード（初期値は「admin」）を入力して [Login] をクリックします。

## 6 [Alarm Config] タブをクリックします。

7 「Mail Format」に「Fujitsu REMCS Format」を選択し、「SMTP Server」、「To」、「From」を入力します。

8 「SMTP Server」には SMTP サーバの IP アドレス、「To」にはセンタ E-Mail アドレス、「From」には送信元 E-Mail アドレスを入力します。

### POINT

#### 各設定値の確認方法

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作メニュー」の順にクリックして、運用操作メニューを起動します。
2. [環境設定] をクリックします。
3. [E-mail] タブをクリックします。  
設定値が表示されます。

### POINT

#### ファームウェア版数が RSB LP A.7.11.35 (GUI 版数 2.6.5) 以降の場合

- ▶ SMTP Server の名前 (FQDN) を直接指定することができます。ただし、サーバ名を直接指定するには、DNS サーバが設定されている必要があります。DNS サーバの設定は、[Card Config] タブの [Network Setting] をクリックして、IP アドレスなど必要な項目を設定してください。

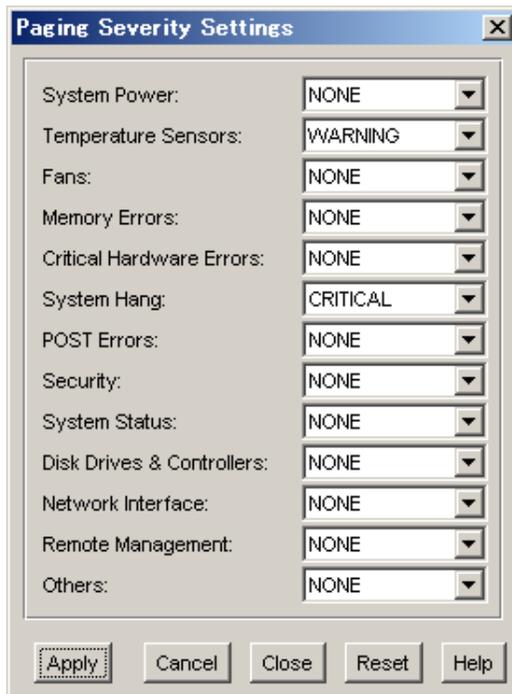
9 「Enable Email Paging」のチェックボックスにチェックを付けます。

10 [Apply] をクリックして設定を保存します。

11 「REMCS id」に装置 ID が表示されていることを確認します。

12 [Card Config] タブをクリックします。

13 [Paging Severity Settings...] をクリックし、項目の設定を確認します。



「Temperature Sensors」、「System Hang」項目が、「ALL」、「CRITICAL」、「WARNING」のいずれかに設定されていることを確認します。設定されていない場合は、「CRITICAL」に設定してください。また、それ以外の項目はすべて「NONE」に設定してください。

14 [Apply] をクリックします。

設定を変更していない場合は、[Close] をクリックしてください。

15 [Card Config] タブの [Reboot RSB S2] をクリックします。

16 「Do you want to reboot the RSB S2?」と確認のダイアログが表示されるので、「OK」をクリックします。

RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) が再起動した後、テストメールを送信して、SMTP サーバへの接続を確認できます。テストメール送信を行う場合は、続けて「■ テストメール送信」(→ P.89)を行ってください。

テストメール送信を行わない場合は、[Close] をクリックして終了します。

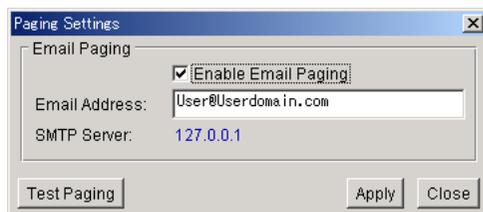
## ■ テストメール送信

テストメール送信により、SMTP サーバまでの経路確認を行うことができます。ただし、実施できる環境に限られます。実施できる環境の場合のみ行ってください。

### 重要

- ▶ P-P 接続環境では、テストメール送信は利用できません。
- ▶ テストメール送信の手順は、RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) のファームウェア版数により異なります。

- 1 「User ID」に「admin」、「Password」にパスワード（初期値は「admin」）を入力して [Login] をクリックします。
- 2 [User Config] タブをクリックします。
- 3 「Email Address」に、テストメールを送信する Email アドレス（管理者 Email アドレスなど）を入力して、[Apply] をクリックします。  
ファームウェア版数が RSB\_LP\_A.7.1.11.35(GUI 版数 2.6.5) 以前の場合は、上記操作後 [Paging Settings] をクリックしてください。以下の画面が表示されます。



- 4 [Test Paging] をクリックします。
- 5 「Message Text」に「TEST」と入力して、[Apply] をクリックします。  
「Paging call scheduled!」メッセージが表示され、テストメールが送信されます。  
ファームウェア版数が RSB\_LP\_A.7.1.11.35(GUI 版数 2.6.5) 以前の場合は、[Close] をクリックします。
- 6 「Email Address」に、元々入力されていたアドレス（センタ Email アドレス）に設定を戻し、[Apply] をクリックします。
- 7 [Logout] をクリックして終了します。

## 3.6 サーバダウン監視の設定

RSB を搭載している場合、サーバダウン監視機能を設定します。

### 3.6.1 一般サーバの場合

- 1 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) を CD-ROM ドライブにセットし、CD-ROM 内の "Remcs¥Tool¥rsb\_watchdog\_enable.exe" を実行します。  
サーバダウン監視を有効にするプログラムが起動します。  
正常に設定された場合は、RSB サーバダウン監視設定完了メッセージが表示されます。
- 2 [OK] をクリックします。  
サーバダウン監視が有効になります。

#### ■ サーバダウン監視を無効にする場合

サーバダウン監視を無効にする場合は、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) を CD-ROM ドライブにセットし、CD-ROM 内の以下を実行します。  
"Remcs¥Tool¥rsb\_watchdog\_disable.exe"

#### ■ 設定の確認

正常に設定されているかどうかの確認は、ServerView Console を使用して行えます。  
ServerView Console を起動し、サーバ上で右クリックして「ASRのプロパティ」を選択します。[ウォッチドッグ設定] タブを選択して確認します。  
初期設定では、サーバ (ServerView) から RSB へ3分間応答がなかった場合に、サーバダウンと認識されます。また、サーバダウンが発生しても、リポートせずに継続稼動するように設定されています。設定の変更は ServerView で行います。確認方法、および設定変更など、詳細については、『ServerView ユーザーズガイド 第3章 ServerView の使用方法』を参照してください。

## 3.6.2 ブレードサーバの場合

---

- 1 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) を CD-ROM ドライブにセットし、CD-ROM 内の  
"Remcs¥Tool¥BX300\_rsb\_watchdog\_enable.exe" を実行します。  
サーバダウン監視を有効にするプログラムが起動します。正常に設定された場合は、RSB サーバダウン監視設定完了メッセージが表示されます。
- 2 [OK] をクリックします。  
サーバダウン監視が有効になります。

### ■ サーバダウン監視を無効にする場合

サーバダウン監視を無効にする場合は、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) を CD-ROM ドライブにセットし、CD-ROM 内の以下を実行します。  
"Remcs¥Tool¥BX300\_rsb\_watchdog\_disable.exe"

## 3.7 POST 監視 / OS ブート監視の設定

POST 監視機能、OS ブート監視機能を設定します。

なお、POST 監視機能、OS ブート監視機能は、お使いの機種によっては対応していない場合があります。対応の有無については、サーバに添付のマニュアルを参照してください。

### 3.7.1 一般サーバの場合

POST 監視機能は、標準で有効に設定されているため、設定を行う必要はありません。

OS ブート監視機能については、『ServerView ユーザーズガイド』の「異常発生時の対処 (ASR)」に記載の「起動監視」を参照して、機能を有効に設定してください。

#### 重要

- ▶ 待ち時間を超過した場合の対応については、「継続稼動する」の設定を推奨します。OS ブート監視は、基本的に POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの時間を監視することにより、OS の起動を監視します。待ち時間（タイムアウト時間）の設定が不適切な場合には、サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。機能を設定する際には、『ServerView ユーザーズガイド』を参照して、機能の仕様と運用方法を十分理解したうえで正しく設定してください。

### 3.7.2 ブレードサーバの場合

POST 監視機能は、標準で有効に設定されているため、設定を行う必要はありません。

OS ブート監視機能については、ブレードサーバの『ハードウェアガイド マネジメントブレード編』の「Web UI」にある「Server Blade グループ」の項目（Boot Watchdog）、または『ServerView ユーザーズガイド』の「異常発生時の対処 (ASR)」に記載の「起動監視」を参照して、機能を有効に設定してください。

#### 重要

- ▶ 待ち時間を超過した場合の対応については、「継続稼動する」の設定を推奨します。OS ブート監視は、基本的に POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの時間を監視することにより、OS の起動を監視します。待ち時間（タイムアウト時間）の設定が不適切な場合には、サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。機能を設定する際には、『ServerView ユーザーズガイド』を参照して、機能の仕様と運用方法を十分理解したうえで正しく設定してください。

## 3.8 サービス開始後の設定変更

サービス開始後に、設定内容を変更する方法について説明します。

### 3.8.1 レジストレーションの変更

レジストレーション時に登録した情報を更新します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [レジストレーション] をクリックします。  
「接続形態選択」画面が表示されます。
- 3 [次へ] をクリックします。  
「レジストレーション」画面が表示されます。
- 4 [次へ] をクリックします。  
「お客様情報の入力」画面が表示されます。
- 5 「ご登録の種別」は「更新」を選択し、変更の必要な情報を修正します。
- 6 [次へ] をクリックします。  
「設置場所の入力」画面が表示されます。
- 7 以降、ご利用の接続形態の場合を参考に、接続確認まで操作してください。
  - ・「3.1 インターネット接続の場合」(→ P.40)
  - ・「3.2 インターネット接続 (メール) / P-P 接続 (ISDN : メール) / P-P 接続 (VPN : メール) の場合」(→ P.52)
  - ・「3.3 P-P 接続 (ISDN) の場合」(→ P.64)
  - ・「3.4 P-P 接続 (VPN) の場合」(→ P.74)情報の更新の完了は、後ほどセンタから管理者宛に E-mail で通知されます。

#### POINT

- ▶ 続けてセンタ接続形態の変更、環境設定の変更も行うことができます。

### 3.8.2 環境設定の変更

環境の変更により、メールサーバ・Proxy サーバなどを変更した場合は、以下の手順に従って環境設定の変更を行ってください。接続形態にかかわらず、操作は共通です。インターネット接続 (メール) の場合は、一部変更できない項目があります。

## ■ 定期接続時刻の変更

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [環境設定] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3 [サービス] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックします。  
「定期接続設定スケジュール」画面が表示されます。
- 5 スケジュールを変更し、[OK] をクリックします。  
次回接続時間が表示されます。
- 6 [OK] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面に戻ります。
- 7 [OK] をクリックします。  
設定確認メッセージが表示されます。
- 8 [OK] をクリックします。  
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。  
REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

## ■ HTTP 設定の変更

インターネット接続（メール）の場合は、この項目は変更できません。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [環境設定] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3 [HTTP] タブをクリックします。
- 4 HTTP 情報を変更し、[OK] をクリックします。  
設定確認メッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。  
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。  
REMCS センタと正常に接続できるか「接続確認」を実施して確認してください。

## ■ E-mail 設定の変更

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [環境設定] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3 [E-Mail] タブをクリックします。
- 4 E-mail 環境の設定を変更し、[OK] をクリックします。  
設定確認メッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。  
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。  
REMCS センタと正常に接続できるか「接続確認」を実施して確認してください。

## ■ RSB (PG-RSB101) 設定の変更

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [環境設定] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3 [RSB] タブをクリックし、RSB (PG-RSB101) の設定を変更します。
- 4 [OK] をクリックします。  
設定確認メッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。  
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
- 6 RSB の環境設定を確認するため、「REMCS 環境設定」画面をもう一度開いて、[RSB] タブをクリックし、[テストメール送信] をクリックします。  
正しく設定が行われている場合、結果メッセージが表示されます。

### 重要

- ▶ P-P 接続の場合はテストメール送信は利用できません。

## ■ OS イベントログへの通知情報出力レベルの設定変更

お客様のサーバから REMCS センタにメールで送信している通知情報を、OS イベントログ上で確認できます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [環境設定] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3 [基本設定] タブをクリックします。  
「基本設定」画面が表示されます。
- 4 イベントログへの通知情報出力レベルを変更し、[OK] をクリックします。

表：イベントログの出力レベル

出力レベル	説明
出力しない（初期値）	OS イベントログに通知情報を出力しません。
異常系の通知のみ出力	メール送信に失敗したときに OS イベントログに通知情報を出力します。
異常系以外の通知を出力	メール送信に成功したときに OS イベントログに通知情報を出力します。
すべての通知を出力	メール送信の成功／失敗にかかわらず、OS イベントログに通知情報を出力します。

- 5 [OK] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面に戻ります。
- 6 [OK] をクリックします。  
設定確認メッセージが表示されます。
- 7 [OK] をクリックします。  
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

## ■ メール分割設定の設定変更

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [環境設定] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3 [E-Mail] タブをクリックします。  
「E-Mail 設定」画面が表示されます。

- 4 メール分割設定を変更し、[OK] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。  
「REMCS 環境設定」画面に戻ります。
- 6 [OK] をクリックします。  
設定確認メッセージが表示されます。
- 7 [OK] をクリックします。  
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

## 3.9 オンラインアップデート

最新ファームウェアと REMCS エージェントのアップデートをダウンロードし、適用する方法について説明します。

### 3.9.1 ファームウェアのアップデート

REMCS センタから、本体、内蔵オプション、外付オプションの最新ファームウェアをダウンロードして、装置に適用します。通常、定期接続時に自動的に最新ファームウェアがダウンロードされますが、必要に応じて手動でダウンロードすることもできます。ダウンロードしたファームウェアは、サーバの電源再投入時に自動的に適用したり、フロッピーディスクから適用したりすることができます。ファームウェア適用後、自動的に新しい構成情報がセンタに転送されます。

#### 重要

- ▶ PRIMERGY L100、PRIMERGY L100E、PRIMERGY RX100、PRIMERGY ECONEL30、PRIMERGY ECONEL40、PRIMERGY RXI600、PRIMERGY RXI300、ブレードサーバでは、ファームアップデートをサポートしていません。
- ▶ メンテナンス区画をサポートしていない装置では、メンテナンス区画を使用したファームアップデートをサポートしていません。

#### ■ ファームウェアを自動ダウンロードする

最新ファームウェアを定期接続時に自動的にダウンロードします。初期設定は、自動ダウンロードに設定されています。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [ファーム管理] をクリックします。  
「ファーム管理」画面が表示されます。
- 3 [ファーム運用設定] をクリックします。  
「ファームウェア運用設定」画面が表示されます。
- 4 [有効] をクリックします。  
手動でダウンロードするように設定したい場合は、[無効] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

## ■ ファームウェアを手動ダウンロードする

最新ファームウェアを手動でダウンロードします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [ファーム管理] をクリックします。  
「ファーム管理」画面が表示されます。
- 3 [ファーム手動受信処理] をクリックします。  
「ファームウェア手動受信処理」画面が表示されます。
- 4 [OK] をクリックします。  
ダウンロードが開始されます。

### POINT

- ▶ 「最新世代のファームがありません。」というメッセージが表示された場合は、REMCS センタに最新のファームウェアは登録されていないので、ファーム受信と適用は不要です。

## ■ ファームウェアを適用する

ダウンロードしたファームウェアを、サーバーの電源再投入時に自動的に適用、または手動で適用できます。

### POINT

- ▶ この機能を使用するためには、RSB (PG-RSB101) または SMB と、メンテナンス区画が必要です。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [ファーム管理] をクリックします。  
「ファーム管理」画面が表示されます。
- 3 [ファーム運用設定] をクリックします。  
「ファームウェア運用設定」画面が表示されます。
- 4 適用処理を行います。

#### 自動適用の場合

1. [自動適用] をクリックします。
2. [スケジュール設定] をクリックします。
3. [OK] をクリックします。

以降、サーバーの電源再投入時に、未適用のファームウェアがあれば、自動的に適用処理が行われます。

#### 手動適用の場合

1. [手動適用] をクリックします。
2. [スケジュール設定] をクリックします。

3. [OK] をクリックします。
4. サーバをシャットダウンして電源を切断します。
5. サーバの電源を再投入します。  
ファームウェア適用ツールが起動して、ファームウェアを適用します。  
適用後、自動的に Windows が起動します。

### 重要

- ▶ 自動適用の場合、ファームウェア適用時は、ファームウェアの適用ツールの都合上、適用中に複数回サーバを再起動することがあります。1回の再起動で1種類の装置のみ適用されます。
- ▶ 手動適用の場合、ファームウェア適用後、適用スケジュールは自動的にスケジュールキャンセル状態に戻ります。
- ▶ 適用スケジュールが「次回電源投入時、ファーム適用します」（スケジュール設定状態）になっている場合には、REMCS エージェントをアンインストールしないでください。
- ▶ ファームウェア適用後に、ファームウェア受信、スケジュール設定/キャンセル操作を行う場合は、OS 起動後 10 分経過してから実施してください。

## ■ 適用フロッピーディスクを使って適用する

適用フロッピーディスクを使って、ファームウェアを適用します。

### POINT

- ▶ RSB（または SMB）、メンテナンス区画がないときに、適用フロッピーディスクを使用します。
- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
  - 2 [ファーム管理] をクリックします。  
「ファーム管理」画面が表示されます。
  - 3 [ファーム運用設定] をクリックします。  
「ファームウェア運用設定」画面が表示されます。
  - 4 DOS システムが転送されたフロッピーディスクをセットします。
  - 5 「受信ファームウェア一覧」で適用したいファームウェアアーカイブ名を選択して、[適用フロッピー作成] をクリックします。  
適用フロッピーディスクが作成されます。  
ファームウェアの説明ファイルがある場合は、説明内容が表示されます。
  - 6 適用フロッピーディスクをセットしたまま、サーバを再起動します。  
再起動後、自動的にファームウェア適用処理が行われます。
  - 7 適用処理完了後、適用フロッピーディスクを取り出し、サーバの電源を切ります。
  - 8 サーバの電源を入れます。

## 3.9.2 REMCS エージェントのアップデート

REMCS センタから REMCS エージェントのアップデートをダウンロードして装置に適用します。必要に応じて手動でダウンロードして適用します。

### ■ アップデータをダウンロードする

REMCS エージェントのアップデートを手動でダウンロードします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [REMCS 保守] をクリックします。  
「REMCS 保守」画面が表示されます。
- 3 [REMCS ダウンロード] をクリックします。  
ダウンロードが開始されます。  
ダウンロードが完了すると、ダウンロード状況一覧の状況がすべて「ダウンロード済み」になります。

### ■ アップデータを適用する

ダウンロード済の REMCS エージェントのアップデートを適用します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [REMCS 保守] をクリックします。  
「REMCS 保守」画面が表示されます。
- 3 [REMCS アップデート] をクリックします。  
アップデート確認メッセージが表示されます。
- 4 [インストール開始] をクリックしてください。  
アップデートが始まります。アップデートが完了すると、アップデート完了メッセージが表示されます。
- 5 [OK] または [いますぐ再起動する] をクリックします。  
再起動が必要な場合は、システムを再起動しないと有効になりませんのでご注意ください。
- 6 適用後、運用操作メニューの [構成情報] をクリックして、最新の情報をセンタに送信します。

## 3.10 REMCS センタとの接続停止／再開

サーバと REMCS センタの接続を停止します。

### 重要

- ▶ サーバを長時間停止する場合（たとえば、年末年始など）や、システムのメンテナンス（メールサーバやネットワークのメンテナンスを含む）を実施する場合など、定期接続ができないときに REMCS センタとの接続を停止してください。
- ▶ REMCS センタとの接続を停止した後、システムの運用を再開した時には、必ず「センタ接続再開」を行ってください。

### 3.10.1 REMCS センタとの接続を停止する

REMCS センタとの接続（リモートサポートサービス）を停止します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [センタ接続停止] をクリックします。  
確認画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。  
運用操作メニューのセンタ接続ステータスが「センタ接続停止中」になります。

### 重要

- ▶ センタ接続停止中は、REMCS センタとの接続処理を一切行いません。また、[環境設定]、[センタ接続再開] と [センタ接続停止] 以外は選択できなくなります。
- ▶ 停止していた間のイベントは、REMCS センタに通知されません。

### 3.10.2 REMCS センタとの接続を再開する

REMCS センタとの接続（リモートサポートサービス）を再開します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [センタ接続再開] をクリックします。  
確認画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。  
運用操作メニューのセンタ接続ステータスが「センタ接続中」になります。

## 3.11 構成情報送信

サーバおよびサーバに搭載・接続されているハードウェアと、サーバにインストールされているソフトウェアの構成情報を REMCS センタに送信します。

### POINT

- ▶ 構成情報は、定期接続時に自動的に送信されます。この操作は、定期接続時間前に構成情報を送る必要がある場合に使用します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [構成情報] をクリックします。  
「構成情報」画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。  
REMCS センタに、新しい構成情報が送信されます。  
正常に送信できた場合は、正常完了メッセージが表示されます。

## 3.12 接続確認

REMCS センタと正常に接続できることを確認します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [接続確認] をクリックします。  
「接続確認」画面が表示されます。
- 3 接続確認結果通知の送信先を設定して、[OK] をクリックします。  
実施者（自分）への結果通知を行う場合は、「通知する（通常形式）」、または「通知する（携帯電話向け簡易方式）」を選択して、結果通知先 E-mail アドレスに E-mail アドレスを入力してください。しばらくすると、設定した E-mail アドレス宛に接続確認完了を通知するメールが届きます。

### POINT

- ▶ 結果通知は、お客様管理者か実施者の少なくとも一方には「通知する」設定にしてください。両方とも「通知しない」設定にはできません。

## 第 4 章

# 障害発生時の対応

# 4

装置に異常が発生したり、ネットワーク環境でトラブルが発生したりした場合は、内容に応じて保守作業を行います。この章では、障害発生時の対処方法について説明します。

4.1 障害発生について .....	106
4.2 保守作業の開始／終了 .....	108
4.3 ソフトウェア調査資料の収集・送信 .....	109
4.4 FTvirtual Server のソフトウェア調査資料の収集・送信 .	119
4.5 調査資料の管理 .....	121
4.6 SIRMS の環境設定 .....	126

## 4.1 障害発生について

装置に異常が発生した場合、センタに異常を通知します。センタで通知を受け取った後、サポート要員がただちに対応を開始します。

また、接続確認の実施でエラーが発生した場合は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.157) を使用して、原因究明・調査資料の収集を行ってください。

### 4.1.1 通知される主な障害

通知される主な障害は、以下の表のようなものがあります。サーバの機種や I/O 装置の機種によって、サポートしている項目／通知障害の種類は変わります。

#### ■ サーバ本体

表：サーバ本体の障害

項目	通知障害
システムファン プロセッサファン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンが故障したとき</li> <li>・ファンの回転数が低下したとき</li> </ul>
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモリが故障したとき (マルチビットエラー)</li> </ul>
温度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャーシ内の温度が危険温度に達したとき</li> </ul>
電圧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電源ユニットの電圧が危険電圧に達したとき</li> </ul>
電源ユニット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電源ユニットが故障したとき</li> <li>・電源ユニットのファンが故障したとき</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーバがダウンしたとき</li> <li>・POST、OS 起動中にエラーなどで停止したとき</li> </ul> <p>[注] 上記の通報を行うには RSB を搭載したうえで、監視機能を正しく設定しておく必要があります。</p>

#### ■ I/O 装置

表：I/O 装置の障害

項目	通知障害
ハードディスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードディスクが故障したとき</li> </ul>
RAID	<ul style="list-style-type: none"> <li>・RAID を構成するハードディスクが故障して、RAID の状態が危険状態になっています。</li> </ul>

## 4.1.2 サーバに表示されるメッセージ

サーバに表示されるメッセージは、インストールした Servervisor のバージョンにより異なります。メッセージ内容の詳細については、Servervisor のマニュアルやヘルプをご覧ください。

### ■ Servervisor V1.0 をご使用の場合

表：Servervisor V1.0 のメッセージ

メッセージ (F3GE Message Box)	対象
Source= Local Response Agent EventID= 11 Event Type= xxxx Component Name= Intel Corporation,Baseboard Group= xxxx Severity= Critical, Non-Critical, Information Instance= x System= OtherSubSystem= Other	電圧、温度、ファン、プロセッサ、メモリ、筐体、電源ユニット、その他のサーバ本体で障害が発生した場合に表示されるメッセージです。
Source= FSC EventID= 100xx Description= xxxx	
Source= Alert Definition Originator EventID= 3 アラート = xxxx コンポーネント名 = xxxxxxxx 重要度 = 危険、警告、情報	オンボード SCSI コントローラ、SCSI カード、SCSI アレイコントローラカード、IDE コントローラ、ハードディスクキャビネット、バックアップキャビネット、SMB などの I/O 装置で障害が発生した場合に表示されるメッセージです。

### ■ Servervisor V1.1 以降をご使用の場合

表：Servervisor V1.1 以降のメッセージ

メッセージ (FUJITSU Eventlog Agent)	対象
Source= Alert Definition Originator EventID= 3 ベースボード監視機能 メッセージ: xxxx で異常を検出しました 重要度: 危険、警告 センサ番号: x	電圧、温度、ファン、プロセッサ、メモリ、筐体、電源ユニット、IMP、その他のサーバ本体で障害が発生した場合に表示されるメッセージです。
Source= Alert Definition Originator EventID= 3 xxxxxxx 監視機能 メッセージ: xxxx で異常を検出しました 重要度: 危険、警告	
Source= Alert Definition Originator EventID= 3 xxxxxxx 監視機能 メッセージ: xxxx で異常を検出しました 重要度: 危険、警告	オンボード SCSI コントローラ、SCSI カード、SCSI アレイコントローラカード、IDE コントローラ、ハードディスクキャビネット、バックアップキャビネット、SMB などの I/O 装置で障害が発生した場合に表示されるメッセージです。

## 4.2 保守作業の開始／終了

保守作業を行う場合は、センタに保守作業中であることを通知し、「保守作業中」状態にします。

### 重要

- ▶ 「保守作業中」状態のときは、センタへの障害の通知を抑止します。

### 4.2.1 保守作業開始の通知

保守作業を開始することをセンタに通知し、「保守作業中」状態にします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [保守作業開始] をクリックします。
- 3 確認ダイアログが表示されますので、[OK] をクリックします。  
運用操作メニューの保守作業ステータスが「保守作業中」になります。

### 4.2.2 保守作業終了の通知

保守作業を終了したことをセンタに通知し、「保守作業中」状態にします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [保守作業終了] をクリックします。
- 3 確認ダイアログが表示されますので、[OK] をクリックします。  
運用操作メニューの保守作業ステータスが「運用中」になります。

### POINT

- ▶ 保守作業によって構成情報に変更があった場合は、自動的に新しい構成情報がセンタに転送されません。

## 4.3 ソフトウェア調査資料の収集・送信

ソフト障害発生時には、ソフトウェアの詳細な調査資料を REMCS センタに送信する必要があります。

以下の操作を行って、サーバにインストールされているソフトウェアの調査情報を収集してください。

### ■ 調査資料収集ツール

ソフトウェア障害発生時の調査資料収集には、SIRMS と QSS 収集ツールが用意されています。

#### ● SIRMS

SIRMS はソフトウェア障害発生時の調査資料収集／資料管理／送信をするツールです。

SIRMS のメニュー経由で QSS 収集ツールを呼び出し、資料収集を行います。

サポート要員から特に指示がない場合は、SIRMS を使って資料収集を行ってください。

#### ● QSS 収集ツール

QSS 収集ツールは、サポート要員からの指示があった時に使用します。SIRMS が存在しない場合でも、QSS 収集ツール単体で使用できます。

### 👉 重要

- ▶ Windows NT4.0 の場合は SIRMS バージョン 1.x.x.x がインストールされます。SIRMS のバージョンが 1.x.x.x の場合の操作は「付録 B ソフトウェア調査資料の収集と送信 (SIRMS バージョン 1 の場合)」(→ P.173) を参照してください。
- ▶ SIRMS バージョン 4.x.x.x は CUI の操作画面となっています。
- ▶ SIRMS にて調査資料を行うには、収集結果最大サイズ (初期値 : 300MB)、ディスク空き領域 (初期値 : 100MB)、その他 (5MB) の約 405MB の空き領域が必要です。
- ▶ 調査資料の収集を行う前に、サーバの CPU 使用率が 100% になっていないことを確認してください。CPU 使用率が 100% の状態で、調査資料の収集を行わないでください。通常より CPU 使用率が高い状態で調査資料の収集を実施して失敗した場合は、CPU 使用率が通常の状態に戻ってから、再度、調査資料の収集を行ってください。
- ▶ お客様の設定により、メール送信できるファイルのサイズを制限している場合、ソフトウェア調査資料を REMCS センタに送信できない場合があります。制限サイズを確認し、送信するファイルサイズの最大値 (初期値 : 2000KB) を変更してください。

### ■ 調査資料収集ツールの機能

調査資料収集ツールでは、以下の機能を使用します。

- 調査資料を一括収集・送信  
簡単な操作で、すべての有効な QSS 収集ツールから複数の資料を収集します。操作は簡単ですが、収集時間がかかり、収集する資料の量も多くなります。
- 調査資料を個別収集・送信  
有効な QSS 収集ツールを個別に選択して資料を収集します。

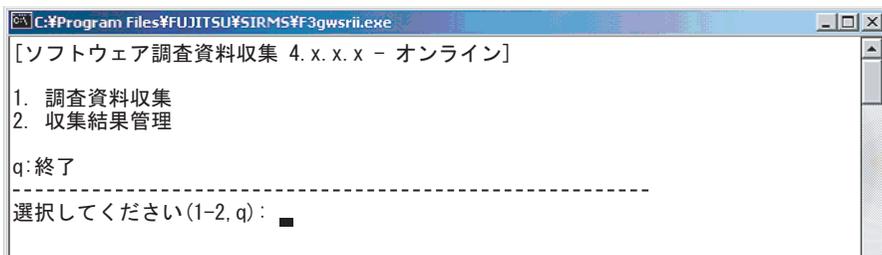
- QSS 収集ツールの一覧表示  
QSS 収集ツールの有効／無効を一覧で表示します。

### 4.3.1 SIMRS を起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [資料収集・送付] をクリックします。  
コマンドプロンプト画面が表示され、SIRMS が起動し、バージョンと接続状態、メニューが表示されます。

#### POINT

- ▶ 「スタート」ボタン→「REMCS SIRMS」→「ソフトウェア調査資料収集」の順にクリックした場合も SIRMS を起動できます。



#### ● 接続状態について

接続状態は、以下の状態により、「オンライン」か「オフライン」かで表示されます。

表：接続状態

接続状態	レジストレーション	サーバ運用状態
オンライン	済	運用中
		保守中
オフライン	未	—
	済	接続停止中

- 接続状態は SIRMS 起動時に環境（レジストレーション、サーバ運用状態）から判断します。
- オンライン時のみ調査資料を送信することができます。
- サーバ運用状態については「3.10 REMCS センタとの接続停止／再開」（→ P.102）、「4.2 保守作業の開始／終了」（→ P.108）を参照してください。

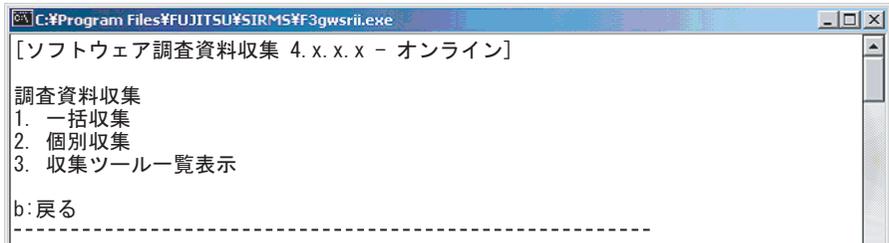
## 4.3.2 調査資料を一括収集・送信する

### POINT

- ▶ 調査資料の一括収集・一括送信は、収集対象のソフトウェアの数(起動するQSS収集ツールの数)が多い場合には、収集時間が数分~数十分かかる場合があります。また、収集した情報量(データサイズ)が大きい場合には送信時のサイズ制限により、送信できない場合があります。その場合には、「4.6.1 ユーザー設定管理」(→P.127)を参照のうえ、送信ファイル最大サイズを大きくしてください。

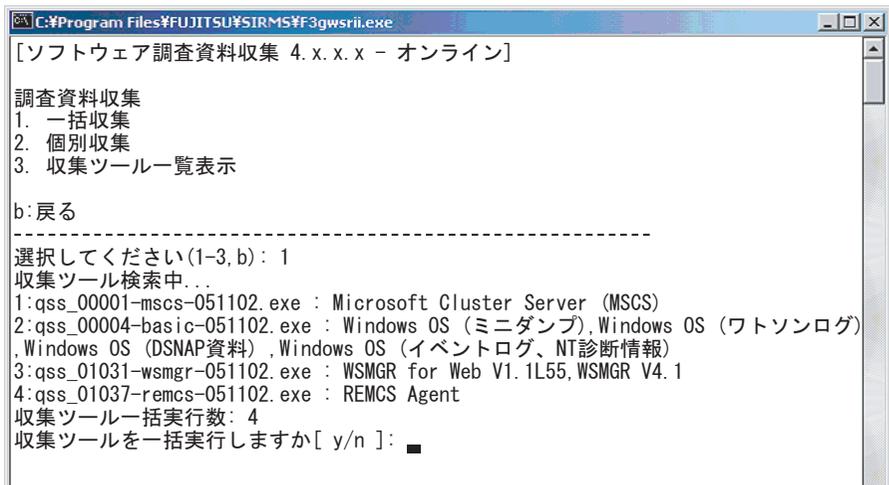
- 1 SIMRS を起動します。
- 2 【1】キーを押し、【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューが表示されます。



- 3 【1】キーを押し、【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツールが自動で検索され、最新の有効な QSS 収集ツールのファイル名・調査資料名・実行数が表示されます。



4 調査資料名と実行数を確認し【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

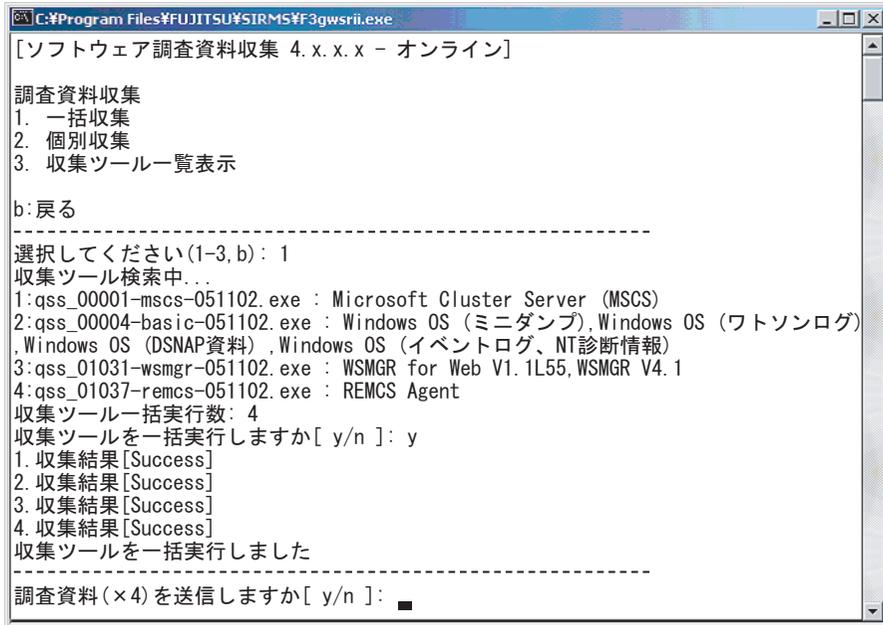
収集しない場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツールにて調査資料の収集が開始されます。

新しいコマンドプロンプト画面が表示され、調査資料収集の所要時間が表示されます。

収集が終わるとコマンドプロンプト画面は終了し、QSS 収集ツールの実行数分収集が繰り返されます。

5 収集処理が終わると、調査資料収集の結果が表示されます。



表：収集結果

出力	結果	内容	次処理
Success	収集成功	収集に成功	実行対象があれば収集処理は続行
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生	実行対象があれば収集処理は続行
SizeOver	収集スキップ	設定されている制限サイズを超えた	実行対象があっても以降の収集処理はすべてスキップ

- 6 REMCS センタへ送信する場合は、調査資料の送信数を確認して【y】キーを押し、【Enter】キーを押します。

#### POINT

- ▶ 送信しない場合は【n】キーを押して【Enter】キーを押します。
- ▶ 接続状態が「オンライン」の場合のみ REMCS センタへの送信が行えます。接続状態がオフライン時にはこの項目は表示されません。

インシデント番号を入力するよう、メッセージが表示されます。

```

C:\Program Files\FUJITSU\SIRMS\F3gwsrui.exe
調査資料収集
1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示

b: 戻る

-----
選択してください(1-3, b): 1
収集ツール検索中...
1:qss_00001-mscs-051102.exe : Microsoft Cluster Server (MSCS)
2:qss_00004-basic-051102.exe : Windows OS (ミニダンプ),Windows OS (ワトソンログ)
,Windows OS (DSNAP資料) ,Windows OS (イベントログ, NT診断情報)
3:qss_01031-wsmgr-051102.exe : WSMGR for Web V1.1L55, WSMGR V4.1
4:qss_01037-remcs-051102.exe : REMCS Agent
収集ツール一括実行数: 4
収集ツールを一括実行しますか [ y/n ]: y
1. 収集結果 [Success]
2. 収集結果 [Success]
3. 収集結果 [Success]
4. 収集結果 [Success]
収集ツールを一括実行しました

-----
調査資料 (x4) を送信しますか [ y/n ]: y
インシデント番号を入力してください [a-z, A-Z, 0-9, -]:

```

- 7 インシデント番号を入力し、【Enter】キーを押します。  
サポート要員から伝えられたインシデント番号（英数+ハイフン）を入力してください。  
インシデント番号を確認するメッセージが表示されます。
- 8 インシデント番号を確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。  
インシデント番号を修正する場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押し、インシデント番号を再度入力してください。  
複数の調査資料の送信が開始されます。

9 調査資料送信の結果が表示されたら一括収集処理は完了です。

送信結果は、以下のように表示されます。

表：送信結果

表示	送信結果	内容	処理
Success	送信成功	送信に成功	送信対象があれば送信処理は続行
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生	送信対象があれば送信処理は続行
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた	送信対象があれば送信処理は続行
NoFile	送信失敗	送信する調査資料がなかった	送信対象があれば送信処理は続行

10 【Enter】キーを押し、調査資料収集のメニューに戻ります。

POINT

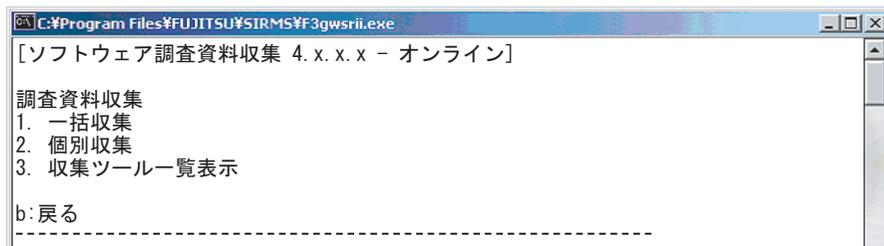
- ▶ デスクトップにある資料一括収集のショートカットからも一括収集を行えます。収集した資料の保存場所については、「4.5 調査資料の管理」(→P.121)を参照してください。

### 4.3.3 調査資料を個別収集・送信する

1 SIMRS を起動します。

2 【1】キーを押して【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューが表示されます。



3 【2】キーを押して【Enter】キーを押します。

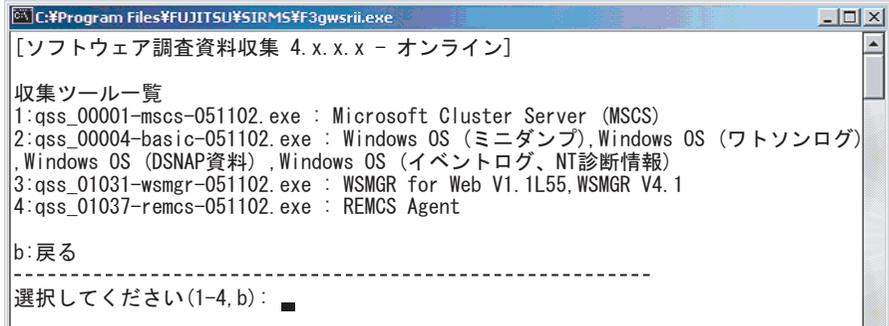
有効な QSS 収集ツールを自動で検索します。

検索された QSS 収集ツールのファイル名・調査資料名一覧が表示されます。

10 個以上存在する場合は次のページに表示されます。

#### 4 実行する QSS 収集ツールの番号を押して【Enter】キーを押します。

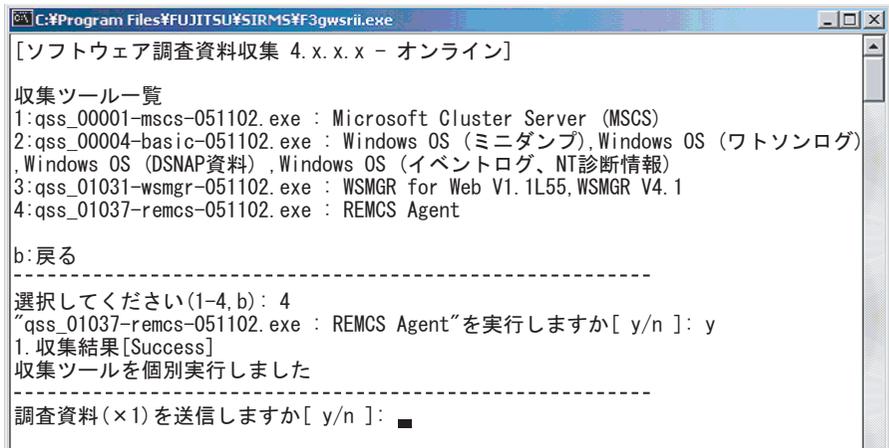
選択した QSS 収集ツールのファイル名・調査資料名が表示されます。



#### 5 実行する QSS 収集ツールを確認し【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

選択した QSS 収集ツールにて調査資料の収集が開始されます。

#### 6 収集処理が終わると、調査資料収集の結果が表示されます。



表：収集結果

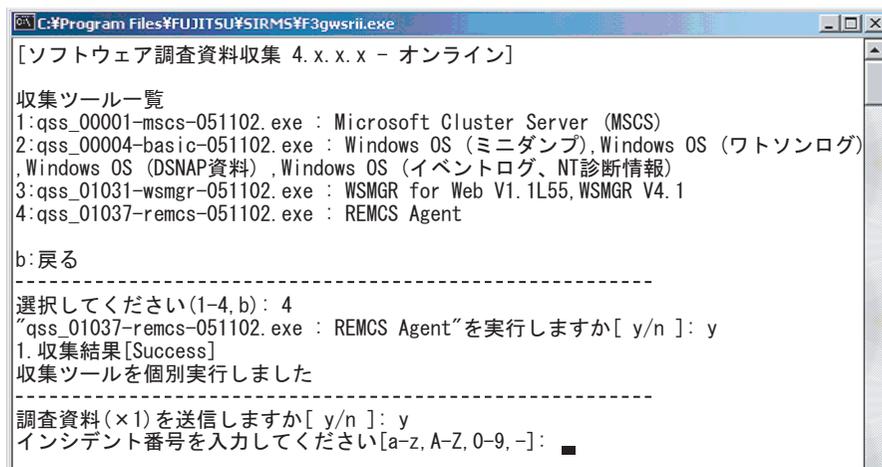
表示	結果	内容
Success	収集成功	収集に成功
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生
SizeOver	収集スキップ	設定されている制限サイズを超えた

#### 7 REMCS センタへ送信する場合は、調査資料の送信数を確認して【y】キーを押し、【Enter】キーを押します。

##### POINT

- ▶ 送信しない場合は【n】キーを押して【Enter】キーを押します。
- ▶ 接続状態が「オンライン」の場合のみ REMCS センタへの送信が行えます。接続状態がオフライン時にはこの項目は表示されません。

インシデント番号を入力するよう、メッセージが表示されます。



**8 インシデント番号を入力します。**

サポート要員から伝えられたインシデント番号（英数+ハイフン）を入力し、【Enter】キーを入力します。

**9 インシデント番号を確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。**

インシデント番号を修正する場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押し、インシデント番号を再度入力してください。  
複数の調査資料の送信が開始されます。

**10 調査資料送信の結果が表示されたら個別収集処理は完了です。**

送信結果は、以下のように表示されます。

表：送信結果

表示	結果	内容
Success	送信成功	送信に成功
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた
NoFile	送信失敗	送信する調査資料がなかった

**11 【Enter】キーを押し、調査資料収集のメニューに戻ります。**

収集した資料の保存場所については、「4.5 調査資料の管理」(→ P.121)を参照してください。

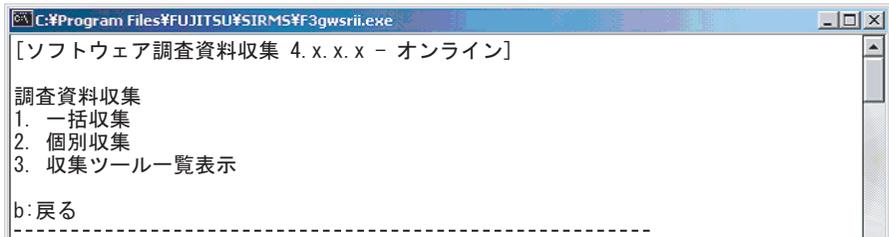
### 4.3.4 QSS 収集ツールを一覧表示する

収集ツール配置パスに配置された QSS 収集ツールを一覧表示します。QSS 収集ツールの有効／無効も表示されます。

表示されていない QSS 収集ツールを追加したい場合は、「4.6.3 QSS 収集ツールの追加」(→ P.131) を参照してください。

- 1 SIMRS を起動します。
- 2 【1】 キーを押して【Enter】キーを押します。

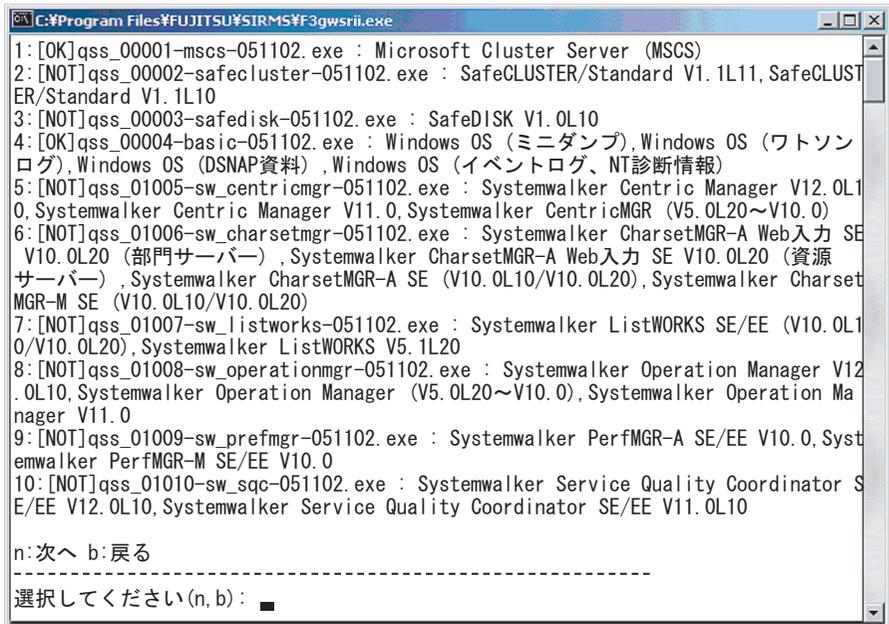
調査資料収集のメニューが表示されます。



- 3 【3】 キーを押して、【Enter】キーを入力します。

有効な QSS 収集ツールを自動で検索します。

検索された QSS 収集ツールの有効／無効、ファイル名・調査資料名一覧が表示されます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。



表：QSS 収集ツール検索結果の表示

表示	結果	内容
OK	有効	収集可能な QSS 収集ツール
OLD	無効	古いバージョンの QSS 収集ツール
NOT	無効	収集対象の製品がインストールされていない
ENCRYPT	無効	暗号化モジュールが組み込まれている QSS 収集ツール
QSSANY	無効	収集に適さない QSS 収集ツール

注：無効な QSS 収集ツールは調査資料を収集できません。

- 4 【b】 キーを押して【Enter】キーを押し、調査資料収集のメニューに戻ります。

## 4.4 FTvirtual Server のソフトウェア調査資料の収集・送信

FT モデルで、ソフトウェア調査資料を収集してセンタに送信する場合は、以下の操作を行ってください。

### 1 FTvirtual Server 上で調査資料を収集します。

一括収集する場合は、「4.3.2 調査資料を一括収集・送信する」(→ P.111) の手順 1～5 までを行います。

個別収集する場合は、「4.3.3 調査資料を個別収集・送信する」(→ P.114) の手順 1～5 までを行います。

### 2 【n】キーを押して【Enter】キーを押し、SIRMS を終了します。

#### POINT

▶ 収集した調査資料をそのまま REMCS センタに送信することはできません。

### 3 FTvirtual Server 上で収集した資料を CoServer 上にコピーするために、CoServer 上の適当なフォルダを、ネットワーク上で共有します。

1. CoServer 上でエクスプローラを起動します。
2. 共有するフォルダ上で右クリックして、「共有…」をクリックします。
3. [このフォルダを共有する] をクリックして、共有名を入力します。  
アクセス許可を設定したい場合は、[アクセス許可] をクリックして設定します。
4. [OK] をクリックします。

### 4 資料を CoServer 上にコピーします。

1. CoServer 上で FTvirtual Server Desktop を起動します。  
FTvirtual Server Desktop の表示方法については、FT モデルの『ユーザーズガイド』を参照してください。
2. FTvirtual Server にログオンします。
3. FTvirtual Server 上で「スタート」メニュー → 「検索」 → 「ファイルやフォルダ…」の順にクリックし、検索画面を起動します。
4. 「ほかの項目を検索 :」の「コンピュータ」をクリックします。
5. コンピュータ名に CoServer のホスト名 (IP アドレスも可) を入力して、[検索開始] をクリックします。
6. 表示されたコンピュータをダブルクリックして、コンピュータにログオンします。  
ログオン後、共有したフォルダが表示されます。
7. 資料が格納されているフォルダを、共有したフォルダにコピーします。  
資料が格納されているフォルダは、「4.5 SIRMS の環境設定」の「■ ユーザー設定の設定値」の収集結果のパスを参照してください。

### 5 フォルダの共有を解除します。

1. CoServer 上でエクスプローラを起動します。

2. 共有するフォルダ上で右クリックして、「共有…」をクリックします。
  3. [このフォルダを共有しない] をクリックします。
  4. [OK] をクリックします。
- 6 CoServer 上で、コピーした調査資料を SIRMS の収集結果のパスにコピーします。
- SIRMS の収集結果のパスは、「4.5 SIRMS の環境設定」の「 ユーザー設定の設定値」の収集結果のパスを参照してください。
- 7 CoServer 上で、コピーした資料を送信します。
- 「4.4.1 収集結果を一覧表示する」の「 収集結果を REMCS センタへ送信する」(→ P.124) を参照してください。

## 4.5 調査資料の管理

収集済みの調査資料を送信したり削除するなどの管理について説明します。

### ■ 収集結果管理機能

収集結果の管理では、以下の機能を使用します。

- 収集結果を一覧表示する  
調査資料の収集 / 送信結果を一覧にて表示します。
- 収集結果を REMCS センタへ送信する  
調査資料を REMCS センタへ再送信する場合に使用します。
- 収集結果を削除する  
調査資料を削除します。
- 収集結果を取り出し手操作でメールなどにて送信する  
送信サイズの上限を超えているため、REMCS センタへの送信ができない場合に使用します。

収集した調査資料は、収集結果パス配下に格納されます。収集結果は、以下のような、すべてのユーザに共通なアプリケーションデータディレクトリ内に作成されます。

表：デフォルトで設定されている収集結果パス

収集結果パス（環境変数を使用可）
%ALLUSERSPROFILE%\Application Data\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3
例) c:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Fujitsu\SIRMS\SaveArea3

表：収集結果パス配下ファイル

名前	説明
収集結果パス\ └ ezcollectYYYYMMDDHHMISSMMM\ ├ sirms_result.txt	収集結果があるディレクトリ 収集単位毎の調査資料があるディレクトリ 実行結果ファイル
├ incident.txt	インシデントファイル
└ ezcollectYYYYMMDDHHMISS\ ├ ez.log	収集した資料のディレクトリ QSS 収集ツールの動作ログ
├ result.txt	収集したファイル一覧
├ sirms_result.txt	個別実行結果ファイル
├ resultYYYYMMDDHHMISS.ex_	調査資料アーカイブ
└ resultYYYYMMDDHHMISSextract.ex_	調査資料アーカイブ（抽出処理済み）

[注] YYYYYMMDDHHMISSMMM は、調査資料収集を行った年月日時分秒ミリ秒になります。

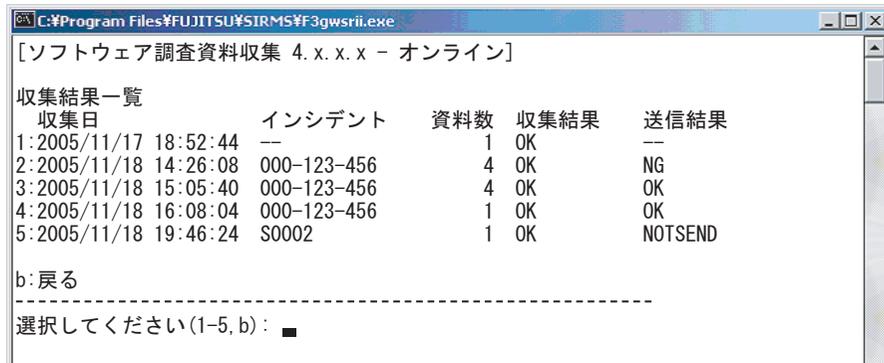
## 4.5.1 収集結果を一覧表示する

### 1 SIMRS を起動します。

起動手順については、「4.3.1 SIMRS を起動する」(→ P.110) を参照してください。

### 2 【2】 キーを押して【Enter】キーを押します。

収集結果の一覧が表示されます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。



表：収集結果一覧

項目名	内容
収集日	収集結果の収集日
インシデント番号	送信時に使用したインシデント番号
資料数	調査資料の数
収集結果	収集結果一覧-収集結果参照
送信結果	収集結果一覧-送信結果参照

表：収集結果一覧-収集結果（一括収集 / 個別収集の収集結果）

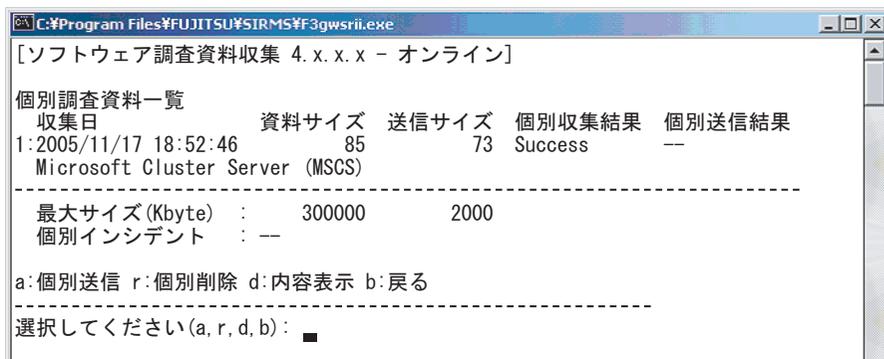
表示	結果	内容
OK	収集成功	収集に成功
NG	収集失敗	一つでも収集に失敗した

表：収集結果一覧-送信結果（最新の送信結果）

表示	結果	内容
OK	送信成功	送信に成功
NG	送信失敗	一つでも送信に失敗した
NOTSEND	—	送信を行っていない
PART.OK	送信成功	個別送信に成功
PART.NG	送信失敗	個別送信に失敗

### 3 調査資料一覧を表示したい数字キーを押して【Enter】キーを押します。

調査資料の一覧が表示されます。複数の資料が含まれている場合は、すべての資料に対して操作できます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。



表：調査資料一覧

項目名	内容
収集日	各調査資料の収集日
資料サイズ	各調査資料のサイズ
送信サイズ	送信する各調査資料のサイズ
個別収集結果	調査資料一覧—個別収集結果参照
個別送信結果	調査資料一覧—個別送信結果参照
(調査資料名)	各調査資料名
資料合計	調査資料の合計サイズ
最大サイズ—資料サイズ	調査資料の最大のサイズ
最大サイズ—送信サイズ	送信する調査資料の最大サイズ
インシデント	送信時に使用したインシデント番号

表：調査資料一覧—個別収集結果

表示	結果	内容
Success	収集成功	収集に成功した
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生した
SizeOver	収集スキップ	設定されている制限サイズを超えた

表：調査資料一覧—個別送信結果

表示	結果	内容
Success	送信成功	送信に成功した
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生した
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた
NoFile	送信失敗	送信する調査資料がない
NotSend	—	送信を行っていない

### 4 行いたい管理操作キーを選択します。

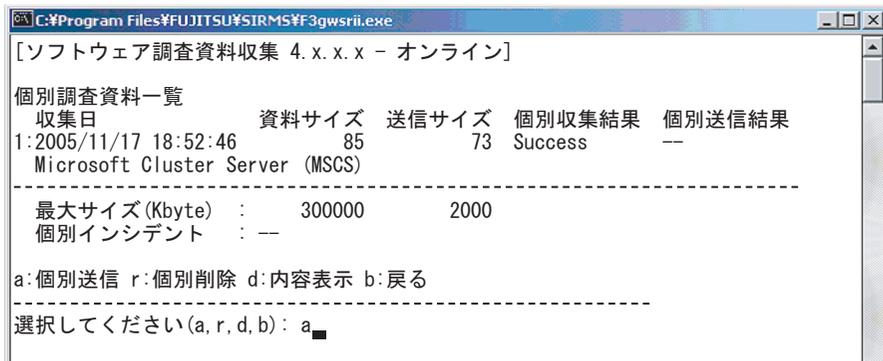
- 「■ 収集結果を REMCS センタへ送信する」 (P.124)
- 「■ 収集結果を削除する」 (P.125)
- 「■ 収集結果を取り出し手操作でメールなどにて送信する」 (P.125)

## ■ 収集結果を REMCS センタへ送信する

- 1 調査資料の一覧表示画面で【a】キーを押して、【Enter】キーを押します。

### POINT

- ▶ 接続状態がオフライン時には一括送信が表示されません。

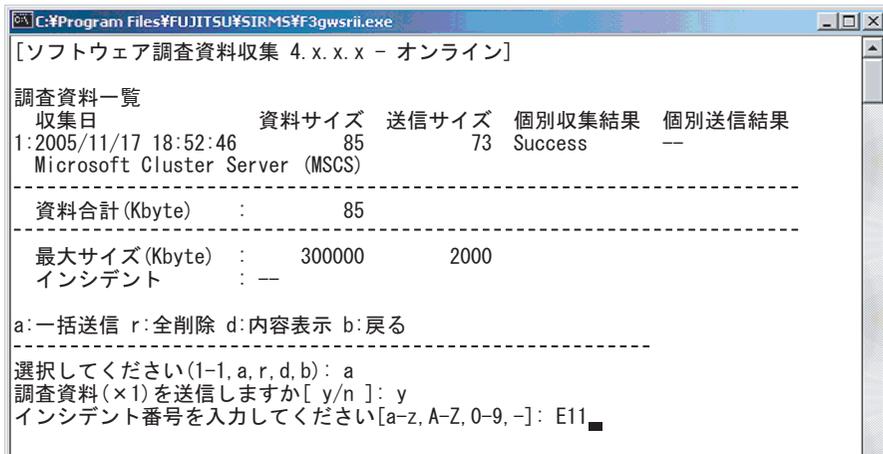


- 2 調査資料の送信数を確認し【y】キーと【Enter】キーを押します。

- 3 インシデント番号を入力し、【Enter】キーを押します。

サポート要員から伝えられたインシデント番号（英数+ハイフン）を入力してください。

インシデント番号を確認するメッセージが表示されます。



- 4 インシデント番号を確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

入インシデント番号を修正する場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押し、インシデント番号を再度入力してください。

複数の調査資料の送信が開始されます。

## 5 調査資料送信の結果が表示されたら処理は完了です。

送信結果は、以下のように表示されます。

表：送信結果

表示	結果	内容	次処理
Success	送信成功	送信に成功	送信対象があれば送信処理は続行
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生	送信対象があれば送信処理は続行
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた	送信対象があれば送信処理は続行
NoFile	送信失敗	送信する調査資料がなかった	送信対象があれば送信処理は続行

## 6 【Enter】キーを押し、調査資料収集のメニューに戻ります。

### ■ 収集結果を削除する

- 1 調査資料の一覧画面で【r】キーを押して【Enter】キーを押します。
- 2 削除する収集結果のパスを確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。  
全削除の処理が行われます。
- 3 【Enter】キーを押し、収集結果一覧に戻ります。

### ■ 収集結果を取り出し手操作でメールなどにて送信する

- 1 調査資料の一覧画面で【d】キーを押して【Enter】キーを押します。
- 2 収集結果のパスを指定するエクスプローラが開きます。

調査資料を他の媒体（DAT などの外部記憶装置）に保存して REMCS センタに郵送するか、調査資料をメールの添付書類としてサポートデスクへ送信してください。送信先は、弊社サポート要員の指示に従ってください。



## 4.6 SIRMS の環境設定

調査資料収集における送信ファイルサイズや、ファイルの保存先などを変更します。サポート要員の指示がない場合は変更を行わないでください。

### ■ ユーザー設定の設定値

あらかじめユーザー設定値として、以下の値が設定されています。

表：ユーザー設定管理－設定値

項目名	デフォルト値 [範囲]
収集ツール配置パスファイルのパス	C:\Program Files\FUJITSU\SIRMS\pool.txt
収集結果のパス	C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3
収集結果最大サイズ	300000 [20000-2048000] KB
収集結果最大保存数	5 [0-256]
送信ファイル最大サイズ	2000 [1-5000] KB
収集ツール実行待ち時間	3600 [2400-7200] 秒
収集ツール判断待ち時間	10 [10-60] 秒
ディスク空き領域	100000 [20000-1024000] KB

### ■ ユーザー設定管理機能

ユーザー設定管理機能により、以下の設定値変更を行えます。

- QSS 収集ツール配置パスファイルのパスを設定する  
QSS 収集ツール配置パス（QSS 収集ツールを配置するディレクトリ）の情報が入ったファイルパスを設定します。環境変数を使用することができます。
- 収集結果パスを設定する  
収集結果を出力するディレクトリパスを設定します。  
環境変数を使用することができます。
- 収集結果最大サイズを設定する  
収集結果の最大のサイズを設定します。
- 収集結果最大保存数を設定する  
収集結果の最大保存数を設定します。  
収集後に収集結果の数が値を超えた場合は、古い順から削除されます。
- 送信ファイル最大サイズを設定する  
REMCS センタへ送信する調査資料の最大サイズを設定します。  
値を超えた場合は、サイズ内に納まるよう調査資料を抽出し送信します。
- QSS 収集ツール実行待ち時間を設定する  
QSS 収集ツールが調査資料を収集している最大時間を設定します。  
基本的に変更は行いませんが、低スペックマシン使用時に変更します。  
タイムアウトした場合は、送信が行われないことがあります。

- QSS 収集ツール判断待ち時間を設定する  
QSS 収集ツールの有効／無効を判断する時間を設定します。  
基本的に変更は行いませんが、低スペックマシン使用時に変更します。  
タイムアウトした場合は、無効な QSS 収集ツールと判断されます。
- ディスク空き領域を設定する  
収集結果パスが設定されているディスクの、最低限使用してはいけないサイズを設定します。  
ハードディスクの容量が少ない場合に変更します。

## ■ 収集ツール配置パス管理機能

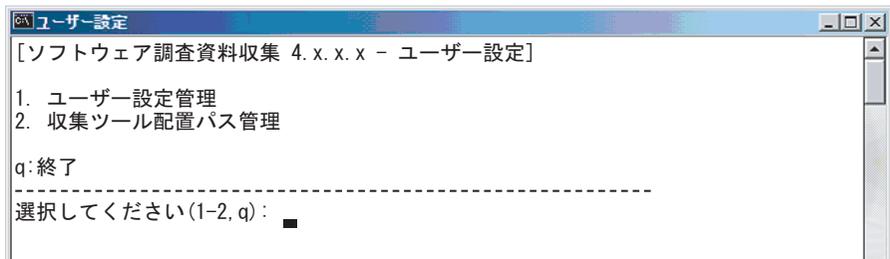
収集ツール配置パス管理については、以下の機能で行います。

- QSS 収集ツール配置パスに追加する  
QSS 収集ツールを配置するディレクトリを QSS 収集ツール配置パスに追加します。
- QSS 収集ツール配置パスから削除する  
QSS 収集ツール配置パスに登録されているディレクトリパスを削除します。
- QSS 収集ツール配置パスを一覧表示する  
QSS 収集ツール配置パスに登録されているディレクトリパスを一覧表示します。

### 4.6.1 ユーザー設定管理

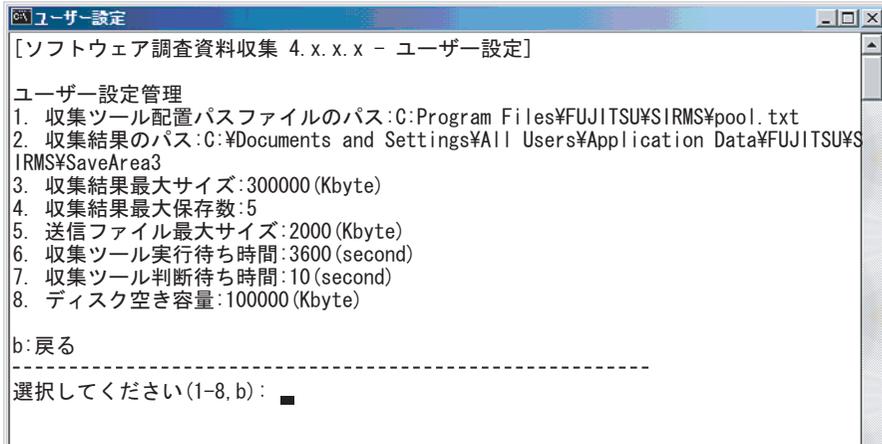
- 1 「スタート」ボタン→「REMCS SIRMS」→「ユーザー設定」の順にクリックします。

コマンドプロンプトが開き、ユーザー設定メニューが表示されます。



2 【1】 キーを押して【Enter】キーを押します。

ユーザー設定管理のメニューと現在の設定情報が表示されます。



表：ユーザー設定管理メニュー

数字キー	ユーザー設定管理機能名
【1】	収集ツール配置パスファイルのパス
【2】	収集結果のパス
【3】	収集結果最大サイズ
【4】	収集結果最大保存数
【5】	送信ファイル最大サイズ
【6】	収集ツール実行待ち時間
【7】	収集ツール判断待ち時間
【8】	ディスク空き領域

3 設定を行う項目の数字キーを押して【Enter】キーを押します。

4 設定する値を入力して【Enter】キーを押します。

入力せずに、【Enter】キーを押した場合はデフォルト値が設定されます。

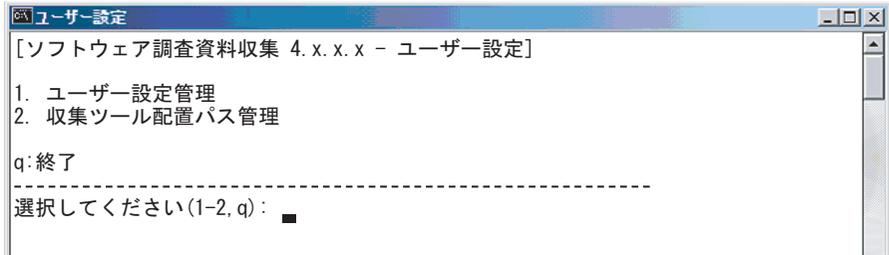
5 入力した値を確認し【y】キーと【Enter】キーを押します。

6 他の設定項目を変更する場合は、手順3～5を行います。すべての設定が終了したら【Enter】キーを押し、ユーザー設定メニューに戻ります。

## 4.6.2 収集ツール配置パス管理

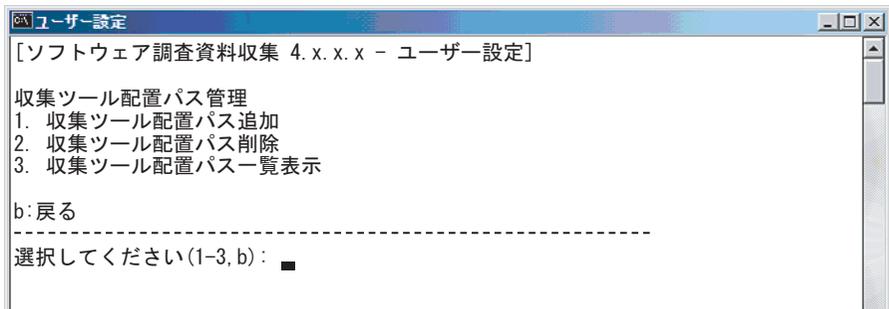
- 1 「スタート」ボタン→「REMCS SIRMS」→「ユーザー設定」の順にクリックします。

コマンドプロンプトが開き、ユーザー設定メニューが表示されます。



- 2 【2】キーを押して【Enter】キーを押します。

収集ツール配置パス管理のメニューが表示されます。



- 3 操作を行う数字キーを押して【Enter】キーを押します。

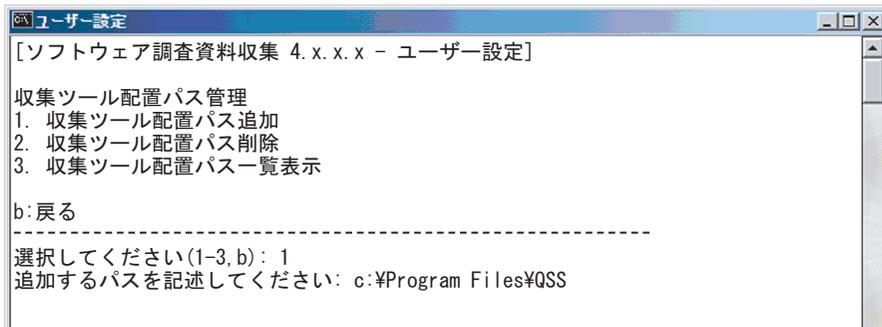
- 「■ QSS 収集ツール配置パスに追加する」(P.129)
- 「■ QSS 収集ツール配置パスから削除する」(P.130)
- 「■ QSS 収集ツール配置パスを一覧表示する」(P.131)

### ■ QSS 収集ツール配置パスに追加する

- 1 【1】キーを押して【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツールを配置するディレクトリパスを入力するようメッセージが費用時されます。

2 追加するパスを入力し、【Enter】キーを押します。



3 入力したパスを確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

4 QSS 収集ツール配置パスに追加しました。

追加を終了する場合は、【y】キーと【Enter】キーを押します。収集ツール配置パス管理のメニューに戻ります。

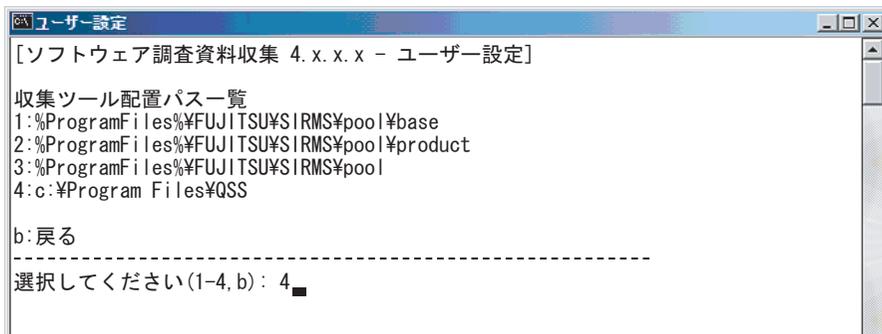
更に追加したい場合は、【n】キーと【Enter】キーを押して手順2～3を行います。

■ QSS 収集ツール配置パスから削除する

1 【2】キーと、【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツール配置パスの一覧が表示されます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。

2 削除したい数字キーと、【Enter】キーを押します。



3 選択したパスを確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します

パスが削除されます。

4 【Enter】キーを押します。

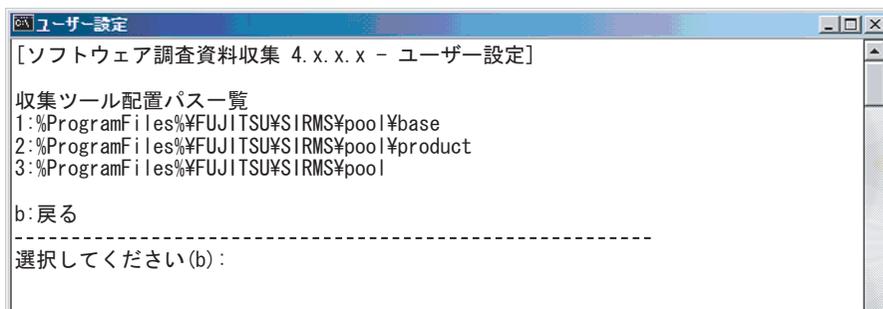
QSS 収集ツール配置パスの一覧が更新され表示されます。

収集ツール配置パス管理のメニューに戻る場合は、【b】キーと【Enter】キーを押します。

## ■ QSS 収集ツール配置パスを一覧表示する

### 1 【3】 キーを押して【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツール配置パスの一覧が表示されます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。



### 2 表示を終了し、収集ツール配置パス管理のメニューに戻る場合は、【b】キーを押して【Enter】キーを押します。

## 4.6.3 QSS 収集ツールの追加

弊社サポート要員より渡された QSS 収集ツールを QSS 収集ツール配置パスに配置すると、SIRMS の収集対象を追加できます。

SIRMS の収集ツール一覧に存在しない収集対象は、弊社サポート要員より入手して追加してください。

### 1 QSS 収集ツール配置パス (%PROGRAMFILES%\%Fujitsu\SIRMS\%pool) に、入手した QSS 収集ツールを配置します。

例) C:\Program Files\Fujitsu\SIRMS\%pool

表：デフォルトで設定されている QSS 収集ツール配置パス

QSS 収集ツール配置パス（環境変数を使用可）	種類	説明
%ProgramFiles%\FUJITSU\SIRMS\%pool%\base 例) c:\Program Files\FUJITSU\SIRMS\%pool%\base	同梱用	SIRMS に同梱されている QSS 収集ツールを配置するディレクトリです。
%ProgramFiles%\FUJITSU\SIRMS\%pool%\product 例) c:\Program Files\FUJITSU\SIRMS\%pool%\product	製品用	製品にバンドルされている QSS 収集ツールを配置するディレクトリです。
%ProgramFiles%\FUJITSU\SIRMS\%pool 例) c:\Program Files\FUJITSU\SIRMS\%pool	その他	弊社サポート要員から入手した QSS 収集ツールを配置するディレクトリです。

### 2 SIRMS V4 を起動し、目的の製品が QSS 収集ツールに対応している場合は、収集ツール一覧表示で「OK」と表示されます。

QSS 収集ツールの一覧表示については、「4.3.4 QSS 収集ツールを一覧表示する」（→ P.117）を参照してください。



## 第 5 章

# REMCS エージェントの トラブルシューティング

この章では、REMCS エージェントに関するトラブルと対処方法、環境チェックツールについて説明しています。

5.1	インストール時のトラブル	134
5.2	サービス開始時のトラブル	137
5.3	運用操作メニューのトラブル	144
5.4	その他のトラブル	155
5.5	REMCS エージェント環境チェックツール	157
5.6	REMCS エージェントのバージョン確認	165
5.7	REMCS エージェントのアンインストール	166

## 5.1 インストール時のトラブル

REMCS エージェントのインストール時に発生するトラブル、およびインストール時に表示されるメッセージへの対処方法を説明します。

### 5.1.1 トラブルと対処方法

表：トラブルと対処方法

トラブル	対処方法
インストーラが起動しない。	すでにインストーラが起動しています。あるいは、他のアプリケーションと競合している可能性があります。起動中の他のアプリケーションを終了してから、インストーラを起動してください。
Global Flash Service または Global Flash Tool のインストールで止まったまま、先に進まない。	タスクバーやデスクトップ上に、最小化されたメッセージが表示されていないか確認してください。最小化されたメッセージが表示されている場合は、元のサイズに戻してメッセージを確認し、処理を指示してください。
Global Flash Tool のインストール時、Example.zip のコピー後で Global Flash Tool のインストールが止まってしまった。	インストーラを強制終了して、再度インストール（上書きインストール）を実施してください。
SIRMS V3.0 のインストール時、内部エラーが発生した。	エラーメッセージを閉じていったんインストールを終了して、再度インストール（上書きインストール）を実施してください。
REMCS エージェントのインストール後、ErrNotify メッセージが表示された。	ErrNotify メッセージは、お客様がまだレジストレーション前に装置異常が発生した場合に表示されます。異常に関する情報がイベントログに出力されていますので、内容を確認のうえ、サポート要員にご連絡ください。

### 5.1.2 メッセージと対処方法

表：メッセージと対処方法

メッセージ	対処方法
アドミニストレータでログインしてください。	Administrator 権限のあるユーザでログインし直し、再度インストールを行ってください。
[プログラムの追加と削除]の使用は制限されています。管理者に問い合わせてください。	Administrator 権限のあるユーザでログインし直し、再度インストールを行ってください。
メモリ領域を確保できませんでした。	インストール作業のためのメモリ領域を確保しようとして失敗しました。他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてから再度インストールを行ってください。
レジストリ操作 (xxx) に失敗しました。	xxx 情報をレジストリに書き込む際にエラーが発生しました。いったんインストールを中止し、Administrator 権限でログオンしているか確認してください。その後、再度 REMCS エージェントのインストーラを起動し、上書きインストールを行ってください。

表：メッセージと対処方法

メッセージ	対処方法
SNMP サービスが動作していません。続行できません。	SNMP サービスがインストールされていないか、あるいは正常に動作していません。以下の手順で対処してください。 Windows のタスクマネージャを起動して、REMCS エージェントのインストールを強制終了します。 SNMP サービスをインストールします。 REMCS エージェントを上書きインストールします。
Intel® LANDesk® Server Manager Server Service のインストールされたパスが見つかりません。セットアップを中止します。	Servervisor が正常にインストールされていません。いったんインストールを中止し、再度 REMCS エージェントのインストーラを起動し、上書きインストールを行ってください。
メモリが "read" になることはできませんでした。	Srvctrl.exe アプリケーションエラーです。このエラーが発生しても、以降のインストールや運用に影響はありません。[OK] をクリックしてメッセージ画面を閉じ、作業を続行してください。
SIRMS メッセージ通報機能がインストールできません。SIRMS 3.0 以上が必要です。	対処は不要です。お客様のシステム上にインストールされている Internet Explorer のバージョンが 4.01SP1 未満の場合、SIRMS メッセージ通報機能はインストールされません。
セーフモードか Windows インストーラがインストールされていません。	SIRMS V1 を手動でインストールしてください。以下のファイルをダブルクリックしてください。以降は画面の指示にしたがって進めてください。 "Remcs\Sirms\1\setup.exe"
既に新しいバージョンの REMCS エージェント V1.0Lxx がインストールされています。	V3.1 以降の REMCS エージェントがインストールされているサーバ上で V3.0 以前の REMCS エージェント CD をセットしていません。インストールを中止し、CD を取り出してください。
FT モデル初期処理準備中です。しばらく待ってからレジストレーションしてください。	「2.1.3 FT モデルの場合」(→ P.30) を参照の上、FT モデルの場合のサービス開始前の準備を実施してください。
サービスのオープンに失敗しました。 : <サービス名>	コントロールパネルから「サービス」を起動して、表示されているサービスのスタートアップ設定を「自動」に変更して、サービスを起動してください。
サービスの開始に失敗しました。 : <サービス名>	
サービスのクローズに失敗しました。 : <サービス名>	
サービスのスタートアップの種類を「自動」に変更できませんでした。 : <サービス名>	
<プログラム名> のインストールに失敗しました。REMCS エージェントのインストールを中止します。	システムを再起動してから、もう一度インストールを行ってください。

### 5.1.3 スクリプト実行時間の設定について

起動通知／停止通知コマンドを登録すると、OS 起動時と OS シャットダウン時に、スタートアップスクリプト・シャットダウンスクリプト実行中のメッセージが表示されるようになります。このメッセージが 10 分以上続いて表示される場合のみ、以下の手順に従ってスクリプト実行時間の設定を行ってください。

初期値では、コンピュータの一連のスクリプト実行時間の上限は、最高 600 秒（10 分）に設定されています。この上限値を超えたときはスクリプト実行は途中で中止されます。その場合、起動通知／停止通知がセンタに送信されない場合があります。

一連の処理を実行したときに 600 秒を超える可能性が高い場合は、この上限値を調整して対処することができますが、仕様と運用方法を十分理解したうえで正しく設定してください。

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に「gpedit.msc」と入力して、[OK] をクリックします。  
グループポリシー画面が表示されます。
- 3 「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」→「システム」→「ログオン」の順にクリックします。
- 4 「スクリプトの実行時間の上限を設定する」をダブルクリックします。  
スクリプトの実行時間の上限を設定するのプロパティ画面が起動します。
- 5 「有効」をクリックし、「時間（秒）」に、一連のスクリプトに対してコンピュータを待機させる時間を入力します。  
1 から 32,000 までの秒数を入力します。コンピュータの待ち時間を無制限にするには、0 を指定します。

#### POINT

- ▶ 待ち時間を過度に長くすると、システムに遅延が生じ、他のユーザーに迷惑がかかる可能性があります。待ち時間が短かすぎると、必要なタスクが実行されず、システムが不完全な状態になる可能性があります。

- 6 [OK] をクリックし、プロパティ画面を閉じます。
- 7 グループポリシー画面を閉じます。

## 5.2 サービス開始時のトラブル

サービス開始時に発生するトラブル、およびサービス開始時に表示されるメッセージへの対処方法を説明します。

接続確認の実施でエラーが発生した場合は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→P.157)を使用して、原因究明や、調査資料の収集を行ってください。

### 5.2.1 トラブルと対処方法

表：トラブルと対処方法

トラブル	対処方法
Fujitsu SMB ユーティリティがスタートメニューに存在しない。	SMB 管理ツールがインストールされていません。 REMCS エージェントの上書きインストールを行ってください。
RSB からのテストメールを実施した後、応答がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークの状態が悪い場合や設定に誤りがある場合に、最长で 10 分の間リトライを行います。テストメールの結果メッセージが表示されるまで、お待ちください。</li> <li>P-P 接続 (ISDN)、P-P 接続 (VPN) で接続している場合は、テストメール機能は利用できません (エラー終了)。</li> <li>AUTH-SMTP 認証、POP before SMTP には対応していないため、これらの認証機能を利用する環境ではテストメール機能は利用できません (エラー終了)。</li> </ul>
Global Array Manager (GAM) エージェント検出のエラーイベント、またはブレードサーバのマネジメントブレード検出のエラーイベントがリモート通報されない。	これらのイベントは GAM エージェント、またはマネジメントブレードが送信した SNMP トラップを ServerView の AlarmService が受信し、ローカルのイベントログにログ出力したものを REMCS エージェントが通報する仕組みになっています。AlarmService は SNMP トラップ送信元がサーバリストに登録されていない場合、不明なトラップとして処理し、イベントログにログ出力しません。サーバリストに登録する場合は、ServerView の管理コンソールに監視対象のサーバ、またはマネジメントブレードを登録してください。イベントログにログ出力されているにもかかわらず通報されないイベントは通報対象外です。
レジストレーション時に画面に表示された装置 ID が、ハードウェアの保証書および筐体に貼付のラベルに書かれている装置 ID と一致しない。	使用しているシステムディスクが別の装置からコピーされたものかどうかを確認してください。コピーされたものを使用した場合、コピー元装置の装置 ID が取り込まれている可能性があります。「1.4.3 システムディスクをコピーして他のサーバシステムを構築する場合」(→P.20) の「装置 ID の削除手順」を参照して、装置 ID を削除してください。
RSB (PG-RSB102 / PG-RSB103(L) / PG-RSB104) からエラー通報メールが送信されない。	Severity 設定でメール送信しないように設定されている可能性があります。「3.5.2 アラート通報設定」(→P.86) の設定手順 11 ~ 13 を参照し、Severity 設定を確認してください。

## 5.2.2 メッセージと対処方法

### ■ レジストレーションと環境設定に関するメッセージ

表：レジストレーションと環境設定に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
xxx が不正です。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力された値が不適当です。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力された文字に、指定できない文字が入っています。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
未入力の項目があります。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力されたデータが長すぎます。	制限字数を超える文字を入力しています。 制限字数を確認して、もう一度入力してください。
入力桁オーバー	制限字数を超える文字を入力しています。 制限字数を確認して、もう一度入力してください。
モデル名が見つかりません。確認してください。	入力した型名に対応するモデル名が見つかりません。 入力した型名が正しいかどうか確認してください。
チェックコードに誤りがあります。再入力してください。	入力したチェックコードが間違っています。 入力したチェックコードが正しいかどうか確認してください。
メールサーバに接続できません。	メールサーバに接続できませんでした。 ネットワークへのケーブルの接続、メール (SMTP) サーバのホスト名または IP アドレス、SMTP サーバが動作しているかを確認してください。
スケジュールを入力してください。	定期接続スケジュールが正しく設定されていません。 正しく設定してください。
曜日を指定してください。	定期接続スケジュール設定の曜日が正しく設定されていません。 正しく設定してください。
日付を指定してください。	定期接続スケジュール設定の日付が正しく設定されていません。 正しく設定してください。
時刻の指定に誤りがあります。	定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。 入力できる時刻は 0:00 ~ 23:59 の範囲の値です。入力した時刻を確認し、正しく設定してください。
開始時刻と終了時刻に同じ時刻が設定されています。	定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻と終了時刻が同じ時刻になっています。 開始時刻と終了時刻に異なる値を入力してください。
開始時刻が終了時刻より後に設定されています。	定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻が終了時刻より後に設定されています。 開始時刻を終了時刻より前に設定してください。
構成情報が収集できませんでした。設定を確認してください。	構成情報を収集できませんでした。 インストールしたソフトウェアが正常に動作していない可能性があります。サーバを再起動し、再度処理を行ってください。それでもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
E-mail が送信できませんでした。設定を確認してください。	E-mail を送信できませんでした。 メールサーバ、送信元メールアドレスが正しいかどうか確認してください。

表：レジストレーションと環境設定に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
設定結果を保存できませんでした。設定を確認してください。	ディスク領域不足によるファイルアクセスエラー、メモリ領域確保の失敗、サービス (F5EP00RMService) の未起動などが考えられます。20 分待ってから再度処理を実行してください。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
接続確認に失敗しました。設定を確認してください。	原因として以下の3つが考えられます。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マシンが高負荷状態のため、確認処理でタイムアウトが発生した。</li> <li>2. サービスが起動していない。</li> <li>3. イベントログがいっぱいになり、イベントログに情報が書き込めない。</li> </ol> それぞれ以下の対処方法を実施してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Windows タスクマネージャの [パフォーマンス] の「CPU 使用率」を参照し、100% 状態が継続しているかを確認し、CPU 使用率が 100% 未満になるまで待ってください。</li> <li>2. 「サービス」メニューの「SystemWalker RmAosfB」が開始状態でない場合は、このサービスを開始してください。開始する際は、「スタートアップの種類」が「自動」になっていることを確認してください。</li> <li>3. イベントログの状態を確認し、イベントログがいっぱいの場合は、「ログファイルの名前をつけて保存」を選択し、ログファイルを保存後、すべてのイベントを削除してください。なお、イベントログがいっぱいになって書き込めない場合、REMCS エージェントの仕様上、センタへの障害は通知できないため、イベントログのプロパティにて、「ログサイズが最大値に達したときの操作」を「必要に応じてイベントを上書きする」に設定しておくことを推奨します。</li> </ol>
SS-Agent の起動を確認できませんでした。	

## ■ SMB ユーティリティに関するエラーコードおよびメッセージ

表：SMB ユーティリティに関するエラーコードおよびメッセージ

エラーコード	メッセージ	対処方法
2001	DLL の呼び出しインタフェースが不正です。プログラムを実行することはできません。	ユーティリティを起動するためのインタフェースで異常を検出しました。REMCS エージェントをいったんアンインストールし、再度インストールしてください。
2002	プログラムを実行するためのメモリが獲得できません。	メモリ領域の確保に失敗しました。他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてから再度ユーティリティを起動してください。
2007	SMB のサポート機能レベル獲得に失敗しました。処理を中止します。	SMB のサポート機能レベルが確認できませんでした。SMB に異常があると考えられます。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
3001	ドライバアクセスエラーです。DeviceIoControl が正常に終了しませんでした。	ドライバとの通信に使用する DeviceIoControl 関数が予期せぬ異常を返しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

表：SMB ユーティリティに関するエラーコードおよびメッセージ

エラーコード	メッセージ	対処方法
3002	起動に失敗しました。デバイスの状態を確認してください。	SMB ドライバに対する開設処理が異常終了しました。SMB ドライバが正しくインストールされ、正常に動作していることを確認してください。なお、ドライバのインストール直後の場合は、システムを再起動してください。
3003	ドライバアクセスエラーです。ハードウェア異常を検出しました。	SMB ドライバからハードウェア異常が通知されました。SMB のハードウェアに異常があります。サポート要員にご連絡ください。
3004	ドライバアクセスエラーです。ファームウェア異常を検出しました。	SMB ドライバからファームウェア異常が通知されました。SMB のファームウェアに異常があります。サポート要員にご連絡ください。
3006	ドライバアクセスエラーです。不明なエラー復帰を検出しました。	SMB ドライバから不明な異常が通知されました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
3007	ドライバアクセスエラーです。メモリアccess異常、またはタイムアウトエラーを検出しました。	SMB ドライバからメモリアccess異常、またはタイムアウト異常が通知されました。サポート要員にご連絡ください。
4001	E-Mail 発信テストに失敗しました。E-Mail 情報の設定内容を確認して下さい。	P-P 接続 (ISDN)、P-P 接続 (VPN) で接続している場合はテストメール機能は利用できません (エラー終了)。また、AUTH-SMTP 認証、POP before SMTP には対応していないため、これらの認証機能を利用する環境ではテストメール機能は利用できません (エラー終了)。上記以外の場合は、E-mail の発信テストを行うための E-mail 情報の設定に誤りがあります。設定内容を確認してください。
4002	E-Mail 発信テストに失敗しました。SMTP プロトコル異常を検出しました。	P-P 接続 (ISDN)、P-P 接続 (VPN) で接続している場合はテストメール機能は利用できません (エラー終了)。また、AUTH-SMTP 認証、POP before SMTP には対応していないため、これらの認証機能を利用する環境ではテストメール機能は利用できません (エラー終了)。上記以外の場合は、E-mail の発信テストが SMTP プロトコル異常により失敗しました。サポート要員にご連絡ください。
4003	E-Mail 発信テストに失敗しました。サーバに接続することができませんでした。	P-P 接続 (ISDN)、P-P 接続 (VPN) で接続している場合はテストメール機能は利用できません (エラー終了)。また、AUTH-SMTP 認証、POP before SMTP には対応していないため、これらの認証機能を利用する環境ではテストメール機能は利用できません (エラー終了)。上記以外の場合は、E-mail の発信テストが SMTP サーバ接続タイムアウトにより失敗しました。SMB または SMTP サーバが正しくネットワークに接続されているか確認してください。また、通信制御、E-mail 情報の設定に誤りがないか確認してください。

表：SMB ユーティリティに関するエラーコードおよびメッセージ

エラーコード	メッセージ	対処方法
4004	E-Mail 発信テストに失敗しました。ファームウェア異常を検出しました。	E-mail の発信テストがファームウェア異常により失敗しました。 サポート要員にご連絡ください。
4005	E-Mail 発信テストに失敗しました。「通信制御」シートの IP アドレス項目が設定されていません。	SMB の IP アドレスが未設定です。「通信制御」シートで SMB の IP アドレスを設定してから、再度、E-mail 発信テストを実施してください。
5001	パラメタの指定に誤りがあります。フォーカス位置のパラメタの有効範囲を確認して下さい。	数値型項目に指定した文字が不正、または値が有効範囲外です。設定内容を確認してください。
5002	パラメタの指定に誤りがあります。フォーカス位置のパラメタに指定している文字列の有効性を確認して下さい。	文字列型項目に指定した文字列の指定方法に誤りがあります。 設定内容を確認してください。
5003	指定した情報はすでに登録されています。	すでに存在している情報と同じ情報を指定しました。今回の設定は無視されます。
5005	依存関係にある項目が未入力になっています。フォーカス位置のパラメタ値を入力して下さい。	依存関係により設定が必須となった項目が未入力になっています。 設定内容を確認してください。
6001	REMCS エージェントのバージョンを確認してください。	無効な REMCS エージェント CD です (GLOBAL ディレクトリがありません)。 REMCS エージェントのバージョンを確認してください。
6002	REMCS エージェントのバージョンを確認してください。	無効な REMCS エージェント CD です (バージョン情報 TXT がありません)。 REMCS エージェントのバージョンを確認してください。
6003	REMCS エージェントのバージョンを確認してください。	無効な REMCS エージェント CD です (CD-ROM 内のファームが古いものです)。 REMCS エージェントのバージョンを確認してください。
6004	F3GVSET.DLL の呼び出しに失敗しました。system32 フォルダ内に F3GVSET.DLL が格納されていることを確認してください。	DLL 呼び出しエラーです。 システムフォルダ内の F3GVSET.DLL を確認してください。
6005	F3GVSET.DLL の呼び出しに失敗しました。F3GVSET.DLL のエントリポイントが見つかりません。	DLL 呼び出しエラーです。DLL が破損している可能性があります。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6006	内部エラーが発生しました。ファームウェアアップデートアプリケーションのカレントに移動できません。	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6007	内部エラーが発生しました。CDROM ドライブ名を取得できません。(buffer over)	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6008	内部エラーが発生しました。CDROM ドライブ名を取得できません。(return value error)	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

表：SMB ユーティリティに関するエラーコードおよびメッセージ

エラーコード	メッセージ	対処方法
6009	CDROM ドライブを検出できませんでした。デバイスの状態を確認してください。	CD-ROM ドライブの接続状態を確認してください。
6010	内部エラーが発生しました。ファームウェアアップデートアプリケーションを起動できません。	プログラム内で内部エラーを検出しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6011	内部エラーが発生しました。カレントディレクトリを取得できません。(buffer over)	プログラム内で内部エラーを検出しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6012	内部エラーが発生しました。カレントディレクトリを取得できません。(return value error)	プログラム内で内部エラーを検出しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6013	内部エラーが発生しました。(failure in chdir)	プログラム内で内部エラーを検出しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
9999	内部エラーが発生しました。	プログラム内で内部矛盾を検出しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

**POINT**

- ▶ 正常にシャットダウンしているにもかかわらず、イベント ID：6008 の「予期しないシャットダウン」イベントがセンタに通知される場合の対処について
  - ▶ 以下の Windows をご使用の場合、PowerChute® によるシャットダウンが正常に行われたにもかかわらず、イベント ID：6008 の「予期しないシャットダウン」イベントがセンタに通知されることがあります。
    - ・ サービスパック 4、5 が適用された Windows NT4.0
    - ・ サービスパック 1、2、3 が適用された Windows 2000
- 本現象が発生している場合は、Windows NT4.0 の場合はサービスパック 6a に、Windows 2000 の場合はサービスパック 4 にアップデートしてください。
- サービスパックをアップデートするにあたっては、サービスパックをアップデートする前にシステムのバックアップを行い、リストアできる準備をしてから、アップデートおよびテスト（必要ならば）を実施してください。

## ■ SMB 監視エージェントに関するメッセージ

表：SMB 監視エージェントに関するメッセージ

メッセージ	対処方法
SMB の動作環境でセットアップ異常が発生しています。(重要度：警告)	SMB の環境設定に誤りがあります。 次の要因が考えられますので、確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SMB の IP アドレスが設定されていません。SMB ユーティリティの「通信制御」シートで IP アドレスを設定してください。</li> <li>・ SMB の時計が設定されていません。SMB ユーティリティの「その他」シートで時計設定を実行してください。</li> </ul>
SMB の動作環境でセットアップ異常が発生しています。(重要度：危険)	SMB の環境設定に誤りがあります。 次の要因が考えられますので、確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制御ケーブルが接続されていません。SMB、およびサーバ本体の『取扱説明書』を参照し、制御ケーブルを接続してください。</li> <li>・ 制御ケーブルが 2 本接続されています。SMB、およびサーバ本体の『取扱説明書』を参照し、搭載するサーバに合った制御ケーブルのみを接続してください。</li> <li>・ サーバ本体との初期通信が正常に動作していません。いったん、サーバ本体の電源と SMB 接続の AC アダプタの電源を切った後、再度これらの電源を入れてください。</li> </ul> 上記処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
SMB でコマンド処理異常が発生しています。(重要度：危険)	SMB の通信処理で異常を検出しました。 次の要因が考えられますので、確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ E-mail 発信に失敗しました。SMB ユーティリティの「その他」シートで E-mail テストを実施し、失敗の要因を対処してください。</li> </ul> 上記処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
[注] 上記以外の異常 SMB で xxxx 異常が発生しています。(重要度：危険)	SMB のファームウェア、およびハードウェアの異常を検出しました。 サポート要員にご連絡ください。

## 5.3 運用操作メニューのトラブル

サービス開始後の設定変更など、運用操作メニューに関するトラブル、およびメッセージへの対処方法を説明します。

なお、ネットワーク環境に関するトラブルが発生したときには、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.157) を使用して、原因究明、調査資料の収集を行ってください。

### 5.3.1 運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法

表：運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法

トラブル	対処方法
[資料収集・送付] をクリックしても、SIRMS メニュー画面が起動しない。	タスクマネージャから「運用操作メニュー」を強制終了してください。その後、再度通常の操作で「運用操作メニュー」を起動して、[資料収集・送付] をクリックしてください。
DLT、MO の異常が REMCS センタに通知されない。	異常を検出する特定のソフトウェア（ドライバを含む）がないため、DLT、MO などのリムーバブルドライブの異常はアラート通知できません。
MS-DOS（メンテナンス区画）が起動してしまう。	システム起動時に「Press F10 to start tools of Maintenance Partition.」というメッセージが 10 秒間表示されているときに、【F10】キーを押したことが考えられます。 MS-DOS が起動した状態から、次の手順で復旧してください。 REMCS エージェント CD の Chgpid フォルダを、フォーマット済みのフロッピーディスクにコピーします。 Remcs¥Chgpid フォルダをコピーしたフロッピーディスクをセットします。 次のように入力し、それぞれ【Enter】キーを押します。 <code>cd chgpid</code> <code>chgpid /B:OFF</code>
Servervisor コンソールで SCSI アレイコントローラが監視できない (I/O の部分が赤ランプになっている)。	SCSI アレイコントローラカードに添付されている GAM ドライバがインストールされていません。 SCSI アレイコントローラカード添付のマニュアルを参照して、GAM ドライバをインストールしてください。
Servervisor コンソールの I/O の部分に SMB が表示されない。	Fujitsu SMB CI サービスが起動されていない、または正常にインストールされていない可能性があります。 「付録 C.3 サービス開始時の設定」の「■ SMB 監視エージェント機能を有効にする」(→ P.187) を参照し、Fujitsu SMB CI サービスを起動してください。
SNMP が開始時にハングした。	LDSM/Servervisor が正常にインストールされていない可能性があります。 「付録 D Servervisor / LDSM のインストール、アンインストール」(→ P.191) を参照して、再インストールを実施してください。
英語環境で REMCS エージェントが使用できない。	REMCS エージェントでは日本語環境のみをサポートしています。

表：運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法

トラブル	対処方法
サービスに Fujitsu SMB CI が登録されていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ServerManager コンソール、Servervisor コンソールが正常に起動できない場合は、Servervisor が正しくインストールできていません。装置添付のマニュアルを参照の上、Servervisor のアンインストール、再インストールを実施してください。</li> <li>SMB 管理ツールがインストールされていません。REMCS エージェントを上書きインストールしてください。</li> </ul>
タイトルバー、タスクバーに（応答なし）の表示が残る。	サービスの運用動作に支障はありません。そのままご使用ください。表示をクリアしたい場合は、運用操作メニューを起動し直してください。
運用操作メニューが起動しない。	サービスの開始作業を実施していない場合、運用操作メニューは起動できません。レジストレーションを起動してサービスの開始作業を実施してください。
環境設定画面の接続形態欄に「(メールのみ)」が表示されません。	インターネット接続（メールのみ）の場合、インターネット接続と同じく「インターネット接続」と表示されます。
RSB からのテストメールを実施した後、応答がない。	ネットワークの状態が悪い場合や設定に誤りがある場合に、最長で 10 分の間リトライを行います。テストメールの結果メッセージが表示されるまで、お待ちください。
起動時に ciodmi サービスが起動できない。	ciodmi サービスは Adaptec SCSI コントローラを監視するサービスです。 このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に Fujitsu IDE RAID CI サービスが起動できない。	Fujitsu IDE RAID CI サービスは IDE アレイコントローラカードを監視するサービスです。 IDE アレイコントローラカードが接続されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、ディスクキャビネット監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、ディスクキャビネット監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に mdacci サービスが起動できない。	mdacci サービスは SCSI アレイコントローラを監視するサービスです。 SCSI アレイコントローラカードが搭載されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に QLogicDMIIInstrumentation サービスが起動できない。	QLogicDMIIInstrumentation サービスはファイバチャネルカードを監視するサービスです。 ファイバチャネルカードが搭載されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。

表：運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法

トラブル	対処方法
起動時に rcicomm サービスが起動できない。	rcicomm サービスはディスクキャビネットを監視するサービスです。 ディスクキャビネットが接続されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、ディスクキャビネット監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、ディスクキャビネット監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に SymCiService サービスが起動できない。	Symbios NT 2.0 CI Service サービスと SymCiService サービスは Symbios SCSI コントローラを監視するサービスです。 このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に Symbios Nt 2.0 CI Service サービスが起動できない。	Symbios NT 2.0 CI Service サービスと SymCiService サービスは Symbios SCSI コントローラを監視するサービスです。 このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に WdnFei サービスが起動できない。	WdnFei サービスはディスクキャビネットを監視するサービスです。 ディスクキャビネットが接続されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、ディスクキャビネット監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、ディスクキャビネット監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。

### 5.3.2 メッセージと対処方法

#### ■ 運用操作メニュー（レジストレーション）に関するメッセージ

表：運用操作メニュー（レジストレーション）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
xxx が不正です。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力された値が不適当です。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力された文字に、指定できない文字が入っています。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
未入力の項目があります。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力されたデータが長すぎます。	制限字数を超える文字を入力しています。 制限字数を確認して、もう一度入力してください。
入力桁オーバー	制限字数を超える文字を入力しています。 制限字数を確認して、もう一度入力してください。

表：運用操作メニュー（レジストレーション）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
モデル名が見つかりません。確認してください。	入力した型名に対応するモデル名が見つかりません。 入力した型名が正しいかどうか確認してください。
チェックコードに誤りがあります。再入力してください。	入力したチェックコードが間違っています。 入力したチェックコードが正しいかどうか確認してください。
指定されたメールサーバに接続できません。	メールサーバに接続できませんでした。 メール（SMTP）サーバのホスト名またはIPアドレスが正しいかどうか確認してください。
定期接続設定スケジュールを設定してください。	定期接続スケジュールが正しく設定されていません。 「■ 定期接続時刻の変更」（→ P.94）を参照して正しく設定してください。
環境の取得に失敗しました。環境設定は行えません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
環境設定に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリ取得エラー	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリ登録エラー	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
時間が不正です。0～23を指定してください。	入力した定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。 入力できる時刻は0:00～23:59の範囲の値です。入力した値が正しいかどうか確認してください。
分が不正です。0～59を指定してください。	入力した定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。 入力できる時刻は0:00～23:59の範囲の値です。入力した値が正しいかどうか確認してください。
接続時刻の取得に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
定期接続の通知に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
開始時刻と終了時刻に同じ時刻が設定されています。	入力した定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻と終了時刻が同じ時刻になっています。 開始時刻と終了時刻に異なる値を入力してください。
開始時刻が終了時刻より後に設定されています。	入力した定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻が終了時刻より後に設定されています。 開始時刻を終了時刻より前に設定してください。

## ■ 運用操作メニュー（ファーム管理）に関するメッセージ

表：運用操作メニュー（ファーム管理）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
タイムアウトが発生したため、終了しました。	ファームウェアをダウンロードできなかったときに表示されます。このメッセージは、ファームウェアエラーとして REMCS センタに通知されます。
ファームウェアがダウンロードされていません。スケジュールの変更を行えませんでした。	ファームウェア適用スケジュールをスケジュール設定状態にするためには、未適用の新しいファームウェアをサーバ上に受信しておく必要があります。新しいファームウェアを受信した後に、スケジュールの変更を行ってください。
スケジュールの変更を行えませんでした（レジストリ設定エラー）。	レジストリ操作エラーのため、定期接続スケジュールの変更を行えませんでした。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
スケジュールの変更を行えませんでした（メンテナンス区画またはファームウェアの障害）。	特定不明のエラーが発生したため、定期接続スケジュールの変更を行えませんでした。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
スケジュールの変更を行えませんでした（SMB の障害）。	SMB に障害が発生したため、定期接続スケジュールの変更を行えませんでした。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
スケジュールの変更を行えませんでした（DLL がありません）。	スケジュール変更処理を行う際に使用する DLL ファイルが見つかりませんでした。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、いったん REMCS エージェントをアンインストールし、再度インストールしてください。
スケジュールの変更を行えませんでした（詳細情報なし）。	特定不明のエラーが発生したため、定期接続スケジュールの変更を行えませんでした。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
10 分後に再受信してください。	構成情報送信後、10 分以内にファームウェアの手動受信を行いました。構成情報送信後、10 分経過してからファームウェアの手動受信を行ってください。
フロッピーディスクに DOS システムがありません。正しいフロッピー媒体を挿入してください。	セットしたフロッピーディスクに DOS システムがありません。ファームウェア適用に使用するフロッピーディスクには、あらかじめ DOS システムをコピーしておく必要があります。フロッピーディスクに DOS システムをコピー後、再度適用フロッピー作成を実施してください。
ファームウェアのコピーに失敗しました。フロッピー媒体が壊れていないかを確認してください。	適用フロッピーディスクにファームウェアをコピーしている最中にエラーが発生しました。フロッピーディスクをフォーマットした後に再度適用フロッピーを作成してください。
受信ファームウェアの展開に失敗しました。イベントログを参照し、ハードディスクドライブに問題がないかを確認してください。	ファームウェアアーカイブをハードディスク上に展開している最中にエラーが発生しました。イベントログをチェックしてハードディスクに異常がないか確認してください。

表：運用操作メニュー（ファーム管理）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
テンポラリファイルの削除に失敗しました。イベントログをチェックしてハードディスクドライブに異常がないかを確認してください。	ハードディスク上に展開したファームウェアファイルを削除している最中にエラーが発生しました。イベントログをチェックしてハードディスクに異常がないか確認してください。
フロッピーディスクに空き容量がないため、適用フロッピーの作成が行えません。フロッピーディスクに余計なファイルがないことを確認してください。	セットしたフロッピーディスクの空き容量が1MB未満です。フロッピーディスクの空き容量を1MB以上確保してから、再度適用フロッピーを作成してください。
ERROR[81] couldn't find DOS command section	Global Flash Tool が正常にインストールされていない可能性があります。いったん画面を閉じて、REMCS エージェントの上書きインストールを実施してください。
スケジュールの変更を行えませんでした（GFI の障害） (ERROR[25] can not connect GF agent)	サービスの起動直後で GF agent がまだ起動していません。10分経過してから再度スケジュール設定を行ってください。
スケジュールの変更を行えませんでした（GFI の障害） (ERROR[30] can not get VersionView.sav file)	VersionView.sav ファイルがありません。2時間経過してから再度スケジュール設定を行ってください。

## ■ 運用操作メニュー（構成情報）に関するメッセージ

表：運用操作メニュー（構成情報）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
構成情報の取得に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、失敗しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
MIF ファイルの作成に失敗しました。	ディスクの空き容量が不足している可能性があります。必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」(→ P.15) 参照) を確保してください。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

## ■ 運用操作メニュー（保守状態設定）に関するメッセージ

表：運用操作メニュー（保守状態設定）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
保守開始日時の登録に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
保守作業状態フラグの登録に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

## ■ 運用操作メニュー全般に関するメッセージ

表：運用操作メニュー全般に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
現在ファーム適用処理中のため、この機能は利用できません。	現在、装置にファームウェアを適用しているため、機能が制限されています。 ファームウェア適用処理が終了した後に、もう一度実行ください。
ログの書き込みに失敗しました。	ディスクの空き容量が不足しています。 必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」(→ P.15) 参照)を確保してください。
レジストリ情報の操作に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
エラーが発生しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
ネットワークエラーが発生しました。	ネットワークエラーのため、正常に通信できません。 お客様のサーバがネットワークに正常に接続されているかどうか確認してください。その後、再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
初期化されていません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
サーバが接続を拒否しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
通信可能状態ではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
接続できませんでした。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
非同期モードではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
応答待ち状態ではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
他のプロセスが通信中なので接続できません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
非同期モードでの通信です。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
ユーザ ID が無効です。	入力したユーザ ID が間違っています。 再度入力しても同じメッセージが表示される場合は、サポート要員にご連絡ください。
パスワードが無効です。	入力したパスワードが間違っています。 再度入力しても同じメッセージが表示される場合は、サポート要員にご連絡ください。
メモリ確保に失敗しました。	メモリ領域の確保に失敗しました。 他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてから再度処理を行ってください。
リモート保守機能を一時停止中なので、送信できません。	REMCS センタ接続が停止中なので、処理を行えませんでした。 REMCS センタ接続の再開後に再度処理を行ってください。
ディスク容量が不足しています。	ディスクの空き容量が不足しています。 必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」(→ P.15) 参照)を確保してください。

表：運用操作メニュー全般に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
保守作業中なので、送信できません。	保守作業中のため、処理を行えませんでした。 保守作業終了後に再度処理を行ってください。
パラメータエラーが発生しました。	パラメータエラーのため、処理を中止しました。 「■ E-mail 設定の変更」(→ P.95)を参照し、E-mail 環境の設定が正しいかどうか確認してください。その後、再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
装置 ID がありません (DRMS)。	REMCS センタにお客様のサーバの装置 ID が登録されていません。 「第 3 章 サービスの開始」(→ P.39)を参照して、サービス開始処理を行ってください。
サービスにアクセスできません。	REMCS SS-Agent のサービスが起動していません。 コントロールパネルからサービスを起動して、「SystemWalker RmAosfB サービス」を起動してください。
サービスの再起動に失敗しました。	REMCS SS-Agent のサービスを起動しようとしたのですが、失敗しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリにアクセスできません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
イベントログにアクセスできません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
プロセス間通信に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
構成情報 ID が違っています。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 10～15分程度待ってから、再度処理を行ってください。
構成情報 ID 不一致	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 10～15分程度待ってから、再度処理を行ってください。
ファイルアクセスエラーが発生しました。	ファイルアクセスエラー (指定ファイルが見当たらない、ファイルに出力できない、など) のため、処理を中止しました。 ディスクの空き容量が不足している場合、接続確認が行えないことがあります。その場合は、ディスクに空き容量 (10MB 以上) を確保してください。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
一時ファイルのアクセスエラーが発生しました。	一時ファイルへのアクセスエラーのため、処理を中止しました。 ディスクの空き容量が不足していないかどうか確認してから、再度処理を行ってください。
SystemWalker がインストールされていません。	REMCS SS-Agent が正常にインストールされていません。 一度 REMCS エージェントをアンインストールした後に、再度インストールを行ってください。
HTTP サーバでエラーが発生しました。	HTTP サーバでの処理でエラーが発生しました。 HTTPproxy サーバの設定を確認してください。
HTTP サーバが見つかりません。	HTTP サーバが見つかりません。 「■ HTTP 設定の変更」(→ P.94)を参照し HTTPproxy サーバの設定を確認してください。

表：運用操作メニュー全般に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
HTTP サーバに接続できません。	HTTP サーバと正常に通信できません。 HTTPproxy サーバの設定を確認してください。それでもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
HTTP アクセス中に回線が切断されました。	HTTP サーバアクセス中に、回線が切断されました。 再度処理を行ってください。
HTTP / DRMS 固有のエラーが発生しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
HTTP のクライアント接続数がオーバーしました。	HTTP サーバに接続できるクライアント数を超えたため、接続できませんでした。 しばらくしてからもう一度処理を行ってください。
メールサーバでエラーが発生しました。	メールサーバでの処理でエラーが発生しました。 メールサーバが正常に動作しているかどうか確認してください。
メールサーバが見つかりません。	メールサーバが見つかりません。 「■ E-mail 設定の変更」(→ P.95) を参照し、ネットワークの設定、メール (SMTP) サーバの設定が正しいかどうか確認してください。
メールサーバに接続できません。	メールサーバと正常に通信できません。 ネットワークの設定、メール (SMTP) サーバの設定を確認してください。
メールサーバアクセス中に回線が切断されました。	メールサーバアクセス中に、回線が切断されました。 再度処理を行ってください。
E-mail 送信時にエラーが発生しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 入力確認、再度送信処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
操作に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 入力確認、再度送信処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

## ■ SIRMS 画面（調査資料の管理）に関するメッセージ

同様のエラーメッセージが動作ログに出力されます。

動作ログ出力先（環境変数を使用）：%ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥Data¥Log¥sirms.log

例) c:¥Program Files¥FUJITSU¥SIRMS¥Data¥Log¥sirms.log

表：SIRMS 画面（調査資料の管理）に関するメッセージ

コード	メッセージ	対処方法
MSG0002E	初期化に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作ログが出力されていない場合はログ出力先有無、およびセキュリティ権限が Administrator 権限で書き込みが可能か確認してください。</li> <li>他のメッセージが表示されていないか確認してください。</li> </ul>
MSG0003E	内部エラーが発生しました	動作ログのディレクトリを保存し、サポート要員に連絡してください。
MSG0004E	管理者権限が必要です (id=*) *：ユーザ ID	Administrator 権限で起動してください。
MSG0005E	二重起動しました	SIRMS の終了を待ち、起動してください。

表：SIRMS 画面（調査資料の管理）に関するメッセージ

コード	メッセージ	対処方法
MSG0006E	環境変数に設定できませんでした：* *：設定するパス	環境変数の設定を見直してください。
MSG0007E	カレントディレクトリが取得できませんでした	SIRMS をアンインストールし、再度インストールしてください。
MSG0008E	ログファイルが開けませんでした：* *：ログファイルのパス	動作ログが出力されていない場合はログ出力先有無、およびセキュリティ権限が Administrator 権限で書き込みが可能か確認してください。
MSG0009E	設定ファイルが開けませんでした：* *：設定ファイルのパス	SIRMS の設定ファイルの有無、およびセキュリティ権限が Administrator 権限で書き込みが可能か確認してください。
MSG0010E	設定ファイルの記述が間違っています：* *：設定ミス部分	SIRMS の設定ファイルを開き、設定ミス部分を削除してください。
MSG0011E	設定ファイルに記述されたパスが存在しません：* *：設定ミス部分	SIRMS の設定ファイルを開き、設定ミス部分を削除してください。
MSG0012E	環境変数を変換できませんでした：* *：設定パス	動作ログのディレクトリを保存し、サポート要員に連絡してください。
MSG0013E	範囲が間違っています：*(.*) *：設定値	SIRMS の設定ファイルを開き、設定部分を削除してください。
MSG0014E	デフォルトにて設定されたパスが存在しません：* *：設定パス	動作ログのディレクトリを保存し、サポート要員に連絡してください。
MSG0015E	バージョンファイルが開けませんでした：* *：バージョンファイルのパス	SIRMS のバージョンファイルの有無、およびセキュリティ権限が Administrator 権限で読み込みが可能か確認してください。
MSG0016E	パラメータの形式が誤っています：* *：パラメータ	パラメータを見直してください。
MSG0017E	収集ツール配置パスのファイルが開けませんでした：* *：収集ツール配置パスファイルのパス	収集ツール配置パスファイル（QSS 収集ツール配置パスの情報が入ったファイル）の有無、およびセキュリティ権限が Administrator 権限で書き込みが可能か確認してください。
MSG0018E	収集ツール配置パスのファイルが更新できませんでした：* *：収集ツール配置パスファイルのパス	収集ツール配置パスファイル（QSS 収集ツール配置パスの情報が入ったファイル）の有無、およびセキュリティ権限が Administrator 権限で書き込みが可能か確認してください。
MSG0019E	設定ファイルが更新できませんでした：* *：設定ファイルのパス	SIRMS の設定ファイルの有無、およびセキュリティ権限が Administrator 権限で書き込みが可能か確認してください。
MSG0020E	オプションにて設定されたパスが存在しません：* *：パラメータのパス	起動オプションにて指定したパスを確認してください。
MSG0021E	収集ツール配置パスに有効なパスが登録されていません	収集ツール配置パス管理にて有効なパスを登録してください。

表：SIRMS 画面（調査資料の管理）に関するメッセージ

コード	メッセージ	対処方法
MSG0022E	収集ツール配置パス内に収集ツールがありません	QSS 収集ツール配置パスに QSS 収集ツールを配置してください。
MSG0023E	収集ツール配置パス内に対象の収集ツールがありません	QSS 収集ツール配置パスに対応している QSS 収集ツールを配置してください。
MSG0024E	結果ディレクトリ作成に失敗しました	収集結果パスのセキュリティ権限が Administrator 権限で書き込みが可能か確認してください。
MSG0025E	収集結果が設定された最大サイズを越えています	収集結果のサイズとユーザ設定の収集結果最大サイズを確認してください。
MSG0026E	ディスクの空き容量が足りません	ディスクの空き容量とユーザ設定のディスク空き領域を確認してください。
MSG0027E	オンライン自動判断に失敗しました	動作ログのディレクトリを保存し、サポート要員に連絡してください。

## 5.4 その他のトラブル

ソフトウェアアンインストール時のトラブル、管理サーバ接続時のトラブルについて、説明します。

### 5.4.1 アンインストール時のトラブル

#### ■ トラブルと対処方法

表：トラブルと対処方法

トラブル	対処方法
アプリケーションの追加と削除メニューに「REMCS エージェント」がない。	すでに REMCS エージェントがアンインストールされているか、インストール時の異常でメニューに項目が登録されなかった可能性があります。 REMCS エージェント CD（あるいは ServerWizard CD-ROM）をセットし、CD-ROM 上の ¥Remote¥uninst.exe を直接実行してください。アンインストーラが起動します。
アンインストーラが起動しない。	すでにアンインストーラが起動しています。あるいは、他のアプリケーションと競合している可能性があります。 起動中の他のアプリケーションを終了してから、アンインストーラを起動してください。
SMB 管理ツールのアンインストール時に、媒体挿入画面から先に進めない	V1.0L30～V3.0L40 を V3.0L41 以降の REMCS エージェントにアップデートした場合の不具合です。 現在インストールされている REMCS エージェントで、いったん上書きインストールした後、再度アンインストールを行ってください。
<プログラム名>のアンインストールに失敗しました。 REMCS エージェントのアンインストールを中止します。	システムを再起動してから、もう一度アンインストールを行ってください。

## ■ メッセージと対処方法

### ● Servervisor に関するメッセージ

表：メッセージと対処方法 Servervisor に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
メモリ領域を確保できませんでした。	アンインストール作業のためのメモリ領域を確保しようとして失敗しました。 他のアプリケーションが起動している場合はすべて終了してから、再度インストールを行ってください。
SNMP サービスが動作していません。続行できません。	すでに SNMP サービスがアンインストールされているか、正常に動作していません。 タスクマネージャを起動して、REMCS エージェントのアンインストールを強制終了し、SNMP サービスが動作していない原因を調査してください。SNMP サービスを正常に動作させた後に、再度 REMCS エージェントのアンインストールを起動してアンインストール作業を行ってください。

### ● SMB 管理ツールに関するメッセージ

表：メッセージと対処方法 SMB 管理ツールに関するメッセージ

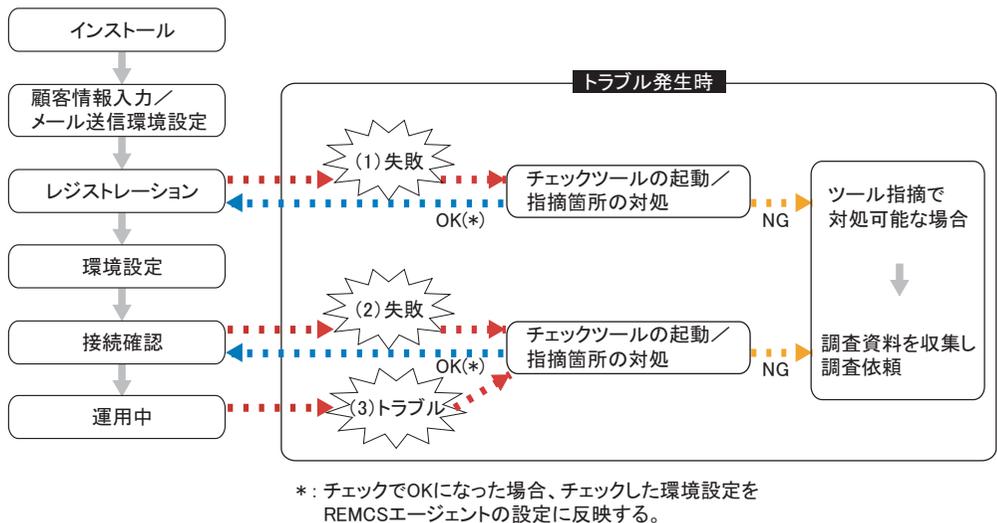
メッセージ	内容／対処方法
Intel® LANDesk® Server Manager Server Service のインストールされたパスが見つかりません。一部または全部のファイルが削除されない可能性があります。	すでに Servervisor がアンインストールされています。 特に問題はありませんので、[OK] をクリックして先に進んでください。
Intel® LANDesk® Server Manager の DMI モジュールのインストールパスを見つけることができませんでした。一部または全部のファイルが削除されない可能性があります。	すでに Servervisor がアンインストールされています。 特に問題はありませんので、[OK] をクリックして先に進んでください。
[Alert Definition Originator サービス] がインストールされていません。このままではアンインストールが正常に行われない場合があります。	すでに Servervisor がアンインストールされています。 特に問題はありませんので、[OK] をクリックして先に進んでください。

## 5.5 REMCS エージェント環境チェックツール

ネットワーク環境のトラブル解決をサポートするツール、「REMCS エージェント環境チェックツール」の使い方について説明します。

### 5.5.1 REMCS エージェント環境チェックツールとは

REMCS エージェント環境チェックツール（以降、チェックツールと呼びます）は、REMCS エージェントのネットワーク環境トラブル（REMCS センタとの通信ができない、など）が発生したときに使用する、原因究明・調査資料の収集を行うためのサポート用ツールです。



チェックツールは動作に必要な環境定義（装置 ID、接続先 REMCS センタの HTTP サーバ名など）を、REMCS エージェントの環境設定ファイルから読み込みます。V3.0L43 以前の REMCS エージェントがインストールされた環境、または REMCS エージェントをインストールしていない環境での動作については機能が制限されます。詳細については、「5.5.6 注意事項」（→ P.164）を参照してください。

### 5.5.2 チェックツールの起動

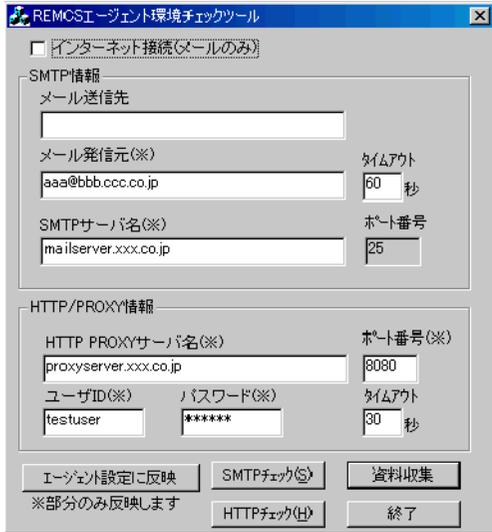
#### ■ チェックツールの格納場所

チェックツールは、次の場所に格納されています。

- [REMCS エージェント CD-ROM ドライブ] : Remcs¥Tool¥Netcheck¥CheckTool.exe
- [システムドライブ] : ¥Program Files¥Fujitsu¥Remcs¥Netcheck¥CheckTool.exe

## ■ チェックツールの起動

CheckTool.exe をダブルクリックするとチェックツールが起動し、次の画面が表示されます。「メール送信先」、および「SMTP サーバ名」の「ポート番号」の項目以外は、REMCS エージェントで設定したパラメータが読み込まれて、表示されます。



表：チェックツールの画面構成

項目	説明
インターネット接続 (メールのみ)	「インターネット接続 (メールのみ)」の接続形態の場合は、ここをチェックします。HTTP 関連の機能がグレー表示になり、メール以外の設定ができなくなります。
<b>SMTP 情報</b>	
メール送信先	テストメールの送信先を設定します。
メール発信元	メールの発信元を設定します。
タイムアウト	SMTP サーバとの接続時のタイムアウト値です。通常変更の必要はありません。
SMTP サーバ名	SMTP サーバ名です。IP アドレスでの指定も可能です。
ポート番号	SMTP のポート番号です。変更することはできません。
<b>HTTP/PROXY 情報</b>	
HTTP PROXY サーバ名	HTTP Proxy サーバ名です。IP アドレス指定も可能です。ユーザ環境でインターネットへの HTTP 通信に Proxy が必要な場合のみ設定してください。
ポート番号	Proxy サーバのポート番号です。ユーザ環境でインターネットへの HTTP 通信に Proxy が必要な場合のみ設定してください。
ユーザ ID、パスワード	HTTP Proxy サーバに認証が必要な場合のみ設定します。ユーザ環境でインターネットへの HTTP 通信に Proxy が必要な場合のみ設定してください。
タイムアウト	HTTP 接続確認時のタイムアウト値です。通常変更の必要はありません。

表：チェックツールの画面構成

項目	説明
[エージェント設定に反映]	※印のついた項目のみ、REMCS エージェントの設定ファイルに反映します。 チェックに成功した場合に REMCS エージェントに設定を反映させるために使用します。
[SMTP チェック]	SMTP チェック機能の画面に移ります。SMTP 関連トラブル時に使用します。詳しくは「5.5.3 使用方法－SMTP チェック」(→ P.159) を参照してください。
[HTTP チェック]	HTTP チェック機能の画面に移ります。HTTP 関連のトラブル時に使用します。詳しくは「5.5.4 使用方法－HTTP チェック」(→ P.161) を参照してください。
[資料収集]	調査資料集機能の画面に移ります。詳しくは「5.5.5 資料収集」(→ P.162) を参照してください。
[終了]	チェックツールを終了します。

### 5.5.3 使用方法－SMTP チェック

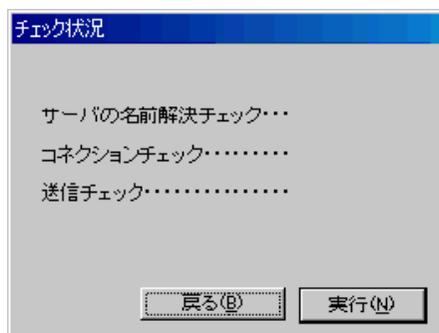
メール関連のトラブルが発生した時は、次の手順でチェックを行います。

#### 重要

- ▶ チェックツールは起動時のみ REMCS エージェントの設定を読み込むため、REMCS エージェントの画面側で設定を変更した場合は、ツールを起動しなおしてください。

#### 1 「REMCS エージェント環境設定チェックツール」画面で「SMTP 情報」を入力し、[SMTP チェック] をクリックします。

「チェック状況」画面が表示されます。

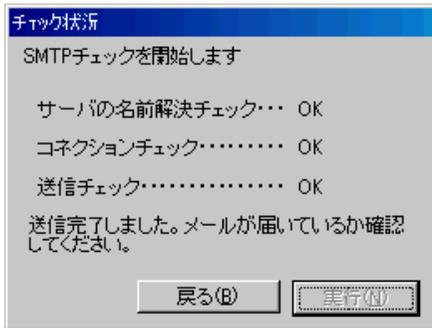


#### 2 [実行] をクリックして、チェックを開始します。

各項目のチェックが終了すると、結果が表示されます。

### 送信に成功した場合

次の画面が表示されます。送信先にメールが届いていることを確認してください。



### 重要

- ▶ レジストレーション処理（レジストレーション～接続確認完了）中の場合は、チェックツールからは REMCS エージェントの設定に反映できないため、エージェントの画面で修正してください。

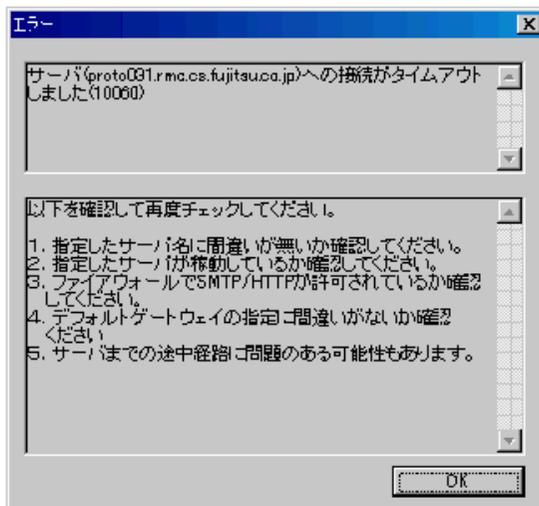
### POINT

- ▶ 成功した環境設定を REMCS エージェントに反映させるには、[戻る]をクリックして「REMCS エージェント環境チェックツール」画面に戻り、[エージェント設定に反映]をクリックしてください。また、実際に REMCS エージェントでの接続を確認してください。

### 送信に失敗した場合

チェック中に異常を発見した場合、次のように詳細のエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージを元に、ネットワーク環境の確認やパラメータの再設定を行ってください。

[OK] をクリックして「REMCS エージェント環境チェックツール」画面に戻り、再度チェックを行ってください。



### トラブルが解決しない場合

エラーメッセージの対処方法に従ってもトラブルが解決できない場合は、「5.5.5 資料収集」(→ P.162) を参照して資料を収集します。

## 5.5.4 使用方法－HTTP チェック

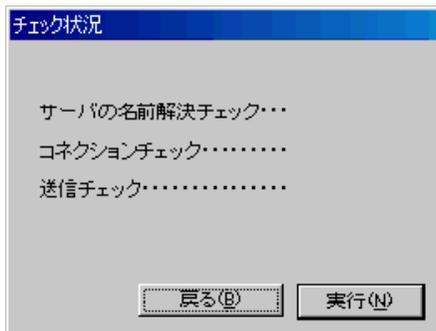
HTTP 関連のトラブルが発生した時は、次の手順でチェックを行います。

### 重要

- ▶ チェックツールは起動時のみ REMCS エージェントの設定を読み込むため、REMCS エージェントの画面側で設定を変更した場合は、ツールを起動しなおしてください。

### 1 「REMCS エージェント環境設定チェックツール」画面で「HTTP/PROXY 情報」を入力し、[HTTP チェック] をクリックします。

「チェック状況」画面が表示されます。

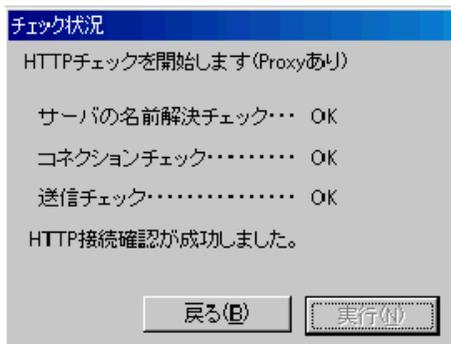


### 2 [実行] をクリックして、チェックを開始します。

各項目のチェックが終了すると、結果が表示されます。

#### 接続確認に成功した場合

次の画面が表示されます（プロキシありでチェックした場合の例）。



### 重要

- ▶ レジストレーション処理（レジストレーション～接続確認完了）中の場合は、チェックツールからは REMCS エージェントの設定に反映できないため、エージェントの画面で修正してください。

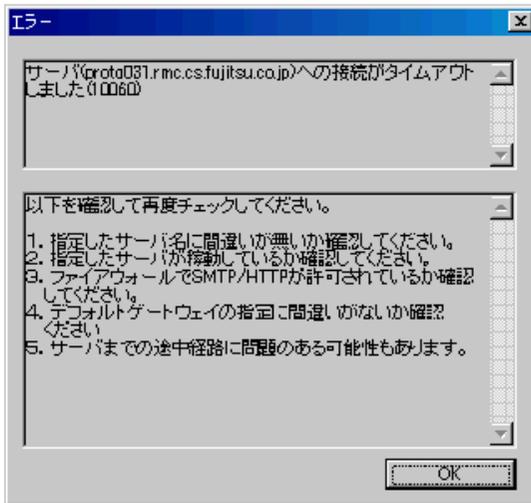
### POINT

- ▶ 成功した環境設定を REMCS エージェントに反映させるには、[戻る] をクリックして「REMCS エージェント環境設定チェックツール」画面に戻り、[エージェント設定に反映] をクリックしてください。また、実際に REMCS エージェントでの接続を確認してください。

### 接続確認に失敗した場合

チェック中に異常を発見した場合、次のように詳細のエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージを元に、ネットワーク環境の確認やパラメータの再設定を行ってください。

[OK] をクリックして「REMCS エージェント環境チェックツール」画面に戻り、再度チェックを行ってください。



### トラブルが解決しない場合

エラーメッセージの対処方法に従ってもトラブルが解決できない場合は、「5.5.5 資料収集」(→ P.162)を参照して資料を収集します。

## 5.5.5 資料収集

調査に必要な資料を収集します。

### ■ 収集される資料

#### 🔔 重要

- ▶ 調査資料は、SMTP チェック、HTTP チェック時に作成されるものもあるため、必ず SMTP チェック、HTTP チェック後に資料収集してください。

収集される資料は次のとおりです（環境設定によっては作成されない資料もあります）。

表：収集資料

ファイル名/フォルダ名	説明
systeminfo.txt	システム情報（OS の種類、メモリ情報）
testenv.dft	チェックツール設定
ping_smtp.txt	ping smtp サーバ
ping_http.txt	ping http サーバ
ping_proxy.txt	ping proxy サーバ

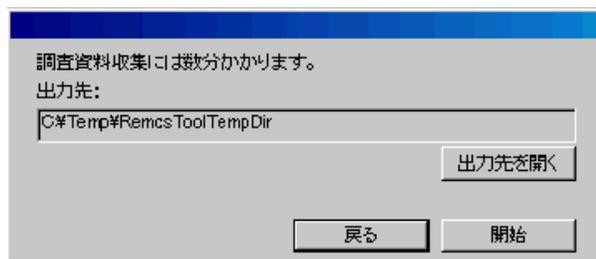
表：収集資料

ファイル名/フォルダ名	説明
ping_loopback.txt	ping 127.0.0.1 (TCP/IP のインストール状況確認)
tracert_smtp.txt	ping smtp サーバ
tracert_http.txt	ping http サーバ
tracert_proxy.txt	ping proxy サーバ
ipconfig_all.txt	ipconfig /all (自ホスト名、DNS 設定、IP アドレス、DHCP 他)
netstat_r.txt	netstat -r (ルーティングテーブル)
netstat_s.txt	netstat -s (プロトコルの統計情報)
netstat_an.txt	netstat -an (コネクション情報)
nslookup_smtp.txt	nslookup smtp サーバ
nslookup_http.txt	nslookup http サーバ
nslookup_proxy.txt	nslookup proxy サーバ
remcschk.log	チェックツール動作ログ
F5ep00Evan_log	ハード管理 AP の初期調査用ログ格納フォルダ ( <システムドライブ配下> ¥ProgramFiles¥Fujitsu¥F5ep00Evan¥log)
DMSXXX.tmp	HTTP 確認結果ファイル。HTTP のチェックを行った回数分作成される。XXX の部分は適当な名前が付けられる。
recv.dat	HTTP 関連調査資料
errfile2.txt	HTTP 関連調査資料
trump.log	HTTP 関連調査資料
trump.env	HTTP 関連調査資料
connect.ini	HTTP 関連調査資料

## ■ 収集方法

- 1 「REMCS エージェント環境チェックツール」画面で [資料収集] をクリックします。

次の画面が表示されます。



- 2 [開始] をクリックします。

画面に「処理中です。しばらくお待ちください。」と表示されます。

- 3 「終了しました。」と表示された後、[出力先を開く] をクリックします。

出力された資料を参照できます。サポート要員の指示に従い、資料を送信してください。

## 5.5.6 注意事項

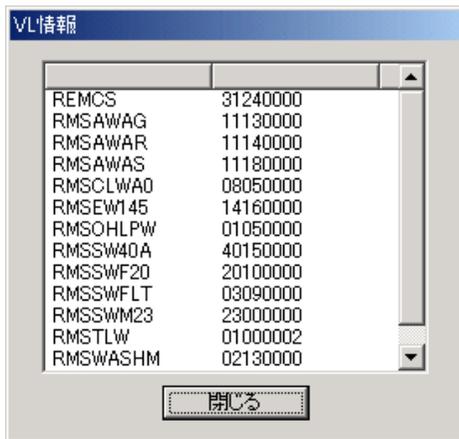
---

V3.0L43 以前の REMCS エージェントがインストールされた環境、または REMCS エージェントをインストールしていない環境では、SMTP 機能が使用できません。これは、チェックツールでは V3.0L50 以降の REMCS エージェントのメール送信機能を利用するためです。

## 5.6 REMCS エージェントのバージョン確認

インストールされている REMCS エージェントのバージョンを確認したい場合は、次の手順で REMCS エージェントを構成するソフトウェアのバージョンを確認します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。  
「運用操作メニュー」画面が表示されます。
- 2 ウィンドウのタイトルバー上で右クリックし、表示されたメニューから「VL 情報表示」を選択します。  
「VL 情報」画面が表示されます。



### 重要

- ▶ REMCS エージェントのバージョンをアップグレードした場合、VL 情報はハード構成情報収集を行った後に更新されます。

## 5.7 REMCS エージェントのアンインストール

REMCS エージェントのアンインストール手順を説明します。

アンインストール中に異常が発生した場合は、「5.4.1 アンインストール時のトラブル」（→ P.155）を参照してください。

### 重要

- ▶ ファームウェア適用スケジュールが「次回電源投入時、ファーム適用します」（スケジュール設定状態）になっている場合には、REMCS エージェントをアンインストールしないでください。
- ▶ REMCS エージェントをアンインストールする前に、すべてのプログラムを終了してください。
- ▶ 「アプリケーションの追加と削除」のリストに、「REMCS エージェント（インストール失敗）」や「REMCS エージェント（アップデート失敗）」と表示されている場合は、REMCS エージェントのインストールに失敗しています。  
「REMCS エージェント（インストール失敗）」、「REMCS エージェント（アップデート失敗）」を選択してアンインストールしてください。

#### 1 センタとの接続を停止します。

「3.10.1 REMCS センタとの接続を停止する」（→ P.102）を参照してセンタとの接続を停止してください。センタとの接続停止が完了したら、終了をクリックして運用操作画面を閉じてください。

#### 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

#### 3 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

#### 4 「現在インストールされているプログラム」の一覧から「REMCS エージェント」を選択し、[変更 / 削除] をクリックします。

アンインストール確認メッセージが表示されます。

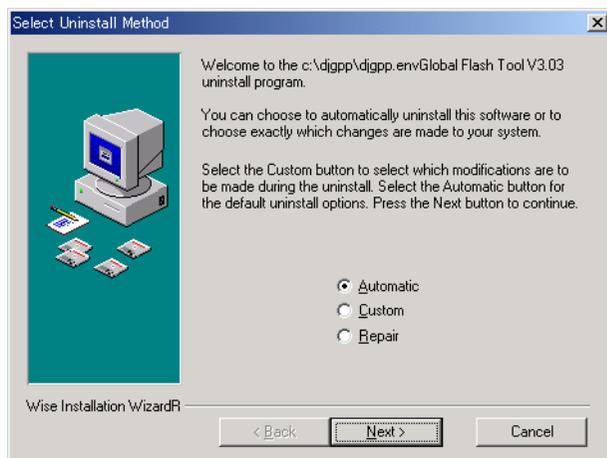
## 5 「はい」をクリックします。

アンインストールが開始されます。

以降、それぞれのソフトウェアのアンインストーラが順番に起動します。アンインストールの確認メッセージが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

REMCS エージェント CD などの CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、該当する CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットして、「OK」をクリックしてください。

アンインストール中に次の「Select Uninstall Method」画面が表示された場合は、「Automatic」を選択して、「Next>」をクリックしてください。



Servervisor / LDSM をアンインストールする場合は、「付録 D Servervisor / LDSM のインストール、アンインストール」(→ P.191) を参照してください。



## 付録

この章では、旧サーバ機種をお使いの場合のサポート情報について説明しています。

A	REMCS エージェントの上書きインストール	170
B	ソフトウェア調査資料の収集と送信（SIRMS バージョン 1 の場合）	173
C	SMB に関する操作	182
D	Servervisor / LDSM のインストール、アンインストール	191
E	CE 設定	199

# A REMCS エージェントの上書きインストール

REMCS エージェントをアップグレードする場合は、以下の手順に従って REMCS エージェントの上書きインストールを行います。

## 重要

### Windows NT を使用している場合

- ▶ Windows NT を使用している場合、アップグレード、上書きインストールはサポートしていません。インストールされている REMCS エージェントをアンインストールしてから、新しい REMCS エージェントを新規インストールしてください。

## A.1 一般サーバ、ブレードサーバの場合

### POINT

- ▶ 上書きインストール後、アップデート情報の収集・送信を確認するメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従って、操作してください。
- ▶ インストールされている REMCS エージェントのバージョンによって、上書きインストールではなく「アップデート」と表示される場合があります。

### 1 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) をセットします。

自動的にアップデート処理が開始され、確認メッセージが表示されます。

自動的に開始されない場合は、エクスプローラなどで CD-ROM 内の "Remcs¥Setup.exe" をダブルクリックしてください。

### 2 [はい] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

### 3 [はい] をクリックします。

REMCS エージェントの上書きインストールが開始されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。途中、ServerView などの CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、指示に従って CD-ROM をセットしてください。

### 4 再起動のメッセージが表示された場合は、サーバを再起動します。

### 5 上書きインストール処理終了後、以下の設定および確認を行ってください。

#### SMB を搭載している場合

SMB 監視エージェント機能を有効に設定します。

→ 「**■ SMB 監視エージェント機能を有効にする**」(P.187)

**接続確認**

「第3章 サービスの開始」(→ P.39) で利用する接続形態ごとの接続確認方法を参照してください。

以上で REMCS エージェントの上書きインストールは完了です。

**POINT**

- ▶ REMCS エージェントインストール中にインストールした ServerView 構成については、「2.3 REMCS エージェントのインストール」(→ P.35) の手順 6 に記載の重要を参照してください。
- ▶ 「5.6 REMCS エージェントのバージョン確認」(→ P.165) で表示される VL 情報は、ハード構成情報収集を行った後に更新されます。

**A.2 FT モデルでの REMCS エージェント上書きインストール**

REMCS エージェントは、FTvirtual Server、CoServer 1、CoServer 2 のそれぞれにプレインストールされています。FT モデルで REMCS エージェントを上書きインストール（アップグレード）する場合は、FTvirtual Server、CoServer 1、CoServer 2 に対して行ってください。上書きインストール（アップグレード）したあとは、CoServer 1 と CoServer 2 で接続確認を行ってください。接続確認の手順については、「3.12 接続確認」(→ P.104) を参照してください。

**■ CoServer1 の REMCS エージェントの上書きインストール**

- 1 CoServer 1 で CD-ROM ドライブを利用するための準備を行います。  
手順については、FT モデル本体に添付の『ユーザーズガイド』の第 2 章に記載の「CoService1 で CD-ROM ドライブを使用する」を参照してください。
- 2 REMCS エージェント CD を CoServer1 の CD-ROM ドライブにセットします。
- 3 REMCS エージェントをインストールします。  
インストール方法については、「2.3.1 REMCS エージェントのインストール」(→ P.35) を参照してください。

**■ CoServer2 の REMCS エージェントの上書きインストール**

- 1 REMCS エージェント CD を CoServer2 の CD-ROM ドライブにセットします。
- 2 REMCS エージェントをインストールします。  
インストール方法については、「2.3.1 REMCS エージェントのインストール」(→ P.35) を参照してください。

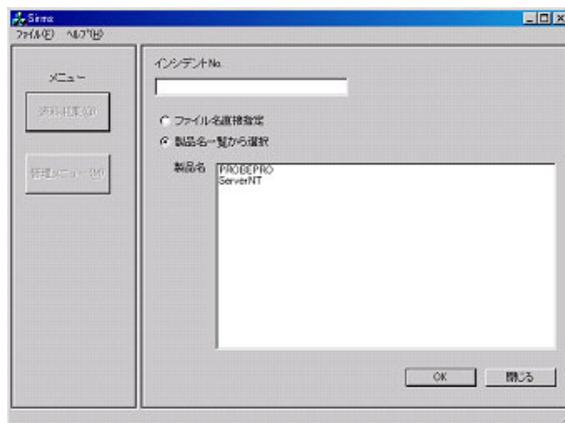
## ■ FTvirtual Server の上書きインストール

- 1 REMCS エージェント CD を CoServer 1 の CD-ROM ドライブにセットします。  
CoServer 1 の CD-ROM ドライブは、FTvirtual Server にリダイレクトされています。FT システムで Endurance Manager を起動して、CoServer 1 の CD-ROM ドライブが FTvirtual Server にリダイレクトされていることを確認してください。確認方法は、FT モデルに添付の『ユーザーズガイド』第 2 章「2.2 FT システムの監視－ Endurance Manager」を参照してください。
- 2 CD-ROM 内の "Remcs¥VFTSetup.bat" を実行します。  
コマンドプロンプト画面が起動し、バックグラウンドでインストール処理が実行されます。  
コマンドプロンプト画面が消えたらインストールは完了です。

## B ソフトウェア調査資料の収集と送信 (SIRMS バージョン1の場合)

SIRMS のバージョンが 1.x.x.x の場合のソフトウェア調査資料の収集と、送信方法について説明します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [資料収集・送付] をクリックします。  
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3 [資料収集] をクリックします。  
「SIRMS 資料収集」画面が表示されます。



- 4 調査資料を収集します。

調査資料の収集方法には、次の2つの方法があります。

### ファイル名を直接指定

製品名の一覧から対象となる製品名を選択して、その製品についての調査情報を収集します。

→「B.2 ファイル名を指定して資料を収集する」(P.175)

### 製品名一覧から選択

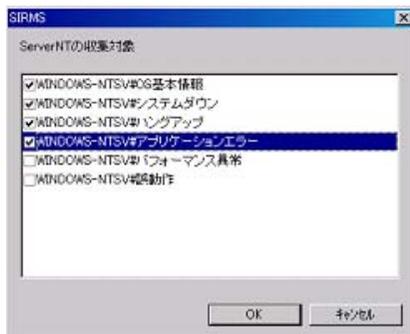
調査資料ファイルのフルパス名を直接指定して、調査資料を収集します。

調査資料を収集しようとする製品名が製品名一覧に表示されていない場合や、SIRMS では自動的に収集されない調査資料を個別に収集する場合に選択します。

→「B.1 製品名一覧から資料を収集する」(P.174)

## B.1 製品名一覧から資料を収集する

- 1 「SIRMS 資料収集」画面の「インシデント No.」に、サポート要員から提示されたインシデント番号（お問い合わせ番号）を入力します。
- 2 [製品名一覧から選択] をチェックします。  
一覧表内の製品名を選択できるようになります。
- 3 製品名を選択して [OK] をクリックします。  
調査資料グループ選択画面が表示されます。



### POINT

- ▶ 調査資料グループとは、収集する調査資料を、障害の現象ごと、または複数の関連する調査資料ごとにグループ化して、調査資料の収集を容易にするためのものです。

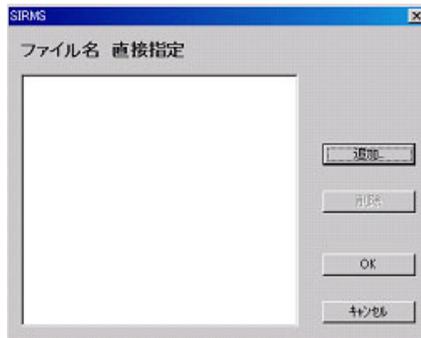
- 4 資料を収集したい調査資料グループにチェックを付けて、[OK] をクリックします。  
収集開始確認メッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。  
収集作業を開始します。
- 6 資料収集が完了すると、センタ送信確認メッセージが表示されます。  
送信確認メッセージは資料ファイルのサイズが 700K バイト以下のときのみ表示されません。700K バイトを超える場合は、収集完了メッセージが表示されます。

### 重要

- ▶ ファイルサイズが 700K バイトを超える調査資料については、DAT などの外部記憶装置に保存して、保存した媒体をセンタに送付してください。保存方法については、「B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する」(→ P.177) を参照してください。
- 7 [OK] をクリックすると、収集した資料がセンタに送信されます。  
送信が完了すると、収集完了メッセージが表示されます。  
収集した資料の保存場所については、「B.3 調査資料の保存場所」(→ P.176) をご覧ください。

## B.2 ファイル名を指定して資料を収集する

- 1 「SIRMS 資料収集」画面の「インシデント No.」に、サポート要員から提示されたインシデント番号（お問い合わせ番号）を入力します。
- 2 [ファイル名直接指定] をチェックします。
- 3 [OK] をクリックします。  
「ファイル名直接指定」画面が表示されます。



- 4 [追加] をクリックします。  
ファイル選択ダイアログが表示されます。
- 5 ファイルを選択して、[OK] をクリックします。  
収集開始確認メッセージが表示されます。
- 6 資料収集が完了すると、センタ送信確認メッセージが表示されます。  
送信確認メッセージは資料ファイルのサイズが 700K バイト以下のときのみ表示されま  
す。700K バイトを超える場合は、収集完了メッセージが表示されます。

### 重要

- ▶ ファイルサイズが 700K バイトを超える調査資料については、DAT などの外部記憶装置に保存して、保存した媒体をセンタに送付してください。保存方法については、「B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する」（→ P.177）を参照してください。

- 7 [OK] をクリックすると、収集した資料がセンタに送信されます。  
送信が完了すると、収集完了メッセージが表示されます。  
収集した資料の保存場所については、「B.3 調査資料の保存場所」（→ P.176）を参照し  
てください。

## B.3 調査資料の保存場所

収集した調査資料は、REMCS エージェントの保存域に格納されます。調査資料の保存域は、以下のような、すべてのユーザに共通なアプリケーションデータディレクトリ内に作成されます。

- Windows NT の場合  
 < Windows ディレクトリ > ¥Profiles¥All Users¥Application Data¥Fujitsu¥SIRMS¥SaveArea
- Windows 2000 / Windows 2003 の場合  
 < システムドライブ > :¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Fujitsu¥SIRMS¥SaveArea

### POINT

- ▶ Windows NT から、Windows 2000 にアップグレードインストールした場合、保存域の場所は Windows NT と同じになります。

調査資料の収集が終わると、保存域内にインシデント番号と収集日時を組み合わせた名前を持つディレクトリが作成されます。このディレクトリに、調査グループごとにサブディレクトリが作成され、収集した調査資料が、圧縮されて保存されます。

調査資料保存ディレクトリ名: インシデント番号\_YYYYMMDD-hhmmss

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

- ① 西暦4桁表示
- ② 月(00~12)
- ③ 日(00~31)
- ④ 時(00~23)
- ⑤ 分(00~59)
- ⑥ 秒(00~59)

(例): 000-0314-5678\_200003141400

### ■ ファイルサイズが、10M バイトを超えるもの

ファイルサイズが、10M バイトを超える調査資料ファイルについては、収集した調査資料ファイルを保存域に格納する代わりに、そのファイルのフルパス名が書き込まれたファイル(.LINK ファイル)を格納します。

- LINK ファイルの形式
    - ファイル名: インシデント番号. 収集日時. 製品名 .huge. 順序番号. 送信日時. 送付日時 .LINK
    - 記録形式: ファイルの先頭行が、以下の形式のテキストファイル。  
 “調査資料ファイルのフルパス名”
- [注] 調査資料ファイルのフルパス名は、二重引用符で囲む。

## ■ 調査資料のタイプ

REMCS エージェントでは、調査資料ファイルを、ファイルサイズと障害調査ですぐに必要なかどうかに応じて、以下の3つのタイプに分類しています。

表：調査資料タイプ

調査資料のタイプ	保存場所	センタ送信の可否	複数調査資料のアーカイブの可否
SMALL タイプ (700K バイト以下)	保存域	可	可
BIG タイプ (10M バイト未満)	保存域	不可	可
HUGE タイプ (10M バイト以上)	調査資料ファイルの元の場所	不可	不可

## B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する

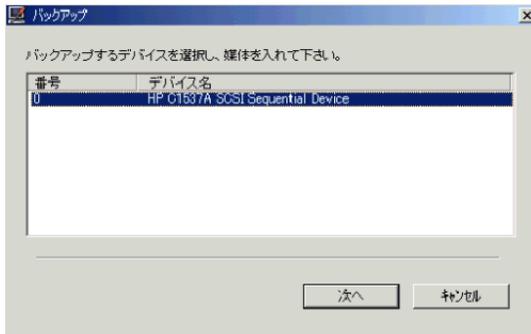
ファイルサイズが 10M バイトを超える場合は、外部記憶収集した調査資料は、SIRMS の「保存域」に格納されます。ここでは、保存されている調査資料を、DAT など外部記憶装置に保存する手順を説明します。Windows 2000 および Windows 2003 の場合は、SIRMS からバックアップツールを呼び出して DAT または MO に保存できます。

### ■ Windows 2003 / Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [資料収集・送付] をクリックします。  
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3 [管理メニュー] をクリックします。  
「SIRMS 管理メニュー」画面が表示されます。
- 4 保存する資料を選択し、[送信／退避] をクリックします。  
センタ送信確認メッセージが表示されます。
- 5 外部記憶装置への保存のみを行う場合、[キャンセル] をクリックします。  
バックアップ確認メッセージが表示されます。

## 6 [OK] をクリックします。

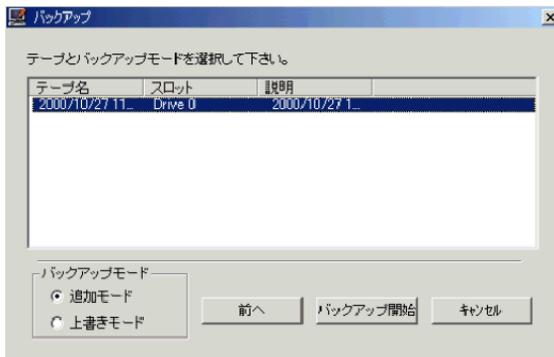
バックアップするデバイスの選択画面が表示されます。



## 7 バックアップするデバイスを選択し、媒体をセット後 [次へ] をクリックします。

このとき、デバイス名には DAT と MO が表示されます（マルチボリューム対応の DAT 装置は使用できません）。

DAT 装置を選択した場合、テープのスロットを選択する画面が表示されます。



## 8 テープのスロットを選択し、バックアップモード（追加モードまたは上書きモード）を選択して [バックアップ開始] をクリックします。

バックアップが開始されると、バックアップツールが起動されて処理が行われます。

## 9 バックアップが完了すると、バックアップ完了メッセージが表示されます。

## 10 [OK] をクリックします。

### ■ Windows NT の場合

#### 1 「スタート」 ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

#### 2 [資料収集・送付] をクリックします。

「SIRMS メニュー」画面が表示されます。

- 3 [管理メニュー] をクリックします。  
「SIRMS 管理メニュー」画面が表示されます。
- 4 保存する調査資料のインシデント番号と収集日時を確認します。
- 5 保存域内に、インシデント番号と収集日時を組み合わせた名前のサブディレクトリが作成されています（例：000-0314-5678\_200003141400）。対象となる調査資料ディレクトリ全体を DAT にコピーします。

調査資料のディレクトリ内に、.LINK ファイルがある場合

ファイルサイズが 10M を超えている場合は、保存域内には収集したファイルのフルパスが書き込まれた .LINK ファイルが保存されています。以下の操作を行い、LINK ファイルに書き込まれているファイルを DAT に保存してください。

1. LINK ファイルを「メモ帳」などのテキストエディタで開きます。
2. 先頭行に、ダブルクォート ( “ ) で囲まれたフルパス名を確認します。
3. フルパス名で指定されているファイルを、DAT に保存します。

## B.5 調査資料の管理

---

収集済みの調査資料を送信したり、削除したりできます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [資料収集・送付] をクリックします。  
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。

### 3 [管理メニュー] をクリックします。

「SIRMS 管理メニュー」画面が表示されます。



表 : SIRMS 管理メニュー

項目	説明
インシデント No.	資料のインシデント No. です。
収集日	資料を収集した日付です。
製品名	製品名資料の製品名です。
送信/退避	送信した資料のファイルのサイズと、ハードディスク上に保存（退避）したファイルのサイズを表示します。送信サイズよりも退避サイズが大きい場合は、DAT などでバックアップして、センタに送付しなければならぬ調査資料があることを示しています。
送信/退避日	資料をセンタに送付した日時を表示します。まだセンタに送信していない資料は空白になっています。

## ■ 調査資料の送信

調査資料の収集時に送信しなかった場合などに操作します。この操作で送付できるのは、ファイルサイズが 700K バイト以下の調査資料のみです。

### 👉 重要

- ▶ ファイルサイズが 700K バイトを超える調査資料については、DAT などの外部記憶装置に保存してください。保存した媒体はセンタに郵送するか、調査資料を E-mail の添付書類としてサポートデスクへ送信してください。送信先は、弊社サポート要員の指示に従ってください。保存方法については、「B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する」(→P.177)を参照してください。

### 1 資料一覧から、送信したい資料を選択して、[送信] をクリックします。

資料ファイルがセンタに送信可能なサイズ（700K バイト以下）の場合、センタ送信確認メッセージと送信内容確認画面が表示されます。

**2** [OK] をクリックします。

選択した資料がセンタに送信されます。

送信作業が完了すると、送信完了メッセージが表示されます。

**■ 調査資料の削除**

調査資料を削除します。

**1** 資料一覧から、削除したい資料を選択して、[削除] をクリックします。

選択した資料ファイルが削除されます。

## C SMB に関する操作

---

旧サーバ機種で SMB を搭載している場合に必要な操作について、説明します。

### C.1 H200 / N400 をお使いの場合（メンテナンス区画の変換）

---

H200、または N400 をお使いの場合で、SMB 用のメンテナンス区画から RSB 用のメンテナンス区画に変換する場合は、以下の操作を行ってください。

#### POINT

- ▶ ServerWizard で作成されたメンテナンス区画がある環境に RSB を搭載する場合や、SMB を使用して RSB に切り替える場合などに、この操作が必要です。

- 1 サーバを起動し、Administrator 権限でログオンします。
- 2 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD（REMCS エージェント CD）をセットします。
- 3 コマンドプロンプトを起動します。
- 4 以下のようにコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。  
ここでは、CD-ROM ドライブを D ドライブとして説明します。
  1. d: 【Enter】キー
  2. cd Remcs\Fwutools 【Enter】キー
  3. fwutools -v -o 【Enter】キー  
「ServicePartition mounted on H」と表示されます（"H" はサーバの設定により異なります）。
  4. fwutools -v -o -hH 【Enter】キー  
"H" には、手順 3 のコマンド入力後表示されたドライブ名を指定してください。

### C.2 SMB ドライバの起動

---

SMB を搭載している場合は、サービス開始前に SMB ドライバの起動を行う必要があります。Windows 2000 の場合は自動的に起動しますので、起動操作は必要ありません。正常に動作しているかどうかを確認してください。

## ■ Windows NT の場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[デバイス] をダブルクリックします。
- 2 「FUJITSU Server Management Assist Board」を選択して、[スタートアップ] をクリックします。
- 3 スタートアップの種類を「自動」に選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [開始] をクリックします。  
SMB ドライバが起動します。

## ■ Windows 2000 の場合（確認操作）

- 1 コントロールパネルを起動し、[システム] をダブルクリックします。
- 2 [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。  
デバイスマネージャが起動します。
- 3 「その他のデバイス」の「Fujitsu Server Management Assist Board」をダブルクリックします。  
「Fujitsu Server Management Assist Board」が表示されていない場合は、「● SMB ドライバのアップデート」(→ P.183)を行ってください。  
プロパティ画面が表示されます。
- 4 デバイスが正常に動作していることを確認し、[OK] をクリックします。  
デバイスが正常に動作していない場合は、[ドライバ] タブをクリックしてドライバを削除してください。サーバを再起動後、SMB ドライバをインストールしてください。

## ● SMB ドライバのアップデート

### POINT

- ▶ SMB ドライバをアップデートする前に、SMB が正常に取り付けられていることを確認してください。
- ▶ SMB ドライバのアップデートには、REMCS エージェントの最新版の CD-ROM が必要です。あらかじめお手元にご用意ください。

- 1 コントロールパネルを起動し、[システム] をダブルクリックします。
- 2 [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。  
デバイスマネージャが起動します。
- 3 「その他のデバイス」の「Fujitsu Server Management Assist Board」をダブルクリックします。  
プロパティ画面が表示されます。

- 4 [ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] をクリックします。  
デバイスドライバのアップグレードウィザードが表示されます。
- 5 ウィザードに従って、ドライバをインストールします。  
PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) をセット後、  
REMCS インストールメッセージが表示された場合は、[キャンセル] してください。

## C.3 サービス開始時の設定

---

SMB を搭載している場合、サービス開始設定の後、SMB の以下の設定が必要です。

- SMB ユーティリティの設定
- SMB 監視エージェント機能を有効にする
- SMB ログ監視エージェント機能を有効にする (ServerView 使用時のみ必要)

### ■ SMB ユーティリティの設定

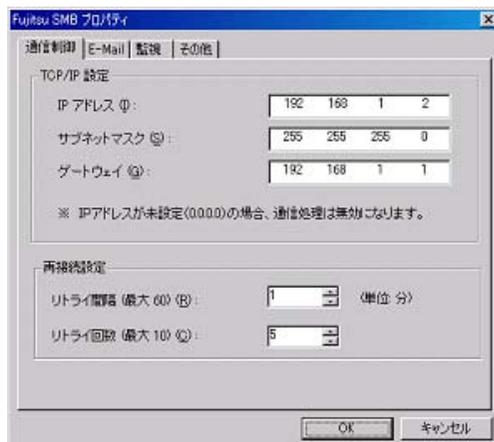
- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu SMB ユーティリティ」の順に  
クリックします。  
Fujitsu SMB ユーティリティが起動します。
- 2 [設定する] をクリックします。

#### POINT

- ▶ [バージョン] をクリックすると、ドライバ版数、ファームウェア版数、MAC アドレスなどの  
情報が表示されます。

「Fujitsu SMB プロパティ」画面が表示されます。

### 3 [通信制御] タブをクリックし、ネットワークの設定をします。



表：ネットワークの設定

項目	説明
IP アドレス	SMB リモート制御機能を使用するために、SMB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
リトライ間隔	E-mail で異常通知（サーバダウン）を行うときのリトライ間隔を、分単位で指定します。1～60 まで指定できます。初期値は 1 分です。
リトライ回数	E-mail で異常通知（サーバダウン）を行うときのリトライ回数を、指定します。1～10 まで指定できます。初期値は 5 回です。

#### POINT

- ▶ ここで設定するネットワークの各項目は、SMB 自身の設定です。サーバ上で稼動している Windows のネットワーク設定の更新ではありません。

### 4 [OK] をクリックします。

通信制御の設定が SMB に反映されます。

### 5 [その他] タブをクリックし、時計設定、E-mail テストを行います。

#### 時計設定

1. [時計設定] をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。
2. [はい] をクリックします。  
時計が設定され、終了のメッセージが表示されます。
3. [OK] をクリックします。

#### E-mail テスト

1. [E-mail テスト] をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。メールアドレスは REMCS 環境設定時に設定したアドレスが表示されます。  
メールアドレスが表示されない場合は、システムを再起動して再度 E-mail テストを行ってください。

## 2. [はい] をクリックします。

E-mail の送信テストが行われ、結果のメッセージが表示されます。

### POINT

- ▶ 通信制御の設定を更新後、E-mail テストが正常に終了しなかった場合は、以下を参考に「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」を再度設定し直してください。

IP アドレス	サブネットマスク
1.0.0.1 ~ 126.255.255.254	255.0.0.0
128.1.0.1 ~ 191.254.255.254	255.255.0.0
192.0.1.1 ~ 233.255.254.254	255.255.255.0

## ● サーバダウン監視の設定 (GRANPOWER5000 ES200/PRIMERGY ES200/PRIMERGY ES210 をお使いの場合)

Servervisor または LDSM がサーバダウン監視をサポートしていない場合は、SMB がサーバダウン監視をサポートします。

### 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu SMB ユーティリティ」の順にクリックします。

Fujitsu SMB ユーティリティが起動します。

### 2 [設定する] をクリックします。

「Fujitsu SMB プロパティ」画面が表示されます。

### 3 [監視] タブをクリックします。

### 4 「ウォッチドックタイムアウト値の設定」を「ウォッチドックタイム有効 (アラート通知)」に設定し、[OK] をクリックします。

## ■ POST 監視 / OS ブート監視の設定

POST 監視機能、OS ブート監視機能を設定します。サーバに添付の『取扱説明書』の「RAS 支援サービスについて」にある「起動監視機能設定メニュー」を参照して、機能を有効に設定してください。

なお、POST 監視機能、OS ブート監視機能は機種によっては対応していない場合があります。対応の有無については、サーバの『取扱説明書』を参照してください。

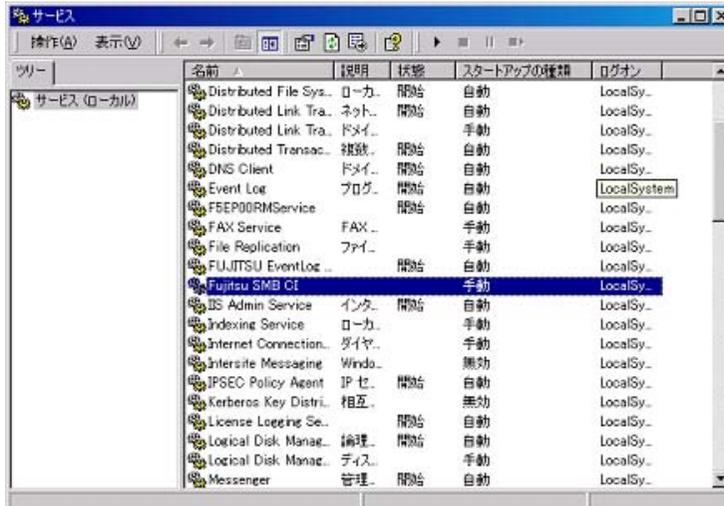
### 重要

- ▶ POST 監視機能 / OS ブート監視機能を使用するには、サーバに RAS 支援サービスがインストールされている必要があります。
- ▶ 待ち時間を超過した場合の対応には、「継続稼働する」の設定を推奨します。OS ブート監視は、基本的に POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの時間を監視することにより、OS の起動を監視します。待ち時間 (タイムアウト時間) の設定が不適切な場合には、サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。機能を設定する際には、サーバに添付の『取扱説明書』を参照して、機能の仕様と運用方法を十分理解したうえで正しく設定してください。

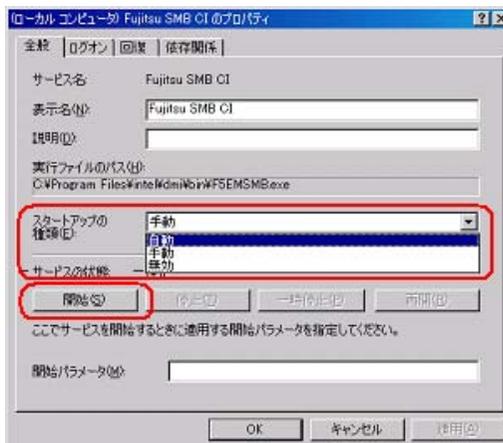
## ■ SMB 監視エージェント機能を有効にする

### ● Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。  
「サービス」画面が表示されます。



- 2 「Fujitsu SMB CI」をダブルクリックします。  
プロパティ画面が表示されます。
- 3 「スタートアップの種類」を「自動」に設定し、[開始] をクリックします。

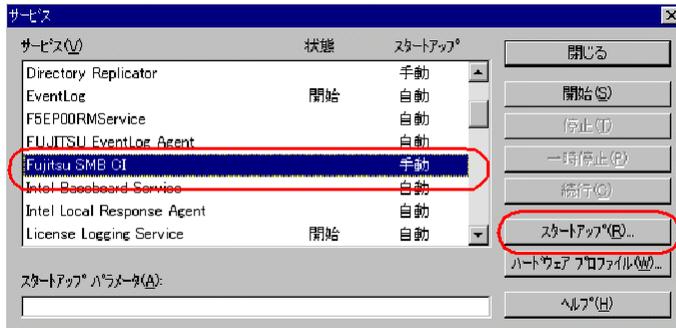


SMB 監視エージェントが起動します。

- 4 [OK] をクリックします。

## ● Windows NT の場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[サービス] をダブルクリックします。  
「サービス」ダイアログが表示されます。
- 2 「Fujitsu SMB CI」を選択し、[スタートアップ] をクリックします。

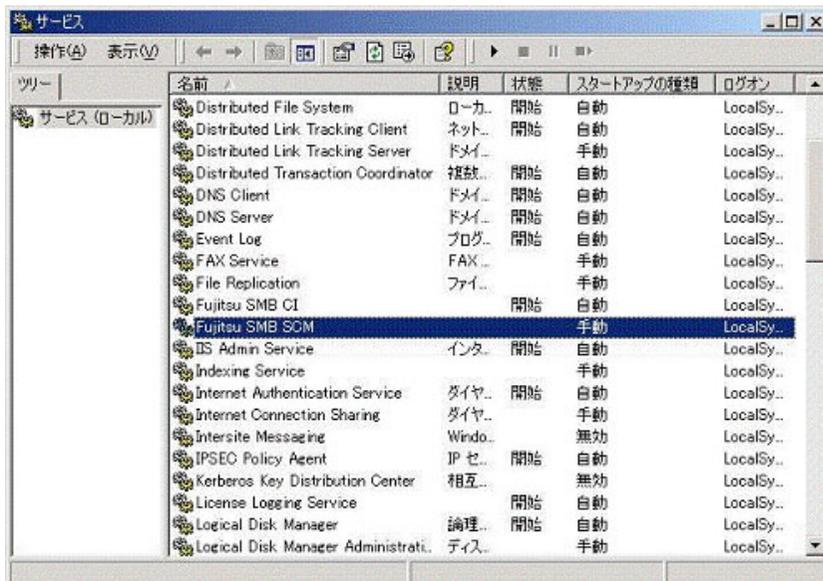


- 3 「スタートアップの種類」を「自動」に設定し、[OK] をクリックします。  
「サービス」ダイアログに戻ります。
- 4 [開始] をクリックします。  
SMB 監視エージェントが起動します。

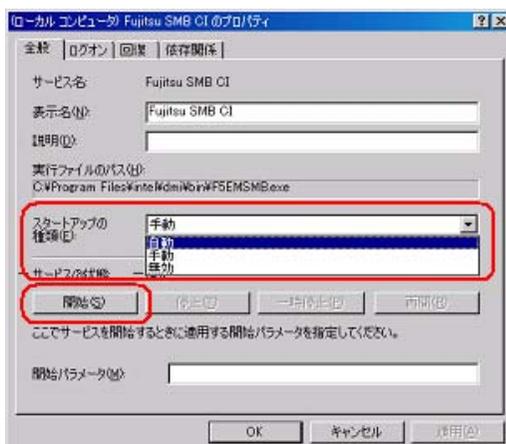
## ■ SMB ログ監視エージェント機能を有効にする (ServerView 使用時のみ)

### ● Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。  
「サービス」画面が表示されます。



- 2 「Fujitsu SMB SCM」をダブルクリックします。  
プロパティ画面が表示されます。
- 3 「スタートアップの種類」を「自動」に設定し、[開始] をクリックします。



SMB 監視ログエージェントが起動します。

- 4 [OK] をクリックします。

## ● Windows NT の場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[サービス] をダブルクリックします。  
「サービス」ダイアログが表示されます。
- 2 「Fujitsu SMB SCM」を選択し、[スタートアップ] をクリックします。



- 3 「スタートアップの種類」を「自動」に設定し、[OK] をクリックします。  
「サービス」ダイアログに戻ります。
- 4 [開始] をクリックします。  
SMB ログ監視エージェントが起動します。

## D Servervisor / LDSM のインストール、アンインストール

Servervisor/LDSM をインストール、またはアンインストールする場合の操作について説明します。Servervisor/LDSM の版数により操作が異なります。Servervisor/LDSM の版数をご確認ください。

### ● インストール

- インストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合 (→ P.191)
- インストール V6.0 L10A/20/30 の場合 (→ P.194)

### ● アンインストール

- アンインストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合 (→ P.196)
- アンインストール V6.0 L10A/20/30 の場合 (→ P.197)

操作には、以下のツールをご用意ください。

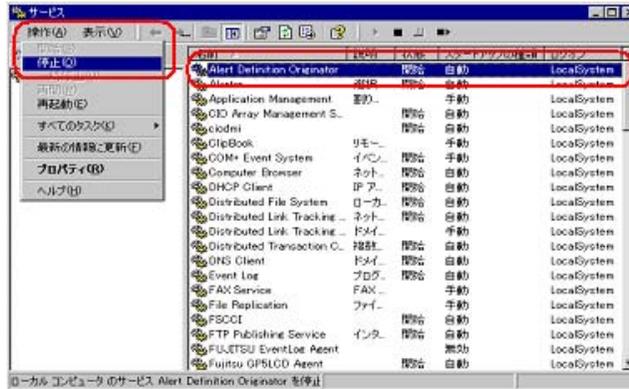
- PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD)
- Servervisor/LDSM の CD-ROM、または ServerWizard の CD-ROM
- フォーマット済みの未使用のフロッピーディスク 1 枚

### D.1 インストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合

- 1 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD)、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
- 2 エクスプローラを起動し、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) 内の "Remcs¥Ldfloppy" フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。
  1. a: 【Enter】キー
  2. LDINST 【Enter】キー「続行するときは何かキーを押してください。」のメッセージが表示されます。
- 4 【Enter】キーを押します。  
Servervisor/LDSM の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。



2. 「Alert Defintion Originator」を選択し、「操作」メニューから「停止」を選択します。



### Windows NT の場合

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. [サービス] をクリックします。
3. 「Alert Defintion Originator」を選択し、[停止] をクリックします。



- 2 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

### PRIMERGY TS120/TS220 の場合

1. a: 【Enter】キー
2. cd ¥TSX20 【Enter】キー
3. TSX20>CHGINI I 【Enter】キー

### PRIMERGY ES320 の場合

1. a: 【Enter】キー
2. cd ¥ES320 【Enter】キー
3. ES320>CHGINI I 【Enter】キー

## D.2 インストール V6.0 L10A/20/30 の場合

- 1 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD)、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
- 2 エクスプローラを起動し、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) 内の "Remcs¥Ldfloppy" フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。
  1. a: 【Enter】キー
  2. LDINST 【Enter】キーメッセージが表示されます。
- 4 【Enter】キーを押します。  
Servervisor/LDSM の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
- 5 CD-ROM ドライブに Servervisor/LDSM の CD-ROM (または ServerWizard の CD-ROM) をセットし、[OK] をクリックします。  
「LDSM のマニュアル「お使いになる前に」に従い手動でインストールしてください。」のメッセージが表示されます。LDSM のマニュアルを参照し、インストールを行ってください。  
以下の画面では「インストール終了後、システムをリブートする」にはチェックしないでください。



### 重要

- ▶ インストール完了後、ここではシステムを再起動しないでください。

- 6 インストール完了後、いったんコマンドプロンプトを閉じます。
- 7 再度コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

1. a: 【Enter】 キー
2. RESTLD 【Enter】 キー

8 表示されるメッセージに従って操作を行います。

9 コマンドプロンプト画面に「フロッピーディスクと CD-ROM を抜いてシステムを再起動してください。」と表示されたら、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、システムを再起動します。

再起動後、手順 3 を行い、Servvisor/LDSM がインストールされたことを確認してください。

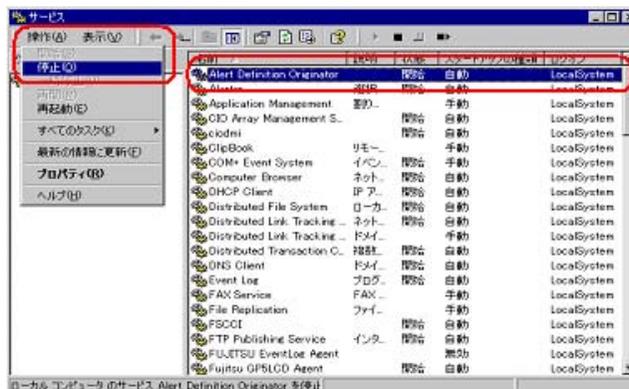
## ● PRIMERGY TS120 / TS220 / ES320 の場合

PRIMERGY TS120/TS220/ES320 をお使いの場合は、Servvisor/LDSM インストール後に、以下の設定を行ってください。

7 「Alert Defintion Originator」サービスを停止します。以下の操作を行ってください。

### Windows 2000 の場合

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。
2. 「Alert Defintion Originator」を選択し、「操作」メニューから「停止」を択します。



### Windows NT の場合

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. [サービス] をクリックします。
3. 「Alert Defintion Originator」を選択し、[停止] をクリックします。



- 2 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

PRIMERGY TS120/TS220 の場合

1. a: 【Enter】キー
2. cd ¥TSX20 【Enter】キー
3. TSX20>CHGINI I 【Enter】キー

PRIMERGY ES320 の場合

1. a: 【Enter】キー
2. cd ¥ES320 【Enter】キー
3. ES320>CHGINI I 【Enter】キー

### **D.3 アンインストール**

#### **V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合**

---

- 1 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD)、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
- 2 エクスプローラを起動し、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) 内の "Remcs¥Ldfloppy" フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。
  1. a: 【Enter】キー
  2. LDUINST 【Enter】キー「続行するときは何かキーを押してください。」のメッセージが表示されます。
- 4 【Enter】キーを押します。  
Servervisor/LDSM の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

- 5 CD-ROM ドライブに Servervisor/LDSM の CD-ROM (または ServerWizard の CD-ROM) をセットし、[OK] をクリックします。  
アンインストーラが起動し、以下の画面が表示されます。



- 6 「全てアンインストール」にチェックを付けて [OK] をクリックします。  
アンインストール完了後、再起動を促すメッセージが表示されます。
- 7 [キャンセル] をクリックします。
- 8 コマンドプロンプト画面に「フロッピーディスクと CD-ROM を抜いてシステムを再起動してください。」と表示されたら、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、システムを再起動します。  
再起動後、手順 3 を行い、Servervisor/LDSM がアンインストールされたことを確認してください。

## D.4 アンインストール V6.0 L10A/20/30 の場合

- 1 PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD)、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
- 2 エクスプローラを起動し、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD (REMCS エージェント CD) 内の "Remcs¥Ldfloppy" フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。
  1. a: 【Enter】キー
  2. LDUINST 【Enter】キー
 「続行するときには何かキーを押してください。」のメッセージが表示されます。

4 【Enter】キーを押します。

Servervisor/LDSM の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

5 CD-ROM ドライブに Servervisor/LDSM の CD-ROM（または ServerWizard の CD-ROM）をセットし、[OK] をクリックします。

「LDSM のマニュアル「お使いになる前に」に従い手動でインストールしてください。」のメッセージが表示されます。LDSM のマニュアルを参照し、インストールを行ってください。

 **重要**

▶ インストール完了後、ここではシステムを再起動しないでください。

6 コマンドプロンプト画面で、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

1. a: 【Enter】キー
2. RESTLDUN 【Enter】キー

7 表示されるメッセージに従って操作を行います。

「続行するときには何かキーを押してください・・・」のメッセージが表示されたら、【Enter】キーを押してください。

8 コマンドプロンプト画面に「フロッピーディスクと CD-ROM を抜いてシステムを再起動してください。」と表示されたら、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、システムを再起動します。

再起動後、手順 3 を行い、Servervisor/LDSM がインストールされたことを確認してください。

## E CE 設定

お客様装置の設置年月や、実施者（弊社作業員）の E-mail アドレスなどを設定します。設定した実施者 E-mail アドレス宛に、接続確認完了を通知するメールが届きます。

### 重要

- ▶ 初回設定された E-Mail アドレスが有効になります。変更はできません。

### POINT

- ▶ CE 設定は必須ではありません。設定されていなくてもサービスは運用できます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

「運用操作メニュー」画面が表示されます。

2 タイトルバー上で右クリックし、表示されたメニューから「CE 設定」を選択します。

「顧客情報入力画面（CE 設定項目）」が表示されます。



表：顧客情報入力画面

項目	説明
設置年月（西暦）	装置を設置した年月を西暦で入力します。
実施者 E-mail	実施者（弊社作業員）の E-mail アドレスを入力します。このアドレス宛にも、接続確認完了を通知するメールが届きます（英数記号 60 文字まで）。
顧客 No	お客様の顧客 No を入力します（英数記号 8 文字まで）。

3 各項目を設定し、[OK] をクリックします。

## F OS イベントログに出力される通知情報

OS イベントログに出力する通知情報について説明します。

### ■ メールを正常に送信できた時

表：メールを正常に送信できた時

出力先	アプリケーションログ
イベント ID	100
種別	情報
説明	(REMCS EVENT) RMSxxx…

### ■ メールを送信しようとしたがエラーが発生して失敗した時

表：メールを送信しようとしたがエラーが発生して失敗した時

出力先	アプリケーションログ
イベント ID	101
種別	エラー
説明	(REMCS ERROR) MpRm_…

メール送信の成功／失敗時のどのタイミングで出力するかは、「■ OS イベントログへの通知情報出力レベルの設定変更」(→ P.96)で行います。

正常にメール送信された場合は、センタに送信されるイベント文字列すべてが出力されます。エラー発生時は、使用した API とそのエラーコードが出力されます。

### 重要

- ▶ 出力される内容はメール送信時の通知情報のみで、他のエラー発生時や HTTP 通信の通知情報は出力しません。
- ▶ REMCS エージェントとしてエラー終了した場合でも "(REMCS EVENT)…" が記録されることがあります。

# 索引

## あ

アップデート	
ファームウェア.....	170
REMCS エージェント.....	170
アンインストール	
REMCS エージェント.....	166
Servervisor/LDSM.....	191

## い

インストール	
必要なもの.....	28
REMCS エージェント.....	35
Servervisor/LDSM.....	191
SNMP サービス.....	31
インストールの流れ	
一般サーバの場合.....	28
ブレードサーバの場合.....	29
FT サーバの場合.....	30
インターネット接続.....	12
インターネット接続 (メール).....	12

## う

REMCS エージェント	
上書きインストール.....	170

## お

オンラインアップデート	
ファームウェア.....	98
REMCS エージェント.....	101

## か

環境設定	
インターネット接続.....	46
インターネット接続 (メール).....	58
変更.....	93
P-P 接続 (ISDN).....	69
P-P 接続 (VPN).....	79

## こ

構成情報の送信.....	103
--------------	-----

## さ

サービスの開始	
インターネット接続.....	40
インターネット接続 (メール).....	52
P-P 接続 (ISDN).....	64

P-P 接続 (VPN).....	74
-------------------	----

## し

自動ダウンロード	
ファームウェア.....	98
収集結果	
一覧表示.....	122
削除.....	125
手操作で送信.....	125
REMCS センタへ送信.....	124
手動ダウンロード	
ファームウェア.....	99
REMCS エージェント.....	101
障害の通知.....	106
サーバ本体.....	106
I/O 装置.....	106
Servervisor V1.0 の場合.....	107
Servervisor V1.1 以降の場合.....	107
障害発生.....	106

## せ

接続の確認.....	104
------------	-----

## そ

ソフトウェア調査資料の外部記憶装置への保存 (SIRMS バージョン 1 の場合).....	177
ソフトウェア調査資料の管理 (SIRMS バージョン 1 の場合).....	179
ソフトウェア調査資料の削除 (SIRMS バージョン 1 の場合).....	181
ソフトウェア調査資料の収集.....	109
ソフトウェア調査資料の収集 (SIRMS バージョン 1 の場合).....	173
製品名一覧.....	174
ファイル名.....	175
保存場所.....	176
ソフトウェア調査資料の送信 (SIRMS バージョン 1 の場合).....	180
ソフトウェア調査資料のタイプ (SIRMS バージョン 1 の場合).....	177

## ち

調査資料.....	109
一括収集・送信.....	111
個別収集・送信.....	114
QSS 収集ツールの一覧表示.....	117

## て

定期接続時刻の変更	94
適用	
ファームウェア	99
REMCS エージェント	101
適用フロッピーディスク	100

## と

動作環境	15
トラブル	
アンインストール時	155
インストール時	134
運用操作メニュー	144
サービス開始時	137

## ほ

保守作業開始	108
保守作業終了	108

## め

メール分割設定の設定変更	96
--------------	----

## れ

レジストレーション	
インターネット接続	40
インターネット接続 (メール)	52
変更	93
P-P 接続 (ISDN)	64
P-P 接続 (VPN)	74

## E

E-mail 設定の変更	95
--------------	----

## F

FT モデル	
ソフトウェア調査調査資料収集・送信	119

## H

HTTP 設定の変更	94
------------	----

## O

OS イベントログへの通知情報出力レベルの設定変更	96
---------------------------	----

## P

P-P 接続 (ISDN)	13
P-P 接続 (VPN)	13

## Q

QSS 収集ツールの追加	131
--------------	-----

## R

REMCS エージェント	10, 35
上書きインストール	170
機能	11
特長	10
アップデート	170
メリット	11
REMCS エージェント環境チェックツール	157
格納場所	157
画面	157
資料収集	162
注意事項	164
HTTP チェック	161
SMTP チェック	159
REMCS エージェントのバージョン確認	165
REMCS センタとの接続形態	12
REMCS センタとの接続再開	102
REMCS センタとの接続停止	102
RSB	17
RSB 設定の変更	95

## S

SIMRS の起動	110
SIRMS の環境設定	126
ユーザー設定値の変更	127
QSS 収集ツール配置パスに追加	129
QSS 収集ツール配置パスの一覧表示	131
QSS 収集ツール配置パスから削除	130
SMB	182
サーバダウン監視の設定	186
サービス開始時の設定	184
H200/N400 の場合	182
SMB 監視エージェント機能を有効にする	187
SMB ドライバの起動	182
SMB ユーティリティの設定	184
SMB ログ監視エージェント機能を有効にする	189
SNMP サービス	31

---

REMCS エージェント 運用ガイド

(REMCS V3.1L24)

B7FH-4241-01 Z0-00

発行日 2006年2月

発行責任 富士通株式会社

---

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。